

もくじ

もくじ	1
はじめに	4

1 章 本体の機能

9

1 パソコンでテレビを見る	10
① TV チューナボックスの使用にあたって	11
② 「WinDVR」を使う	12
2 オーディオボタン	14
3 クイックプレイを使う	17
① クイックプレイとは	17
② 簡単操作で音楽 CD を聴く（クイック CD）	18
③ 簡単操作で DVD を再生する（クイック DVD）	22
④ クイックプレイの再インストール	32
4 リモコン	38
① リモコンについて	38
② 電池の取り付け／取りはずし	39
③ リモコンの各部名称	42
5 ディスプレイ	46
① ディスプレイの設定	46
② 高画質化処理	48
6 ハードディスクドライブ	52
7 サウンド機能	53
① スピーカーの音量を調整する	53
② 音楽／音声の録音レベルを調整する	54
③ サウンドのパワーマネージメントを設定する	55
8 ドライブ	56
① 使用できるメディアと対応するアプリケーション	57
② 使用できる CD	60
③ 使用できる DVD	61
④ DVD-RAM を使うときは	64

9	SD メモリカード	69
①	SD メモリカードについて	69
②	SD メモリカードのセットと取り出し	70
10	ワンタッチボタン	72

2章 通信機能

75

1	LAN へ接続する	76
①	ケーブルを使った LAN 接続（有線 LAN）	76
②	ケーブルを使わない LAN 接続（無線 LAN）	79
③	ネットワーク設定に便利な機能	90
2	内蔵モデムについて	92
①	海外でインターネットに接続する	92

3章 周辺機器の接続

93

1	周辺機器について	94
①	周辺機器を使う前に	95
2	PC カードを接続する	96
①	PC カードを使う前に	96
②	PC カードを使う	97
3	USB 対応機器を接続する	99
4	テレビを接続する	102
5	外部ディスプレイを接続する	108
6	モニタ入力を使う	110
7	i.LINK (IEEE1394) 対応機器を接続する	113
8	その他の機器を接続する	115
①	マイクロホン	115
②	ヘッドホン	116
③	オーディオ機器	117
④	アナログのビデオカメラやビデオデッキなど	118
9	メモリを増設する	119

4章 バッテリ駆動

125

1 バッテリについて	126
① バッテリ充電量を確認する	127
② バッテリを充電する	129
③ バッテリパックを交換する	132
2 省電力の設定をする	134
① 東芝省電力	134
3 パソコンの使用を中断する／電源を切る	135
① スタンバイ	136
② 休止状態	137
③ 簡単に電源を切る／パソコンの使用を中断する	138

5章 アプリケーションについて

141

1 アプリケーションを追加（インストール）する	142
2 アプリケーションを削除（アンインストール）する	143

6章 システム環境の変更

145

1 システム環境の変更とは	146
---------------------	-----

付録

147

1 本製品の仕様	148
2 クイックプレイ操作一覧	154
3 言語コード一覧	156
4 技術基準適合について	158
5 無線 LAN について	171
さくいん	179

はじめに

本製品を安全に正しく使うために重要な事項が、同梱の冊子『安心してお使いいただくために』に記載されています。必ずお読みになり、正しくお使いください。お読みになった後は、いつでも見られるようにお手元に大切に保管してください。

本書は、次の決まりに従って書かれています。

記号の意味

危険	“取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷（*1）を負うことがあり、その切迫の度合いが高いこと”を示します。
警告	“取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷（*1）を負うことが想定されること”を示します。
注意	“取扱いを誤った場合、使用者が傷害（*2）を負うことが想定されるか、または物的損害（*3）の発生が想定されること”を示します。
お願い	データの消失や、故障、性能低下を起こさないために守ってほしい内容、仕様や機能に関して知っておいてほしい内容を示します。
メモ	知っていると便利な内容を示します。
役立つ操作集	知っていると役に立つ操作を示します。
参照	このマニュアルや他のマニュアルへの参照先を示します。 このマニュアルへの参照の場合 …「」 他のマニュアルへの参照の場合 …『』 サイバーサポート、できる dynabookへの参照の場合 …《》 サイバーサポートにはさまざまな情報が搭載されており、自然語で検索できます。

* 1 重傷とは、失明やけが、やけど（高温・低温）、感電、骨折、中毒などで、後遺症が残るものおよび治療に入院・長期の通院を要するものをさします。

* 2 傷害とは、治療に入院や長期の通院を要しないけが・やけど・感電などをさします。

* 3 物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペット等にかかる拡大損害をさします。

用語について

本書では、次のように定義します。

システム 特に説明がない場合は、使用しているオペレーティングシステム(OS)を示します。本製品のシステムはWindows XPです。

アプリケーションまたはアプリケーションソフト

アプリケーションソフトウェアを示します。

Windows XP Microsoft® Windows® XP Home Edition operating system 日本語版を示します。

MS-IME Microsoft® IME 2003／ナチュラルインプット 2003を示します。

サイバーサポート

CyberSupport for TOSHIBAを示します。

ドライブ DVDスーパーマルチドライブを示します。

参照 ➤ 詳細について「1章 8 ドライブ」

TV チューナボックス同梱モデル

TV チューナボックスが同梱されているモデルを示します。

記載について

- 記載内容によっては、一部のモデルにのみ該当する項目があります。その場合は、「用語について」のモデル分けに準じて、「＊＊＊＊モデルのみ」と注記します。
- インターネット接続については、内蔵モデムを使用した接続を前提に説明しています。
- アプリケーションについては、本製品にプレインストールまたは同梱の CD/DVD からインストールしたバージョンを使用することを前提に説明しています。
- 本書に記載している画面やイラストは一部省略したり、実際の表示とは異なる場合があります。

Trademarks

- Microsoft、Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
- CyberSupport は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。
- CyberSupport は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、CyberSupport にかかる著作権、その他の権利は株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。
- i.LINK は商標です。
- Fast Ethernet、Ethernet は富士ゼロックス社の商標または登録商標です。
- LaLaVoice、ConfigFree は(株)東芝の登録商標です。
- Adobe、Adobe Reader は Adobe Systems Incorporated (アドビ システムズ社) の米国ならびに他の国における商標です。

- ・ Symantec は Symantec Corporation の登録商標です。
Norton Internet Security は Symantec Corporation の商標です。
©2004 Symantec Corporation. All Rights Reserved.
- ・ InterVideo、WinDVD、WinDVD Creator は InterVideo, Inc. の登録商標または商標です。
- ・ ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。
Dolby、ドルビーおよびダブル D 記号は Dolby Laboratories の商標です。
非公開機密著作物。著作権 1992-1997 年 Dolby Laboratories。不許複製。
- ・ Sonic RecordNow! は Sonic Solutions の登録商標です。
- ・ 「できる」は、株式会社インプレスの登録商標です。

取扱説明書に掲載の商品の名称は、それぞれ各社が商標および登録商標として使用している場合があります。

インテル Centrino モバイル・テクノロジについて

次の 3 つのコンポーネントを搭載したパソコンをインテル Centrino モバイル・テクノロジ搭載と呼びます。

- ・ インテル Pentium M プロセッサ
- ・ インテル 855 チップセット ファミリ
- ・ インテル PRO/Wireless ネットワーク・コネクション

プロセッサ (CPU) に関するご注意

本製品に使われているプロセッサ (CPU) の処理能力は次のような条件によって違いが現れます。

- ・ 周辺機器を接続して本製品を使用している場合
- ・ AC アダプタを接続せずバッテリ駆動にて本製品を使用する場合
- ・ マルチメディアゲームや特殊効果を含む映像を本製品にてお楽しみの場合
- ・ 本製品を通常の電話回線、もしくは低速度のネットワークに接続して使用する場合
- ・ 複雑な造形に使用するソフト（例えば、運用に高性能コンピュータが必要に設計されているデザイン用アプリケーションソフト）を本製品上で使用する場合
- ・ 気圧が低い高所にて本製品を使用する場合
目安として、標高 1,000 メートル (3,280 フィート) 以上をお考えください。
- ・ 目安として、気温 5 ~ 35°C (高所の場合 25°C) の範囲を超えるような外気温の状態で本製品を使用する場合

本製品のハードウェア構成に変更が生じる場合、CPU の処理能力が実際には仕様と異なる場合があります。

また、ある状況下においては、本製品は自動的にシャットダウンする場合があります。これは、当社が推奨する設定、使用環境の範囲を超えた状態で本製品が使用された場合、お客様のデータの喪失、破損、本製品自体に対する損害の危険を減らすための

通常の保護機能です。なお、このようにデータの喪失、破損の危険がありますので、必ず定期的にデータを外部記録機器にて保存してください。また、プロセッサが最適の処理能力を発揮するよう、当社が推奨する状態にて本製品をご使用ください。この他の使用制限事項につきましては取扱説明書をお読みください。また、詳細な情報については東芝 PC ダイヤル 0570-00-3100 にお問い合わせください。

著作権について

音楽、映像、コンピュータ・プログラム、データベースなどは著作権法により、その著作者及び著作権者の権利が保護されています。こうした著作物を複製することは、個人的にまたは家庭内で使用する目的でのみ行うことができます。上記の目的を超えて、権利者の了解なくこれを複製（データ形式の変換を含む）、改変、複製物の譲渡、ネットワーク上での配信などを行うと、「著作権侵害」「著作者人格権侵害」として損害賠償の請求や刑事处罚を受けることがあります。本製品を使用して複製などをする場合には、著作権法を遵守のうえ、適切な使用を心がけてください。

リリース情報について

「リリース情報」には、本製品を使用するうえでの注意事項などが記述されています。必ずお読みください。次の操作を行うと表示されます。

- ① [スタート] → [すべてのプログラム] → [はじめに] → [リリース情報] をクリックする

アナログ放送からデジタル放送への移行について

デジタル放送への移行スケジュール

地上デジタル放送は、関東、中京、近畿の三大広域圏の一部で2003年12月から開始され、その他の地域でも、2006年末までに放送が開始される予定です。該当地域における受信可能エリアは、当初限定されていますが、順次拡大される予定です。地上アナログ放送は2011年7月に、BSアナログ放送は2011年までに終了することが、国の方針として決定されています。

コピーワンスについて

2004年4月1日より、NHKや民放連の地上／BSデジタル放送には、著作権保護の目的から、「コピーワンス」という1回だけ録画が可能になるコピー制御信号が加えられています。コピーワンスはDVDのCPRM（Content Protection for Recordable Media）規格を使用しています。NHKや民放連の地上／BSデジタル放送の番組を録画した、DVD-RAM、DVD-RWメディアの再生はできません。また、DVD-R、DVD+R、DVD+RWメディアは、CPRM規格に対応していないため、録画することもできません。

お願い

- ・本製品の内蔵ハードディスクにインストールされているシステム（OS）、アプリケーション以外をインストールした場合の動作保証はできません。
- ・Windowsのツールまたは『困ったときは』に記載している手順以外の方法で、パーティションを変更・削除・追加しないでください。ソフトウェアの領域を壊すおそれがあります。
- ・セキュリティ対策を施さず、あるいは、無線LANの仕様上やむを得ない事情によりセキュリティの問題が発生してしまった場合、弊社は、これによって生じた損害に対する責任を負いかねます。
- ・内蔵ハードディスクにインストールされているシステム（OS）、アプリケーションは、本製品でのみ利用できます。
- ・購入時に定められた条件以外で、製品およびソフトウェアの複製もしくはコピーをすることは禁じられています。取り扱いには注意してください。
- ・パスワードを設定した場合は、忘れたときのために必ずパスワードを控えておいてください。パスワードを忘れてしまって、パスワードを削除できなくなったりた場合は、使用している機種を確認後、近くの保守サービスに依頼してください。パスワードの解除を保守サービスに依頼する場合は、有償です。またそのとき、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要となります。
- ・ご使用の際は必ず本書をはじめとする取扱説明書と『エンドユーザ使用許諾契約書』および『ソフトウェアに関する注意事項』をお読みください。
- ・クイックプレイの動作中は、自動的に電源を入れる機能を使ってシステムを起動することはできません。タイマー予約なども実行できませんので、ご注意ください。

本製品のお客様登録（ユーザ登録）をあらかじめ行っていただくようお願いしております。本体同梱の『お客様登録カード』またはインターネット経由で登録できます。

参考 ➤ 詳細について『さあ始めよう 5章 2 お客様登録をする』

『保証書』は記入内容を確認のうえ、大切に保管してください。

1 章

本体の機能

このパソコン本体の各部について、役割、基本の使いかたなどを説明しています。

1	パソコンでテレビを見る	10
2	オーディオボタン	14
3	クイックプレイを使う	17
4	リモコン	38
5	ディスプレイ	46
6	ハードディスクドライブ	52
7	サウンド機能	53
8	ドライブ	56
9	SDメモリカード	69
10	ワンタッチボタン	72

1 パソコンでテレビを見る

TVチューナーボックス同梱モデルのTVチューナーボックスと、「WinDVR」を使ってテレビ番組をパソコン画面に表示したり、録画することができます。また、録画した番組を編集したりDVDに保存したりすることもできます。

ワインディープイアール



ここでは「WinDVR」を使って、パソコンでテレビ番組を見たり録画したりするときの準備について説明します。

1) TVチューナーボックスの使用にあたって

【アンテナについて】

- 画像や音声の品質はアンテナの電波受信状況によって大きく左右されます。
- 電波の弱い地域で、受信状態が悪い場合は購入店にご相談されるか、市販のアンテナブースターをご利用ください。アンテナブースターのご使用方法は、アンテナブースター付属の説明書をご覧ください。

【大切な録画・録音・編集について】

- 大切な録画・録音・編集の場合は、事前に試し録画・録音・編集を行い、正しくできることを確かめてください。
- 放送チャンネルや番組によっては、音量オーバーすると音が割れたり、飛んだりすることがあります。必要に応じて調整してください。

【テレビ視聴と録画について】

- バッテリ駆動で使用中にテレビ視聴や録画を行うと、バッテリの消耗などによって画像がコマ落ちするおそれがあります。必ずACアダプタを接続して、使用してください。

また、本製品の省電力機能が実行されないようにしてください。

 省電力機能について「4章 2 省電力の設定をする」

- 録画中や再生中にパソコン本体に振動や衝撃を加えると、映像が途切れたり、停止したりしてしまうことがあります。
- ビデオデッキでビデオテープを再生して本製品に入力する場合、古いテープなどノイズが多いテープを使用すると、コピープロテクト機能が働いて正常に動作しない場合があります。
- CATV番組の受信には、使用する機器ごとにCATV会社との受信契約が必要です。また、スクランブルのかかった番組（有料放送など）の視聴・録画にはホームターミナル（アダプタ）が必要になる場合があります。詳しくは、ホームターミナルに添付の説明書をご覧になるか、各CATV会社にお問い合わせください。

【対応する地域について】

- 日本国外ではご使用になれません。日本国内でご使用ください。

2 「WinDVR」を使う

お願い WinDVR の使用にあたって

- 「WinDVR」で録画されたテレビ番組などは、個人で楽しむ目的だけに使用できます。
- 「WinDVR」動作中は画面解像度、色数の設定変更を行わないでください。
- 「WinDVR」動作中はTVチューナーボックスのUSBケーブルをパソコンから抜いたり、TVチューナーボックスの電源を抜いたりしないでください。「WinDVR」が操作できなくなります。操作できなくなった場合は、パソコンを再起動するか、[Windowsタスクマネージャ]から「WinDVR」を終了してください。

参照 終了方法

『困ったときは 3 章 アプリケーション -

Q アプリケーションが操作できなくなつた』

- パソコンの電源がオフの場合、予約録画を実行できません。
- パソコンがログオフ状態の場合は予約録画を実行できません。
- 予約録画を設定する場合は、必ず録画可能時間を確認して行ってください。
- 「WinDVR」を使用するとき（再生、録画、予約録画など）は、必ずACアダプタを使用してパソコン本体を電源に接続して使用してください。バッテリ駆動で使用すると、バッテリの消耗などにより、録画が失敗したり、音が飛んだりするおそれがあります。
- 使用状況やシーンによっては映像がスムーズに再生されない場合があります。
- 他のアプリケーションが動作していると、音飛びが発生したり、映像が正しく表示されないなど、正常に動作しない場合があります。「WinDVR」の動作中は、他のアプリケーションを終了してください。
- 著作権保護されているコンテンツは録画することができます。
- 録画ボタンをクリックして録画している間に予約録画の開始時間になると、通常録画が止まり、保存名を入力する画面が表示されます。
保存名を入力して [OK] ボタンをクリックするか、キャンセルするまで予約録画は始まりません。
- テレビ番組、ビデオデッキやアナログのビデオカメラのテープの映像を録画・取り込みし、編集するときは、まず「WinDVR」を使用して映像を取り込み、その後「WinDVD Creator 2 Platinum」で編集してください。「WinDVR」と「WinDVD Creator 2 Platinum」の使いかたについては、同梱の『InterVideo WinDVR ユーザーズ・マニュアル』と『InterVideo WinDVD Creator 2 Platinum ユーザーズ・マニュアル』をご覧ください。

1 起動方法

1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [InterVideo WinDVR] → [InterVideo WinDVR] をクリックする

「WinDVR」の使いかたについては、同梱の『InterVideo WinDVR ユーザーズ・マニュアル』をご覧ください。

バッテリ駆動で使用中にテレビ視聴や録画を行うと、バッテリの消耗などによって画像がコマ落ちするおそれがあります。必ず AC アダプタを電源コンセントに接続して、使用してください。

また、本製品の省電力機能が実行されないようにしてください。

 省電力機能について「4章 2 省電力の設定をする」

メモ

- TV チューナボックス同梱モデルの場合、リモコンでチャンネルを変更することができます。[10/O] ボタンは「0 (ゼロ)」として動作します。[11]、[12] ボタンは本製品ではサポートしておりません。2桁のチャンネルを指定する場合は、数字ボタンを1つずつ押してください。例えば、「10」を選択するときは [1] と押し、「WinDVR」画面左上の「1」表示が消えた直後に [10/O] を押すと画面左上の表示が「10」になり、その後画面が切り替わります。

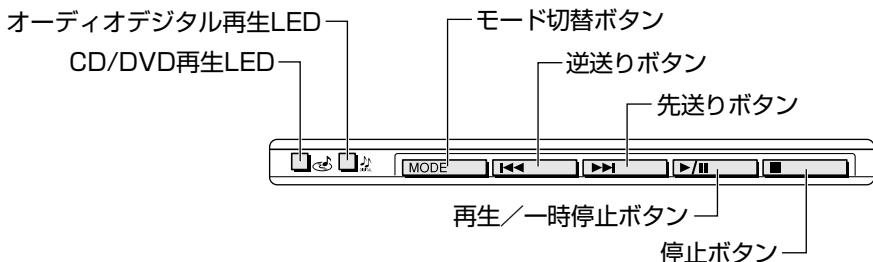
2 ヘルプの起動方法

1 WinDVR コントロールパネルの [ヘルプ] ボタン () をクリックする

 「WinDVR」の問い合わせ先 『dynabook 図解で読むマニュアル』

2 オーディオボタン

パソコン本体に電源が入っているときに、オーディオボタンを使って音楽CDやDVD、音楽ファイルの再生などの操作が行えます。



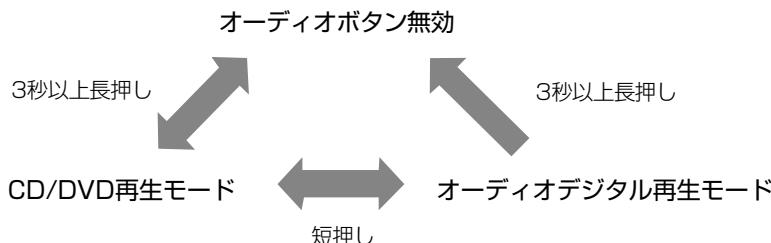
パソコン本体に電源を入れたときは、音楽CDやDVDを再生するCD/DVD再生モードです。

ボタンの機能

それぞれのボタンの機能は、次のようにになっています。

【モード切替ボタン】

モードを切り替えます。押す長さによって、次のように切り替わります。



【逆送りボタン】

- 「BeatJam」の場合

再生中に押すと、トラックの先頭から再生します。再生中でも、トラックが始まった直後の場合は、1つ前のトラックを再生します。

- 「Windows Media Player」「InterVideo WinDVD」の場合
再生するトラック／チャプタを1つ戻します。

【先送りボタン】

再生するトラック／チャプタを1つ進めます。

【再生／一時停止ボタン】

そのとき操作しているアプリケーションを、一時停止または一時停止解除します。このボタンは、「Beat Jam」「Windows Media Player」「WinDVD」に対して、操作可能です。「Beat Jam」と「Windows Media Player」の両方を起動している場合は、「東芝コントロール」で設定されているアプリケーションにのみ有効です。音楽CDやDVD、音楽ファイルを再生していない場合は、「東芝コントロール」で設定されているアプリケーションを起動し、再生を行います。

購入時の設定では、次のアプリケーションが起動します。

ドライブに音楽CDがセットされている場合 : 「BeatJam」

ドライブにDVD-Videoがセットされている場合 : 「InterVideo WinDVD」

ドライブに何もセットされていない場合 : 「BeatJam」

【停止ボタン】

そのとき操作しているアプリケーションを、停止します。このボタンは、「Beat Jam」「Windows Media Player」「WinDVD」に対して、操作可能です。「Beat Jam」と「Windows Media Player」の両方を起動している場合は、「東芝コントロール」で設定されているアプリケーションにのみ有効です。

モードの確認と動作

モードはLEDで確認することができます。また、それぞれのモードで行う動作は次のとおりです。

モード	点灯 LED	動作
CD/DVD 再生モード	CD/DVD 再生  LED	CD／DVDを再生できます。
オーディオデジタル 再生モード	オーディオデジタル 再生  LED	音楽ファイルを再生できます。

LEDが消灯しているときは、オーディオボタンは無効（使用できない状態）です。

1 操作するアプリケーションを変更する

オーディオボタンを使用したときに操作するアプリケーションを設定します。

- 1 [コントロールパネル] を開き、[プリンタとその他のハードウェア] をクリックする
- 2 [東芝コントロール] をクリックする
[東芝コントロールのプロパティ] 画面が表示されます。
- 3 [メディアアプリケーション] タブで変更するモードの右の ▾ ボタンをクリックする
CD/DVD 再生モードの場合は [CD オーディオコントロール] と [DVD ビデオコントロール]、オーディオデジタル再生モードの場合は [オーディオ / ビデオコントロール] で設定します。



- 4 アプリケーションを選択して、[OK] ボタンをクリックする

3 クイックプレイを使う

本製品には、CD／DVD再生のために「クイックプレイ」が用意されています。ここでは、クイックプレイについて説明します。

【表記について】

本節でクイックプレイの操作を説明するうえで、次の記号を使用します。

 リモコン：TVチューナーボックス同梱モデルに同梱のリモコンからの操作を示します。

 キーボード：パソコン本体のキーボードからの操作を示します。

1) クイックプレイとは

クイックプレイを使うと、CD／DVD再生が簡単にできます。

「パソコンに電源を入れる」→「CD／DVD再生のアプリケーションを起動する」といった操作をすることなく、ボタンやキーを押すだけで、CD／DVDを再生できます。

クイックプレイで音楽CDの再生をすることを「クイックCD」、DVDの再生をすることを「クイックDVD」と呼びます。

【クイックプレイの使用にあたって】

クイックプレイは、次の状態のときに起動できます。

- ・電源が入っていないとき
- ・休止状態のとき

Windowsは、クイックプレイを終了してからのみ、起動できます。

 クイックプレイの起動と終了

「本節 ② 簡単操作で音楽CDを聴く（クイックCD）」

「本節 ③ 簡単操作でDVDを再生する（クイックDVD）」

メモ

- クイックプレイを使用中に、リモコンやキーボードから操作しても効かなくなったりした場合には、パソコン本体の電源スイッチを5秒以上押して強制終了し、起動し直してください。

クイックプレイに関する表示

クイックプレイ使用中は、CD/DVD再生 LED が点灯します。



2 簡単操作で音楽 CD を聴く（クイック CD）

お願い クイック CD の使用にあたって

- 汚れや傷のある CD は、再生できない場合があります。また汚れや傷がひどいと、CDを取り出せなくなる場合もあります。イジェクトホールを使用して CD を取り出してください。

参照 → イジェクトホール『さあ始めよう 2章 4-② CD／DVD の取り出し』

1 起動方法

1 リモコンの [CD/DVD] ボタン、またはパソコン本体のクイックプレイボタンを押す

メディアのセットをうながすメッセージが表示されます。

音楽 CD がドライブにセットされている状態でこの操作を実行すると、自動的に再生が始まります。

2 ドライブに音楽 CD をセットする

参照 → CD のセット『さあ始めよう 2章 4-① CD／DVD のセット』

音楽 CD の再生が始まります。

音楽 CD の再生が開始されるまで、時間がかかる場合があります。

2 停止／終了方法

音楽 CD の再生を停止する場合は、次のように操作します。

1 リモコンの [停止] ボタン、またはキーボードの **[Ctrl]+[Space]** キーを押す

④キーを押すとドライブからディスクトレイが出てきて、CD を取り出せます。

参照 → CD の取り出し『さあ始めよう 2章 4-② CD／DVD の取り出し』

クイック CD を終了する場合は、次のように操作します。

1 リモコンの【電源】ボタン、またはパソコン本体の電源スイッチを押す

電源オフまたは Windows の休止状態になります。

クイック DVD に切り替えるには、ドライブに DVD をセットしてください。

3 リモコンまたはキーによる操作方法

クイック CD の操作は、キーボードから実行できます。TV チューナボックス同梱モデルは、リモコンでも操作できます。

リモコンのボタン名称については、「本章 4-③ リモコンの各部名称」をご覧ください。

【再生／一時停止】

音楽 CD を再生／一時停止するには、次のように操作してください。



[再生／一時停止] ボタンを押す



[Space]キーを押す

1 度押すと一時停止し、もう 1 度押すと再生に戻ります。

【再生する曲の選択】

再生する曲を選択するには、次のように操作してください。



[1] ~ [10/0] ボタンを押す

このとき、[11] [12] ボタンは使用できません。[10/0] ボタンは「0 (ゼロ)」と認識されます。



数字キーを押す

再生したい曲の番号が 2 行の場合は、その番号を入力すると再生されます。曲の番号が 1 行の場合は、次のいずれかを実行してください。

- 再生したい曲の番号を入力し、[決定] ボタン（）または[Enter]キー（）を押す
- 再生したい曲の番号を入力し、2 秒待つ

曲の番号を入力した後に[Esc]キー（）を押すと、曲番号の入力はキャンセルされます。

【画面の明るさを調整する】

画面の明るさを調整するには、次のように操作してください。



[輝度△] ボタン：1段階明るくなる

[輝度▽] ボタン：1段階暗くなる



[Fn]+[F6]キー：1段階暗くなる

[Fn]+[F7]キー：1段階明るくなる

この操作をすると、画面にはそのときの明るさレベルが表示されます。

【音量を調整する】

画面にはそのときの音量レベルが表示されています。

音楽CDを聴いているときに音量を調整するには、次のように操作してください。



[音量+] ボタン：1段階音量が大きくなる

[音量-] ボタン：1段階音量が小さくなる



[Ctrl]+[↑]キー：1段階音量が大きくなる

[Ctrl]+[↓]キー：1段階音量が小さくなる

パソコン本体のボリュームダイヤルでも、音量を調整することができます。

参照 ボリュームダイヤルについて

「本章 7-① スピーカーの音量を調整する」

【消音（ミュート）する】

音楽CDを聴いているときに一時的に音を消すには、次のように操作してください。



[ミュート] ボタンを押す



[M]キーを押す

一度押すと消音し、もう一度押すと消音する前の音量レベルに戻ります。消音中に音量を調整すると消音は解除され、消音前の音量レベルから調整されます。

【再生モードの変更】

音楽 CD を聴くとき、次の中から再生モードを選択できます。

再生モード	切替えキー	内 容
通常再生	—	CD の 1 曲目から順番に最後の曲まで再生する
1 曲リピート*1	(Ctrl)+(R)	そのとき再生対象となっている曲を、繰り返し再生する
Disc リピート*1	(Ctrl)+(R)	CD の 1 曲目から順番に最後の曲まで再生した後、また 1 曲目から繰り返し再生する
シャッフル再生*2	(Ctrl)+(S)	CD に収録されている通りではなく、曲の順番をシャッフルして再生する

* 1 (Ctrl)+(R) を 1 回押すごとに、次のように切り替わります。

通常再生（標準値） → 1 曲リピート → Disc リピート → 通常再生…

* 2 (Ctrl)+(S) を 1 回押すごとに、シャッフル再生する／しないが切り替わります。

【曲のスキップ】

音楽 CD を聴いているときに再生している曲をスキップするには、次のように操作してください。

1 曲単位のスキップ



[▶▶] ボタン：再生する曲を 1 つ進める

[◀◀] ボタン：曲の再生が始まって 2 秒未満に押すと、再生する曲を 1 つ戻す
2 秒以上たってから押すと、再生中の曲の先頭から再生する



[①] キー：再生する曲を 1 つ進める

[⑤] キー：曲の再生が始まって 2 秒未満に押すと、再生する曲を 1 つ戻す
2 秒以上たってから押すと、再生中の曲の先頭から再生する

10 秒単位のスキップ



[▶▶] ボタン：再生している個所から約 10 秒進める

[◀◀] ボタン：再生している個所から約 10 秒戻す



[⑥] キー：再生している個所から約 10 秒進める

[④] キー：再生している個所から約 10 秒戻す

【表示モードの切替え】

音楽CDを聴いているとき、表示モードを次のいずれかに切り替えることができます。

- 現在再生している曲の再生時間／現在再生している1曲の演奏時間(標準値)
- ディスクの先頭からの再生時間／ディスク全体の演奏時間

切り替えるには、次のように操作してください。



[表示] ボタンを押す



[D]キーを押す

キーガイドの表示

キーガイドを画面下部に表示できます。

1 キーボードの[F1]キーを押す

1回押すごとに、表示／非表示が切り替わります。

3 簡単操作でDVDを再生する（クイックDVD）

お願い　クイックDVDの使用にあたって

- DVDは、制作者側の意図により再生状態が決められていることがあります。クイックDVDはディスク制作者が意図した内容に従って再生をするため、操作した通りに動作しないことがあります。
- 操作中に「○」が画面に表示されることがあります。「○」が表示されたときは、クイックDVDまたはDVD-Videoがその操作を禁止しています。
- 再生するDVDに付属の説明書もあわせてお読みください。
- DVDの再生はRegionコードが「2」、「ALL」のものをご使用ください。
- 再生するDVDのタイトルによっては、コマ落ちまたは音飛びする場合があります。
- 内部液晶ディスプレイでのみ再生できます。外部映像出力はサポートしていません。
- パレンタルコントロールが設定されたDVDタイトルでは、DVD-Videoであらかじめ設定されているシーンが再生されます。
- Video CD、DVD-Audio、-VRまたは+VRフォーマットで保存されたデータの再生はサポートしていません。また、ファイナライズされていないメディア、MPEGやDivXなどのファイル再生もサポートしていません。
- ClosedCaptionの表示は行いません。

- 音声は必ず2ch出力されます。
- DTS、SDDSの音声を含むタイトルの場合、再生しても音声は出力されません。
- カラオケモードには対応していません。
- 連続して操作をする場合は、直前の動作が完了してから次の操作をしてください。動作が完了する前に次の操作をすると、目的の動作をしない場合があります。
- 汚れや傷のあるDVDは、再生できない場合があります。また汚れや傷がひどいと、DVDを取り出せなくなる場合もあります。イジェクトホールを使用してDVDを取り出してください。

 イジェクトホール

『さあ始めよう 2章 4-② CD／DVDの取り出し』

1 起動方法

1 リモコンの【CD/DVD】ボタン、またはパソコン本体のクイックプレイボタンを押す

メディアのセットをうながすメッセージが表示されます。

DVD-Videoがドライブにセットされている状態でこの操作を実行すると、自動的に再生が始まります。

2 ドライブにDVDをセットする

 DVDのセット

『さあ始めよう 2章 4-① CD／DVDのセット』

DVD-Videoの再生が始まります。

DVDの再生が開始されるまで、時間がかかる場合があります。

2 停止／終了方法

DVDの再生を停止する場合は、次のように操作します。

1 リモコンの【停止】ボタン、またはキーボードの【Ctrl】+【Space】キーを押す

続き再生が可能な状態にしておけば、再生を停止した個所からその続きを再生できます。

 続き再生について「本項 3- 続き再生」

⑤キーを押すとドライブからディスクトレイが出てきて、DVDを取り出せます。

 DVDの取り出し

『さあ始めよう 2章 4-② CD／DVDの取り出し』

クイック DVD を終了する場合は、次のように操作します。

1 リモコンの【電源】ボタン、またはパソコン本体の電源スイッチを押す

電源オフまたは Windows の休止状態になります。

クイック CD に切り替えるには、ドライブに音楽 CD をセットしてください。

3 リモコンまたはキーによる操作方法

クイック DVD の操作は、キーボードから実行できます。TV チューナボックス同梱モデルは、リモコンでも操作できます。

リモコンのボタン名称については、「本章 4-③ リモコンの各部名称」をご覧ください。

【DVD メニュー表示】

DVD に用意されているメニューを表示するには、次のように操作してください。



[DVD メニュー] ボタンを押す



[F8]キーまたは[F9]キーを押す

[F8]キーを押した場合はトップメニュー、[F9]キーを押した場合はメニューが表示されます。

メニューで再生したいタイトルやチャプタを選択するには、次のように操作してください。



矢印ボタンで選択し、[決定] ボタンで再生を開始する



矢印キーで選択し、[Enter]キーで再生を開始する

DVD には構造によってさまざまなメニューが用意されています。この操作をしたときに表示されるメニューは、DVD によって異なります。

【再生／一時停止】

DVDを再生／一時停止するには、次のように操作してください。



[再生／一時停止] ボタンを押す



(Space)キーを押す

1度押すごとに再生／一時停止が切り替わります。

【続き再生】

前回再生を停止した箇所から、その続きを再生できます。画面に「[再生] を押すと、続き再生」と表示されている状態で、次のように操作してください。



[再生／一時停止] ボタンを押す



(Space)キーを押す

次のような場合は、続き再生できません。

- ・電源を切った
 - ・前回再生停止した後、設定メニューから設定を変更した
 - ・DVDをドライブから取り出した
 - ・再生しているDVDが、続き再生機能に対応していない
- など

【再生するタイトルの選択】

再生するタイトルを選択するには、次のように操作してください。



①キーを押した後、再生したいタイトル番号の数字キーを押す

再生するDVDによっては、本機能は動作しない場合があります。

【再生するチャプタの選択】

再生するチャプタを選択するには、次のように操作してください。



[1]～[10/0]ボタンを押す

このとき、[11] [12] ボタンは使用できません。[10/0] ボタンは「0（ゼロ）」と認識されます。

キーボード

数字キーを押す

再生したいチャプタの番号が2桁の場合は、その番号を入力すると再生されます。

チャプタの番号が1桁の場合は、次のいずれかを実行してください。

- 再生したいチャプタの番号を入力し、[決定] ボタン (リモコン) または Enter キー (キーボード) を押す

- 再生したいチャプタの番号を入力し、2秒待つ

再生するDVDによっては、本機能は動作しない場合があります。

【早送り／早戻し再生】

再生画面を表示しながら早送り／早戻しするには、DVD再生中に次のように操作してください。

リモコン

[▶▶] ボタン：早送り再生する

[◀◀] ボタン：早戻し再生する

キーボード

[▷]キー：早送り再生する

[◁]キー：早戻し再生する

同じ操作を続けて行うと、早送りまたは早戻し速度が変わります。例えば早送り再生中に [▶▶] ボタン (リモコン) または [▷]キー (キーボード) を続けて押すと、1回押すたびに早送りの速度が変わります。

通常再生に戻すには、[再生／一時停止] ボタン (リモコン) または Space キー (キーボード) を押します。

【チャプタのスキップ】

DVDを再生しているときにチャプタをスキップするには、次のように操作してください。

リモコン

[▶▶] ボタン：1つ先のチャプタの先頭から再生する

[◀◀] ボタン：再生中のチャプタの先頭から再生する

続けて2回押すと、1つ前のチャプタの先頭から再生する

キーボード

[L]キー：1つ先のチャプタの先頭から再生する

[K]キー：チャプタの先頭から再生する

続けて2回押すと、1つ前のチャプタの先頭から再生する

DVDのタイトルによって、動作内容は異なる場合があります。

【秒単位のスキップ】

DVDを再生しているときに秒単位でスキップするには、次のように操作してください。



- [スキップ] ボタン：再生している個所から約30秒進む
- [リプレイ] ボタン：再生している個所から約10秒戻る



- [Ctrl]+[L]キー：再生している個所から約30秒進む
- [Ctrl]+[K]キー：再生している個所から約10秒戻る

DVDの仕様や再生状態によっては、リプレイができない場合があります。

【スロー再生】

DVDをスロー再生します。



再生中に[Y]キーを押す

スロー再生中に[Y]キー（[キーボード]）を続けて押すと、1回押すたびに再生速度が変わります。

通常再生に戻すには、[再生／一時停止]ボタン（[リモコン]）または[Space]キー（[キーボード]）を押します。

【再生アングルの選択】

DVDによっては、複数のカメラアングル（角度）からの映像が用意されています。このアングルを切り替えて再生するには、DVD再生中に次のように操作してください。



[アングル] ボタンを押す



[G]キーを押す

現在のアングル番号が表示されます。アングル番号が表示されているときにこの操作をすると、1回押すごとに、DVDに用意されているアングルが切り替わります。アングル番号は、操作してから数秒たつと消えます。

メモ

- DVDによっては、アングルを切り替えてもすぐに映像が切り替わらない場合があります。
- 早送りまたは早戻し中は、アングルを切り替えることができません。

【字幕の選択】

DVDによっては字幕が用意されていて、再生画面に表示できます。複数の言語で字幕が用意されているDVDの場合は、表示したい字幕を選択できます。
DVD再生中に次のように操作してください。



[字幕] ボタンを押す



(S)キーを押す

画面に現在の字幕情報が表示されます。1回押すごとに、DVDに用意されている字幕が切り替わります。字幕なしにすることもできます。

メモ

- DVDによっては、自動的に字幕が表示されます。
- 再生している個所によっては、字幕表示の操作をしてもすぐには字幕が表示されないことがあります。
- DVDによっては、字幕の言語や表示／非表示の切替えを、メニューで選択できます。

【音声を切り替える】

DVDによっては、複数の音声（吹き替え）が用意されています。音声を切り替えるには、DVD再生中に次のように操作してください。



[音声／音多] ボタンを押す



(A)キーを押す

画面に現在の音声情報が表示されます。1回押すごとに、DVDに用意されている音声が切り替わります。

メモ

- DVDによっては、音声の言語の切替えを、メニューで選択できます。

【画面の明るさを調整する】

画面の明るさを調整するには、DVD再生中に次のように操作してください。



[輝度△] ボタン：1段階明るくなる

[輝度▽] ボタン：1段階暗くなる



[Fn]+[F6]キー：1段階暗くなる

[Fn]+[F7]キー：1段階明るくなる

この操作をすると、画面にはそのときの明るさレベルが表示されます。

【音量を調整する】

音量を調整するには、DVD再生中に次のように操作してください。



[音量+] ボタン：1段階音量が大きくなる

[音量-] ボタン：1段階音量が小さくなる



[Ctrl]+[↑]キー：1段階音量が大きくなる

[Ctrl]+[↓]キー：1段階音量が小さくなる

この操作をすると、画面にはそのときの音量レベルが表示されます。

パソコン本体のボリュームダイヤルでも、音量を調整することができます。

ボリュームダイヤルについて

「本章 7-① スピーカーの音量を調整する」

【消音（ミュート）する】

DVDを再生しているときに一時的に音を消すには、次のように操作してください。



[ミュート] ボタンを押す



[M]キーを押す

一度押すと消音し、もう一度押すと消音する前の音量レベルに戻ります。消音中に音量を調整すると消音は解除され、消音前の音量レベルから調整されます。

【表示の切替え】

DVDを再生しているとき、チャプタの再生時間やタイトル番号を表示することができます。次のように操作してください。



[表示] ボタンを押す



[D]キーを押す

1回押すと現在の状態、タイトル番号、チャプタ番号、時間を表示し、もう1回押すと非表示になります。

再生しているシーンによって、表示される項目は異なります。

4 各種設定

DVD設定メニューでは、DVDを再生するうえでのさまざまな設定をすることができます。

DVD設定メニューを起動するには、次のように操作してください。

1 リモコンの【設定】ボタン、またはキーボードの[F2]キーを押す

DVDの設定メニュー画面が表示されます。



画面下部のキー操作表示を参照して、設定したい項目を選択してください。
設定できる項目は、次のようになっています。

DVD設定メニューを終了してDVD再生に戻るには、リモコンの【設定】ボタン、またはキーボードの[F2]キーを押してください。

表示設定

クイックDVDでDVDを再生する場合の画面表示について、次の設定ができます。

【アングルアイコン表示】

マルチアングルを示すアイコンを、画面に表示するかどうかを設定します。アイコンを表示するように設定しておくと、マルチアングルが用意されているシーンを再生しているときに、画面にアイコンが表示されます。

表示 ON : アイコンを表示する

表示 OFF (標準値) : アイコンを表示しない

言語設定

* DVD再生中は、設定できません。再生を停止してから設定してください。

クイックDVDでDVDを再生する場合の言語について、次の設定ができます。

本機能はクイックDVDの初期設定です。再生するDVDにあらかじめ音声、字幕、ディスクメニュー言語が設定されている場合は、その設定が優先されます。

言語コードの入力画面では、「付録3 言語コード一覧」を参照して、設定したい言語の言語コードを入力してください。

【音声言語】

複数の言語の音声が用意されているDVDを再生する際の、音声言語を設定します。どのような言語が用意されているかは、再生するDVDによって異なります。

日本語 (標準値) : 日本語の音声を再生する

その他 : 設定したい言語の言語コードを入力する

日本語以外の言語を設定したい場合に選択してください。

【字幕言語】

複数の言語の字幕が用意されているDVDを再生する際の、字幕言語を設定します。どのような言語が用意されているかは、再生するDVDによって異なります。

日本語 : 日本語の字幕を表示する

その他 : 設定したい言語の言語コードを入力する

日本語以外の言語を字幕表示させたい場合に選択してください。

字幕なし (標準値) : 字幕を表示しない

【ディスクメニュー言語】

複数の言語のメニューが用意されているDVDを再生する際の、メニュー言語を設定します。どのような言語が用意されているかは、再生するDVDによって異なります。

日本語（標準値）：日本語のメニューを表示する

その他：設定したい言語の言語コードを入力する

日本語以外の言語を設定したい場合に選択してください。

画質設定

* DVD停止中は、設定できません。再生中に設定してください。

クリックDVDでDVDを再生する場合の画質について、次の設定ができます。

明るさ／色合い／コントラスト／濃さ／ガンマ

それぞれについて、-50～50に設定できます。標準値は、すべて「0」に設定されています。再生画面を見ながら、好みの画質に設定してください。**(Enter)キー**を押すと設定が決定され、**(Esc)キー**を押すとキャンセルされます（キーボード）。

操作ガイド、キーガイドの表示

そのときの操作にあわせたガイドと、キーガイドを画面下部に表示できます。

1 キーボードの**(F1)**キーを押す

1回押すごとに、次のように切り替わります。

キーガイド表示 → 操作ガイド表示 → 表示なし



4 クイックプレイの再インストール

クイックプレイは、購入時の状態では本製品にプレインストールされています。クイックプレイを削除してしまった場合の復元方法と、アップデートや削除の方法について説明します。

メモ

- クイックプレイの再インストールを行うと、各種設定値が初期状態に戻ります。

【必要なもの】

- 「クイックプレイ リカバリ CD-ROM」と書いてある CD-ROM
- 『応用にチャレンジ』(本書)、『さあ始めよう』

クイックプレイをアップデートする場合は、プログラムをホームページからダウンロードし、アップデート CD を作成する必要があります。詳細は弊社ホームページ「dynabook.com」の「サポート情報」→「ダウンロード」をご覧ください。

URL : http://dynabook.com/assistpc/download/index_j.htm

参照 ➤ 『困ったときは 1 章 1-④ dynabook のサポート情報を見る』

1 操作手順

- 1 AC アダプタと電源コードを接続し、「クイックプレイ リカバリ CD-ROM」をセットして、パソコンの電源を切る

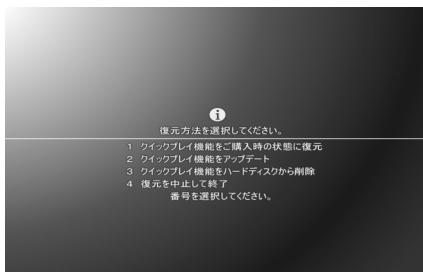
参照 ➤ CD のセット 『さあ始めよう 2 章 4-① CD／DVD のセット』

- 2 電源スイッチを押し、電源を入れた直後（「dynabook」画面が表示されている間）に **[F12]** キーを押す

[F12] キーから指を離すと、[Boot Device] 画面が表示されます。

- 3 **[↑]** または **[↓]** キーで [CD/DVD-ROM Drive] を選択し、**[Enter]** キーを押す

[クイックプレイ機能の復元を開始します。] 画面が表示されます。
そのまま待つと、復元方法を選択する画面が表示されます。



- 4 購入時の状態に復元する場合は①キーを、クイックプレイをアップデートする場合は②キーを、クイックプレイを削除する場合は③キーを押す
④キーを押すと、何もしないで終了します。

【①キーを押した場合】

復元中のメッセージが表示されます。



しばらく待つと、終了のメッセージが表示されます。

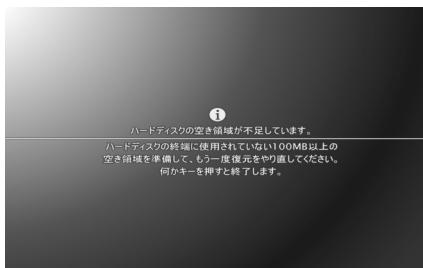


何かキーを押して終了してください。

● ハードディスクの終端に 100MB 以上の空き領域がない場合

ハードディスクの終端に使用されていない 100MB 以上の未割り当て領域がないと、クイックプレイの復元はできません。

次のようなメッセージが表示されます。



何かキーを押すと、クイックプレイの復元を中止します。ハードディスクの終端に未割り当て領域を確保してから、復元をやり直してください。

● エラーメッセージが表示された場合

復元中に次のようなメッセージが表示された場合は、何かキーを押して終了してください。

メッセージ	対処方法
クイックプレイ機能の復元中にエラーが発生しました。	何かキーを押して終了し、もう一度クイックプレイの復元を最初からやり直してください。
この機種はサポートしていません。	使用しているパソコンは、クイックプレイに対応していません。クイックプレイの復元はできません。

【②キーを押した場合】

アップデートCDの挿入をうながすメッセージが表示されます。



ドライブにアップデートCDをセットし、(Enter)キーを押してください。
しばらく待つと、アップデート終了のメッセージが表示されます。



何かキーを押して終了してください。

- クイックプレイがインストールされていない場合

クイックプレイがインストールされていないと、アップデートはできません。削除してしまった場合は、アップデートしようとすると「クイックプレイ機能がインストールされていません。」というメッセージが表示されます。先にクイックプレイを購入時の状態に復元してから、アップデートしてください。

- 違うCDをセットした場合

正しいアップデートCDではないCDをセットすると、「不明なCDです。」というメッセージが表示されます。正しいCDをセットして、(Y)キーを押してください。

(N)キーを押すと、アップデートを中止して終了します。

● エラーメッセージが表示された場合

アップデート中に「クイックプレイ機能のアップデート中にエラーが発生しました。」というメッセージが表示された場合は、何かキーを押して終了し、クイックプレイのアップデートを最初からやり直してください。

【③キーを押した場合】

削除の確認メッセージが表示されます。



④キーを押してしばらく待つと、削除終了のメッセージが表示されます。



何かキーを押して終了してください。

● エラーメッセージが表示された場合

削除中に「クイックプレイ機能の削除中にエラーが発生しました。」というメッセージが表示された場合は、何かキーを押して終了し、クイックプレイの削除を最初からやり直してください。

4 リモコン

TVチューナーボックス同梱モデルには、リモコンが同梱されています。リモコンを使って、離れた場所からパソコンの機能の一部を操作することができます。

1 リモコンについて

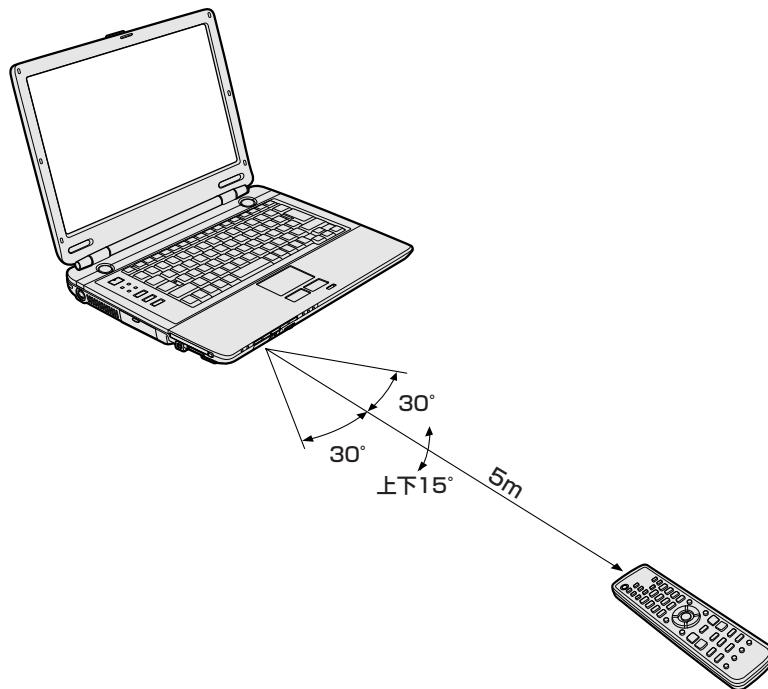
お願い 操作にあたって

- リモコンは本製品専用です。
- アプリケーションの中には、リモコン操作に対応していないものもあります。

【使用範囲】

パソコン本体に向けてリモコンの操作ボタンを押します。使用範囲は、次の距離と角度を目安にしてください。

距離	赤外線受光窓正面より約 5m 以内
角度	赤外線受光窓正面より左右約 30 度以内、上下約 15 度以内



【使用時の注意】

使用範囲内でも、次のような場合はリモコンが誤動作したり操作できない場合があります。

- パソコン本体とリモコンの間に障害物があるとき
- 赤外線受光窓に直射日光や蛍光灯の強い光があたっているとき
- 赤外線受光窓、またはリモコンの発光部が汚れているとき
- 本製品とリモコンが複数台あるとき
- 電池が消耗してきたとき

② 電池の取り付け／取りはずし

リモコンをご使用になる前に、必ず同梱の乾電池を取り付けてください。

⚠ 警告

- リモコンに使用している電池は、幼児の手の届くところに置かないでください。誤って飲み込むと窒息のおそれがあります。万一、飲み込んだ場合は、ただちに医師に相談してください。

⚠ 注意

- リモコンに使用している電池の取り扱いについては、次のことを必ずお守りください。
 - ・指定以外の電池は使用しない
 - ・極性表示 [(+) と (-)] を間違えて挿入しない
 - ・充電・加熱・分解・ショートしたり、火の中に入れない
 - ・乾電池に表示されている【使用推奨期限】を過ぎたり、使い切った乾電池はリモコンに使用しない
 - ・種類の違う乾電池、新しい乾電池と使用した乾電池を混ぜて使用しない
 - ・金属製のネックレスやヘアピンなどと一緒に携帯、保管しない
 - ・使用済みの乾電池は、電極 [(+) と (-)] にセロハンテープなどの絶縁テープを貼って保管、廃棄すること

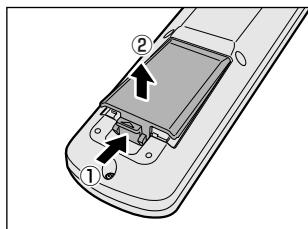
これらを守らないと、発熱・液もれ・破裂などにより、やけど、けがの原因となります。もし、液が皮膚や衣類についたときは、すぐにきれいな水で洗い流してください。液が目に入ったときは、すぐにきれいな水で洗い医師の治療をうけてください。器具に付着した場合は、液に直接触れないで拭き取ってください。

【使用できる乾電池】

同梱されている乾電池が消耗した場合は、市販の電池と交換してください。使用できる電池は、単3形マンガン電池または単3形アルカリ電池（2本）です。他の電池は使用できません。

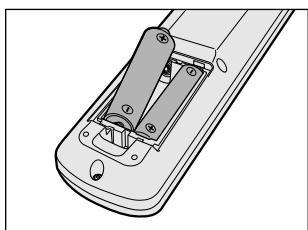
1 取り付け

1 リモコン裏側の電池カバーをあける



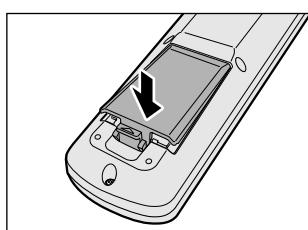
ツメ部分を矢印の方向に押しながら①、あけます②。

2 電池をセットする



+（プラス）、-（マイナス）をよく確認してセットしてください。

3 電池カバーをしめる



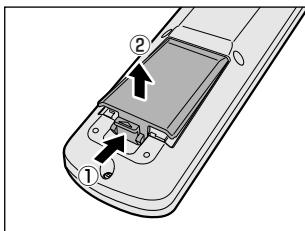
「カチッ」という音がするまで押してください。

2 取りはずし

リモコンに使用している電池が消耗すると、リモコン操作ができなかったり、到達距離が短くなります。その場合は、使用できる乾電池をお確かめのうえ購入いただき、次のように電池を取りはずしてから、新しい電池を取り付けてください。

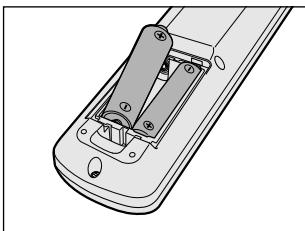
参照 ➤ 使用できる乾電池について「[本項 使用できる乾電池](#)」

1 リモコン裏側の電池カバーをあける



ツメ部分を矢印の方向に押しながら①、あけます②。

2 電池を取り出す



3 リモコンの各部名称

リモコンの各ボタンの名称と機能は、次のようにになっています。対応する番号の説明を参照してください。それぞれの機能の詳細は、各アプリケーションの説明をご覧ください。

参照 「WinDVR」について

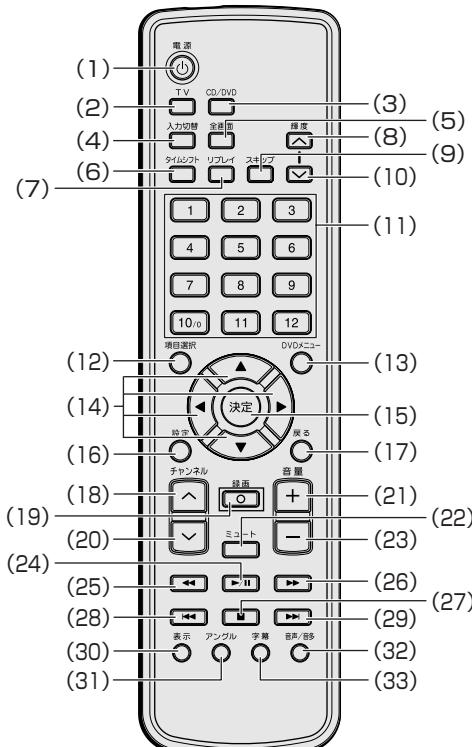
『dynabook 図解で読むマニュアル』、『InterVideo WinDVR ユーザーズ・マニュアル』

「WinDVD」について 『dynabook 図解で読むマニュアル』

「Windows Media Player」について

《サイバーサポート（検索）：音楽 CD やファイル、ムービーを再生したい》

クイックプレイについて 「本章 3 クイックプレイを使う」



(1)電源

OS の起動／終了、クイックプレイの終了

(2)TV

「WinDVR」の起動／終了

(3)CD/DVD

「Windows Media Player」、「WinDVD」、クイック CD、クイック DVD の起動

(4)入力切替

TV チューナボックスのアンテナポート／ビデオ入力ポートを切り替える

(5)全画面

Windows 上で、テレビ／DVD の映像を全画面表示にする

(6)タイムシフト

「WinDVR」のタイムシフト機能を実行する

(7)リプレイ

録画再生または DVD 再生中に数十秒単位で戻す

(8)輝度▲

内部液晶ディスプレイの輝度を明るくする

(9)スキップ

録画再生または DVD 再生中に数十秒単位でスキップする

(10)輝度▼

内部液晶ディスプレイの輝度を暗くする

(11)数字

テレビ視聴または CD ／ DVD 再生において、チャンネルやチャプタ番号を選択する

[10/0] ボタンは「0 (ゼロ)」として動作します。[11]、[12] ボタンは本製品ではサポートしておりません。

2 衍以上のチャンネルやチャプタ番号を選択する場合は、数字ボタンを 1 つずつ押してください。例えば、「10」を選択するときは [1]、[10/0] の順に押します。

(12)項目選択

「WinDVR」、「WinDVD」、「Windows Media Player」の各メニューにおいて、項目を移動してカーソルをあわせる

(13)DVD メニュー

DVD 再生において、トップメニューを表示する

(14)矢印

項目を移動してカーソルをあわせる

(15)決定

項目を決定する ((Enter)キーと同等)

(16) 設定

テレビ視聴またはDVD再生において、設定メニューを表示するまたは非表示にする

(17) 戻る

テレビ視聴またはDVD再生において、直前の操作をキャンセルする（**[Esc]**キーと同等）

DVD再生においてDVDで指定された画面に戻ります（リターン）。リターンについて詳しくは、再生するDVDに付属の説明書をあわせてお読みください。

(18) チャンネルへ

テレビ視聴において、チャンネルを1つ進める

(19) 録画

「WinDVR」において、録画を開始する

(20) チャンネル▽

テレビ視聴において、チャンネルを1つ戻す

(21) 音量+

テレビ視聴またはCD／DVD再生において、音量を上げる

(22) ミュート

テレビ視聴またはCD／DVD再生において、消音（ミュート）する

(23) 音量-

テレビ視聴またはCD／DVD再生において、音量を下げる

(24) 再生／一時停止

CD／DVD再生において、再生／一時停止する

(25) 早戻し

DVD再生において、映像を早戻しする。またはクイックCDにおいて、約10秒戻す

(26) 早送り

DVD再生において、映像を早送りする。またはクイックCDにおいて、約10秒スキップする

(27) 停止

音楽／映像の再生を停止する

(28) 逆送り

CD／DVD再生において、1つ前の曲またはチャプタを再生する

(29) 先送り

CD／DVD再生において、次の曲またはチャプタを再生する

(30) 表示

クイックプレイ機能において、画面表示を切り替える

(31) アングル

DVD再生において、再生画像のアングルを切り替える

(32) 音声／音多

テレビ視聴またはクイックDVDにおいて、音声の言語や音質を切り替える

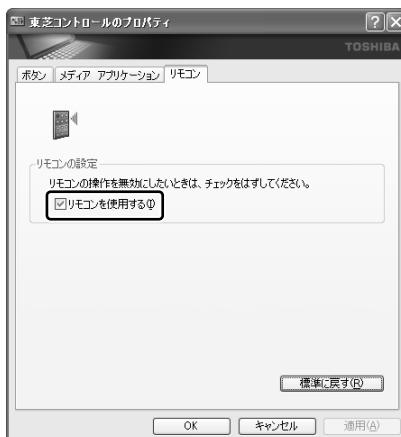
(33) 字幕

DVD再生において、字幕の言語や表示／非表示を切り替える

リモコンの操作を無効にする

次の手順でリモコンの操作を無効にすることができます。

- 1 [コントロールパネル]を開き、[プリンタとその他のハードウェア]をクリックする**
- 2 [東芝コントロール]をクリックする**
[東芝コントロールのプロパティ]画面が表示されます。
- 3 [リモコン]タブで [リモコンを使用する] のチェックをはずす**



リモコンで操作を行うときは、
チェックをつけます。

- 4 [OK]ボタンをクリックする**

リモコンの取り扱いと手入れ

リモコンを取り扱うときには、次のことを守ってください。

- 落としたり、衝撃を与えないでください。
- 高温になる場所や湿度の高い場所には置かないでください。
- 水をかけたり、湿気の多いものの上に置かないでください。
- 分解しないでください。

5 ディスプレイ

本製品は表示装置としてTFTワイドカラー液晶ディスプレイ（1280×800ドット）を内蔵しています。ドットは画素数を表します。外部ディスプレイを接続して使用することもできます。

参照 外部ディスプレイの接続について
「3章 5 外部ディスプレイを接続する」

表示について

TFT方式のカラー液晶ディスプレイは非常に高精度な技術を駆使して作られています。非点灯、常時点灯などの表示が存在することがあります、故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。

1) ディスプレイの設定

このパソコンのディスプレイは、色や壁紙など、さまざまな表示を設定できます。

1 表示可能色数

設定した解像度によって、次にあげる色数まで表示できます。

2048 × 1536 ドット	1,677万色
1920 × 1440 ドット	
1600 × 1200 ドット	
1280 × 1024 ドット	
1280 × 800 ドット	
1024 × 768 ドット	
800 × 600 ドット	

1280 × 1024 ドット以上は仮想スクリーン表示になります。

メモ

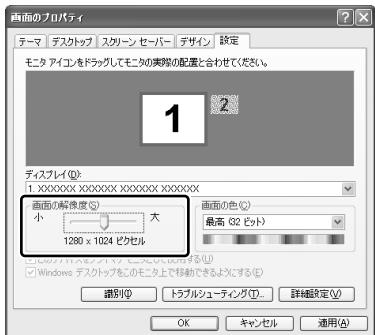
- 1,677万色はディザリング表示です。
ディザリングとは、1画素（画像表示の単位）では表現できない色（輝度）の階調を、数画素の組み合わせによって表現する方法です。
- 内部液晶ディスプレイへの表示の場合、1,677万色はディザリング表示です。内部液晶ディスプレイの解像度よりも小さい解像度で表示する場合、初期設定では表示領域部が画面いっぱいに大きく表示されます。内部液晶ディスプレイの解像度よりも大きい解像度で表示する場合は仮想スクリーン表示となります。

2 解像度を変更する

解像度を変更すると、画面上のアイコン、テキスト、その他の項目が大きく、または小さく表示されます。外部ディスプレイを接続した場合など、購入時の設定では見にくい場合は、次の手順で変更できます。

- 1 [コントロールパネル] を開き、[デスクトップの表示とテーマ] をクリック→ [画面] をクリックする**
[画面のプロパティ] 画面が表示されます。

- 2 [設定] タブの [画面の解像度] で、解像度を変更する**



- 3 [OK] ボタンをクリックする**

2 高画質化処理

本製品にはDVDやテレビ、ビデオカメラの映像を再生するときに高画質化処理を行う機能が搭載されています。

1 高画質化処理を行うには

次の状態のときに自動的に高画質化処理が行われます。切替えの操作は必要ありません。

- クイックDVDを使用して、DVDを再生しているとき

参照 クイックDVD

「本章 3-③ 簡単操作でDVDを再生する（クイックDVD）」

- 「WinDVD」を使用して、全画面表示でDVDを再生しているとき

参照 WinDVD

『dynabook 図解で読むマニュアル DVDの映画や映像を観る』

- ビデオカメラなどの映像をモニタ入力モードで再生しているとき

参照 モニタ入力モード「3章 6 モニタ入力を使う」

- TVチューナボックス同梱モデルで、「WinDVR」を使用して、全画面表示でテレビを見ているとき

参照 WinDVR

『dynabook 図解で読むマニュアル テレビを見る／番組を録画する』

- TVチューナボックス同梱モデルで、TVチューナボックスに接続されたビデオカメラの映像を「WinDVR」を使用して再生しているとき

参照 ビデオカメラの接続

「3章 8-④ アナログのビデオカメラやビデオデッキなど」

お願い

- 「Windows Media Player」やその他市販ソフトを使用した場合は、高画質化処理を行わない通常表示になります。なお、DVD-Videoの再生にあたっては『dynabook 図解で読むマニュアル DVDの映画や映像を観る』に記載の注意事項もあわせてお読みください。
- 「WinDVD」「WinDVR」を使用して映像を再生しているとき、字幕などの文字情報が粗く表示される場合があります。
- クイックDVD、「WinDVD」「WinDVR」を使用して映像を再生しているとき、再生しているデータにノイズがある場合は、強調して表示されます。

表示の対応

高画質化処理を行った表示は、内部液晶ディスプレイのみ対応しています。パソコン本体にテレビや外部ディスプレイを接続し、同時表示に設定している場合、テレビや外部ディスプレイは高画質化処理を行わない通常表示です。映像再生中の表示は次のような対応です。

参照 テレビや外部ディスプレイの接続

「3章 4 テレビを接続する」「3章 5 外部ディスプレイを接続する」

◎：高画質化処理を行った表示 ○：高画質化処理を行わない通常表示
△：表示装置によって異なる ×：表示しない

	クイックDVD 使用中	WinDVD 使用中 (全画面表示)	WinDVR 使用中* ² (全画面表示)	モニタ 入力モード
内部液晶 ディスプレイ	◎	◎	◎	◎
テレビ	×	○	○	△* ³
外部 ディスプレイ	×	○	○	△* ³
同時表示	×* ¹	○* ¹	○* ¹	△* ³

* 1 内部液晶ディスプレイとテレビの同時表示、または内部液晶ディスプレイと外部ディスプレイの同時表示に設定したときのテレビ、または外部ディスプレイの表示状態を示します。

* 2 TVチューナーボックス同梱モデルのみプレインストールされています。

* 3 Windows起動後、モニタ入力モードに切り替えたときは、テレビ、外部ディスプレイにはWindows画面が表示されます。この場合の表示は、高画質化処理を行わない通常表示です。同時表示の場合、内部液晶ディスプレイには接続した機器の映像を高画質化処理を行って表示されますが、テレビや外部ディスプレイには、Windows画面が通常表示で表示されます。

メモ

TVチューナーボックスが同梱されていないモデルをご購入の場合、別売りのTVチューナーボックスを使うと、テレビの映像を内部液晶ディスプレイに表示することはできますが、高画質化処理を行った表示ではありません。高画質化処理を行って表示する場合は、「WinDVR」のパッチモジュールとTVチューナーボックスのドライバをダウンロードする必要があります。詳細は弊社ホームページ「dynabook.com」の「サポート情報」→「ダウンロード」をご覧ください。

URL : http://dynabook.com/assistpc/download/index_j.htm

2 映像調整ユーティリティ

映像を観る環境にあわせて、映像モードの変更を行うことができます。この設定は、表示装置が内部液晶ディスプレイのみで、「WinDVD」、「WinDVR」を使用して全画面表示で映像を再生しているときに有効です。

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA] → [ユーティリティ] → [映像調整ユーティリティ] をクリックする

デスクトップ上の [映像調整ユーティリティ] アイコンをダブルクリックしても起動できます。

[映像調整ユーティリティ] 画面が表示されます。



- 2 モードを選択する

- 3 [適用] または [OK] ボタンをクリックする
メッセージが表示されます

- 4 [OK] ボタンをクリックする

- 5 [映像調整ユーティリティ] 画面で [OK] ボタンをクリックする

次回、「WinDVD」や「WinDVR」を使用して全画面表示で映像を再生するときは、設定した映像モードで再生します。

ヘルプの起動方法

- 1 「映像調整ユーティリティ」を起動後、画面右上の  をクリックする
ポインタが  に変わります。
- 2 画面上の知りたい項目にポインタを置き、クリックする

液晶ディスプレイの取り扱い

画面の手入れ

- 画面の表面には偏光フィルムが貼られています。このフィルムは傷つきやすいので、むやみに触れないでください。
表面が汚れた場合は、柔らかくきれいな布で拭き取ってください。水や中性洗剤、揮発性の有機溶剤、化学ぞうきんなどは使用しないでください。
- 無理な力の加わる扱いかた、使いかたをしないでください。
液晶ディスプレイは、ガラス板間に液晶を配向処理して注入してあります。強い力を加えると配向が乱れ、発色や明るさが変わって元に戻らなくなる場合があります。また、ガラス板を破損するおそれもあります。
- 水滴などが長時間付着すると、変色やシミの原因になるので、すぐに拭き取ってください。

バックライト用蛍光管について

液晶ディスプレイに表示されている内容を見るためにバックライト用蛍光管が内蔵されています。バックライト用蛍光管は、消耗品となります。使用するにつれて発光量が徐々に減少し、表示画面が暗くなります。表示画面が見づらくなったときは、使用している機種を確認後、購入店、または保守サービスに相談してください。

6 ハードディスクドライブ

内蔵されているハードディスクドライブは、取りはずしできません。

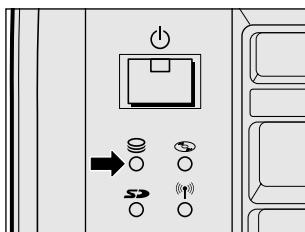
PC カードタイプ (TYPE II) のハードディスクなどを使用して記憶容量を増やすことができます。

お願い 操作にあたって

- Disk LED が点灯中は、パソコン本体を動かしたりしないでください。ハードディスクドライブが故障したり、データが消失するおそれがあります。
- ハードディスクに保存しているデータや重要な文書などは、万一故障が起こったり、変化／消失した場合に備えて、定期的にフロッピーディスクや CD／DVD などに保存しておいてください。記憶内容の変化／消失など、ハードディスク、フロッピーディスク、CD／DVD などに保存した内容の損害については、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
- 磁石、スピーカ、テレビ、磁気ブレスレットなど磁気を発するものの近くに置かないでください。記憶内容が変化／消失するおそれがあります。
- パソコン本体を落とす、ぶつけるなど強い衝撃を与えないでください。ハードディスクの磁性面に傷が付いて、使えなくなることがあります。磁性面に付いた傷の修理はできません。

ハードディスクドライブに関する表示

内蔵のハードディスクとデータをやり取りしているときは、Disk LED が点灯します。



PC カードタイプや USB 接続などの増設ハードディスクとのデータのやり取りでは、Disk LED は点灯しません。

ハードディスクに記録された内容は、故障や損害の原因にかかわらず保証できません。万一故障した場合に備え、バックアップをとることを推奨します。

7 サウンド機能

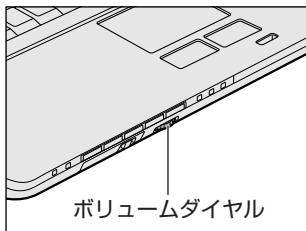
本製品はサウンド機能を内蔵し、スピーカがついています。

1 スピーカの音量を調整する

標準で音声、サウンド関係のアプリケーションがインストールされています。スピーカの音量は、ボリュームダイヤル、またはWindowsのボリュームコントロールで調整できます。

1 ボリュームダイヤルで調整する

音量を大きくしたいときには右に、小さくしたいときには左に回します。



ボリュームダイヤル

2 ボリュームコントロールで調整する

再生したいファイルごとに音量を調整したい場合、次の方法で調整できます。

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [アクセサリ] → [エンターテイメント] → [ボリュームコントロール] をクリックする
- 2 それぞれのつまみを上下にドラッグして調整する

つまみを上にするとスピーカの音量が上がります。[ミュート] をチェックすると消音となります。



【音楽／音声を再生するとき】

ボリュームコントロールの各項目では次の音量が調整できます。

ボリュームコントロール	全体の音量を調整する
WAVE	MP3 ファイル、Wave ファイル、音楽 CD (BeatJam、Windows Media Player の場合)、DVD-Video など
CD オーディオ	音楽 CD (BeatJam、Windows Media Player 以外の場合)

また、使用するアプリケーションにより異なる場合があります。詳しくは『アプリケーションに付属の説明書』または『ボリュームコントロールのヘルプ』を確認してください。

2 音楽／音声の録音レベルを調整する

録音レベルの調整は、次のように行います。

1 パソコン上で録音するとき

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [アクセサリ] → [エンターテイメント] → [ボリュームコントロール] をクリックする
- 2 メニューバーの [オプション] → [プロパティ] をクリックする
- 3 [音量の調整] で [録音] をチェックする
- 4 [表示するコントロール] で表示項目を確認する
[マイク] がチェックされていることを確認します。
- 5 [OK] ボタンをクリックする
- 6 [録音コントロール] 画面で、使用するデバイスの [選択] をチェックする
[マイク] : マイクから録音するとき
- 7 選択したデバイスのつまみで音量を調節する
同時に2つのデバイスを選択することはできません。
録音したい音楽／音声がボリュームコントロールの [WAVE] 対応の場合、
録音するときも [WAVE] の音量により影響を受けます。

3) サウンドのパワーマネージメントを設定する

本製品では、サウンドコントローラのパワーマネジメント機能を設定できるようになっています。

この機能が有効になっていると、サウンド機能が使われていないときにサウンドコントローラの電源を切ることができ、消費する電力を少し節約することができます。購入時は、本機能が有効に設定されています。

消費電力の節約の程度は、バッテリの状態によって異なります。

- 1 [スタート] → [コントロールパネル] をクリックする
- 2 [関連項目] の [コントロールパネルのその他のオプション] をクリックする
- 3 [SigmaTel Audio] をクリックする
- 4 [詳細] タブで [省電力機能を有効にする] をチェックする



- 5 [節電モードに入るまでの時間] に待ち時間（秒）を設定する
通常5秒～10秒程度が適当です。

- 6 [OK] ボタンをクリックする

メモ

[イコライザ] タブでは、各周波数のゲインを調整し、お好みの音質に設定できます。

8 ドライブ

本製品には、DVD スーパーマルチドライブが 1 台内蔵されています。

DVD スーパーマルチドライブは DVD-RAM、DVD-RW、DVD-R、DVD+RW、DVD+R、CD-RW、CD-R の読み出し／書き込み機能を搭載したドライブです。

『安心してお使いいただくために』に、CD／DVD を使用するときに守ってほしいことが記述されています。

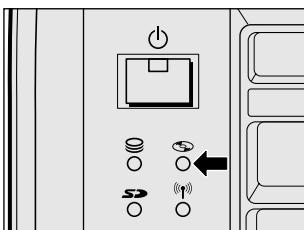
CD／DVD を使用する場合は、あらかじめその記述をよく読んで、必ず指示を守ってください。

お願い DVD-Video の再生にあたって

- DVD-Video 再生時は、なるべく AC アダプタを接続してください。省電力機能が働くと、スムーズな再生ができない場合があります。バッテリ駆動で再生する場合は「東芝省電力」で「DVD 再生」プロファイルに設定してください。
- 使用する DVD ディスクのタイトルによっては、コマ落ちしたり、マルチアングルシーンで一時停止ができない場合があります。

ドライブに関する表示

パソコン本体の電源が入っている場合、ドライブが動作しているときは、CD-ROM LED が点灯します。



1) 使用できるメディアと対応するアプリケーション

お願い

- 書き込み中は、シャットダウン、ログオフ、スタンバイなどを実行しないでください。

書き込みに使用できる、本製品に添付のアプリケーションは次のとおりです。

レコードナウ

• RecordNow!

『dynabook 図解で読むマニュアル

オリジナル音楽 CD を作る／データ CD を作る』

『困ったときは 2 章 3 CD／DVD にデータのバックアップをとる』

• DLA

『サイバーサポート（検索）：データを CD/DVD にコピーしたい』

• WinDVD Creator 2 Platinum

『dynabook 図解で読むマニュアル 映像を編集して DVD に残す』

『InterVideo WinDVD Creator 2 Platinum ユーザーズ・マニュアル』

メディアにデータを書き込むとき、メディアの状態やデータの内容、またはパソコンの使用環境によって、実行速度は異なります。

使用できるメディア

○：使用できる ×：使用できない

	CD-R	CD-RW	DVD-R	DVD-RW	DVD+R	DVD+RW	DVD-RAM
読み出し	○	○	○ ^{*1}	○ ^{*1}	○ ^{*1}	○ ^{*1}	○ ^{*1}
書き込み回数	1 回	繰り返し 書換可能 ^{*2}	1 回	繰り返し 書換可能 ^{*2}	1 回	繰り返し 書換可能 ^{*2}	繰り返し 書換可能 ^{*2}

* 1 使用するメディアによっては、読み出しができない場合があります。

* 2 実際に書き換えできる回数は、メディアの状態や書き込み方法により異なります。

アプリケーションと書き込み可能なメディア

○：使用できる ×：使用できない

【 RecordNow! 】

CD-R	CD-RW	DVD-R	DVD-RW	DVD+R	DVD+RW	DVD-RAM
○	○	○* ¹	○* ¹	○* ¹	○* ¹	×

* 1 DVD-Video、DVD-Audioの作成はできません。また、DVD プレーヤなどで使用することはできません。

【 DLA 】

CD-R	CD-RW	DVD-R	DVD-RW	DVD+R	DVD+RW	DVD-RAM
×	○* ¹	×	○* ¹	×	○* ¹	×

* 1 新品の CD-RW、DVD-RW、DVD+RW を「DLA」で使用するためには、あらかじめフォーマットが必要です。

【 WinDVD Creator 2 Platinum 】

「WinDVD Creator2 Platinum」には、「プロジェクトモード」と「ディスクマネージャ」の2つのモードがあります。各モードで使用できるフォーマット（映像を書き込むときの記録形式）が異なります。

プロジェクトモード	DVD-Video フォーマット
ディスクマネージャ	DVD-Video フォーマット、-VR フォーマット、+VR フォーマット

モードとフォーマットによって、書き込みできるメディアの種類が異なります。

プロジェクトモード (DVD-Video フォーマット)

CD-R	CD-RW	DVD-R	DVD-RW	DVD+R	DVD+RW	DVD-RAM
×	×	○	○	○	○	○* ¹

* 1 DVD-Video フォーマットで記録された DVD-RAM は、本製品にインストールされている「InterVideo WinDVD」でのみ再生可能となります。

ディスクマネージャ (DVD-Video フォーマット)

CD-R	CD-RW	DVD-R	DVD-RW	DVD+R	DVD+RW	DVD-RAM
×	×	×	○* ¹	×	×	×

* 1 再生するためには、ファイナライズを行ってください。ディスクマネージャで作成したメディアのみ追記、再編集が可能です。

ディスクマネージャ (-VR フォーマット)

CD-R	CD-RW	DVD-R	DVD-RW	DVD+R	DVD+RW	DVD-RAM
×	×	×	×	×	×	○

ディスクマネージャ (+VR フォーマット)

CD-R	CD-RW	DVD-R	DVD-RW	DVD+R	DVD+RW	DVD-RAM
×	×	×	×	×	○* ¹	×

* 1 ディスクマネージャで作成したメディアのみ追記、再編集が可能です。

【[マイコンピュータ] 上で書き込む場合】

[マイコンピュータ] で目的のファイルやフォルダをドライブにコピーすると、パソコンで作成した文書データなどのファイルをメディアに書き込むことができます。^{*1} 書き込み可能なメディアは、CD-RW、DVD-RW、DVD+RW、DVD-RAM です。なお、これらのメディアはあらかじめフォーマットしておく必要があります。

* 1 CD-RW、DVD-RW、DVD+RWへの書き込みは、「DLA」を使用してください。

- 参照 ➤ CD-RW、DVD-RW、DVD+RW のフォーマット 《サイバーサポート（検索）：データを CD/DVD にコピーしたい》
- 参照 ➤ DVD-RAM のフォーマット 「本節 ④ DVD-RAM を使うときは」

2) 使用できるCD

【読み出しできるCD】

対応フォーマットによっては再生ソフトが必要な場合があります。

- 音楽用CD

8cm または 12cm の音楽用 CD が聴けます。

- フォトCD

普通のカメラで撮影した写真の画像をデジタル化して記録したものです。

- CD-ROM

使用するシステムに適合する ISO 9660 フォーマットのものが使用できます。

- CD エクストラ

記録領域は音楽データ用とパソコンのデータ用に分けられています。それぞれの再生装置で再生できます。

- CD-R

- CD-RW

【書き込みできるCD】

- CD-R

書き込みは 1 回限りです。書き込まれたデータの削除・変更はできません。

- CD-RW

書き込み速度は、使用するメディアによって異なります。

CD-R メディア : 最大 16 倍速

最大の倍速で書き込むためには書き込み速度に対応した CD-R メディアを使用してください。

マルチスピード CD-RW メディア : 最大 4 倍速

High-Speed CD-RW メディア : 最大 8 倍速

Ultra Speed CD-RW メディアは使用できません。使用した場合、データは保証できません。

お願い CD-RW、CD-Rについて

- CD-RW、CD-Rに書き込む際には、次のメーカーのメディアを使用することを推奨します。
 - CD-RW (マルチスピード、High-Speed)
 - 三菱化学メディア（株）、（株）リコー
 - CD-R : 太陽誘電（株）、三菱化学メディア（株）、
（株）リコー、日立マクセル（株）
- これらのメーカー以外のメディアを使用すると、うまく書き込みができない場合があります。
- CD-Rに書き込んだデータの消去はできません。
- CD-RWメディアは書き換える可能なメディアですが、「RecordNow!」で書き込んだファイルを変更したり、削除したりすることはできません。ファイルの変更・削除が必要な場合は、まずCD-RWメディアの消去を行い、改めて必要なファイルだけを書き込んでください。
「DLA」でCD-RWメディアに書き込んだファイルは、変更・削除することができます。
- CD-RWの消去されたデータを復元することはできません。消去の際は、メディアの内容を十分に確認してから行ってください。
- 書き込み可能なドライブが複数台接続されている際には、書き込み・消去するメディアをセットしたドライブを間違えないよう十分に注意してください。
- ハードディスクに不良セクタがあると書き込みに失敗するおそれがあります。定期的に「エラーチェック」でクラスタのチェックを行うことをおすすめします。

 **エラーチェックの方法**

『困ったときは 3章 その他 -Q セーフモードで起動した』

- ドライブの構造上、メディアの傷、汚れ、ホコリ、チリなどにより読み出し／書き込みができなくなる場合があります。データなどを書き込む際は、メディアの状態をよくご確認ください。

③ 使用できるDVD

【読み出しができるDVD】

対応フォーマットによっては再生ソフトが必要な場合があります。

- DVD-ROM
- DVD-Video (映像再生用です。映画などが収録されています)
- DVD-R
- DVD-RW
- DVD-RAM
- DVD+R
- DVD+RW

【書き込みできるDVD】

お願い

- 本製品のドライブでは、書き込み8倍速以上のDVD-R、DVD+Rメディアと、書き換え4倍速以上のDVD-RW、DVD+RWメディアを使用することはできません。

- DVD-R

書き込みは1回限りです。書き込まれたデータの削除・変更はできません。

DVD-Rは、DVD-R for General Ver2.0規格に準拠したメディアを使用してください。

- DVD-RW

DVD-RWは、DVD-RW Ver1.1規格に準拠したメディアを使用してください。

- DVD+R

- DVD+RW

- DVD-RAM

DVD-RAMは、DVD-RAM Ver2.0または2.1規格に準拠したメディアを使用してください。

【DVD-RAMの種類】

DVD-RAMにはいくつかの種類があります。本製品のドライブで使用できるDVD-RAMは次のとおりです。

カートリッジタイプのメディアは、カートリッジから取り出してドライブにセットしてください。両面ディスクで、読み出し／書き込みする面を変更するときは、一度ドライブからメディアを取り出し、裏返してセットし直してください。

○：使用できる ×：使用できない

DVD-RAMの種類	本製品の対応
カートリッジなし*1	○
カートリッジタイプ（取り出し不可）	×
カートリッジタイプ（取り出し可能）*2	○

*1 一部の家庭用DVDビデオレコーダでは再生できない場合があります。

*2 2.6GB、5.2GBのディスクは書き込みできません。

お願い DVDについて

- DVD-RAM、DVD-RW、DVD-R、DVD+RW、DVD+Rに書き込む際には、次のメーカーのメディアを使用することを推奨します。

DVD-RAM：松下電器産業（株）、日立マクセル（株）

DVD-RW：日本ビクター（株）、三菱化学メディア（株）

DVD-R：松下電器産業（株）、太陽誘電（株）

DVD+RW：三菱化学メディア（株）、（株）リコー

DVD+R：三菱化学メディア（株）、（株）リコー

これらのメーカー以外のメディアを使用すると、うまく書き込みができない場合があります。

- DVD-R、DVD+Rに書き込んだデータの消去はできません。
- DVD-RW、DVD+RWメディアは書き換え可能なメディアですが、「RecordNow!」で書き込んだファイルを変更したり、削除したりすることはできません。ファイルの変更・削除が必要な場合は、まずDVD-RW、DVD+RWメディアの消去を行い、改めて必要なファイルだけを書き込んでください。
「DLA」でDVD-RW、DVD+RWメディアに書き込んだファイルは、変更・削除することができます。
- DVD-RW、DVD+RWの消去されたデータを復元することはできません。消去の際は、メディアの内容を十分に確認してから行ってください。
- 書き込み可能なドライブが複数台接続されているときには、書き込み・消去するメディアをセットしたドライブを間違えないよう十分に注意してください。
- DVD-RAM、DVD-RW、DVD-R、DVD+RW、DVD+Rへの書き込みでは、ファイルの管理領域なども必要になるため、メディアに記載された容量分のデータを書き込めない場合があります。
- DVD-RW、DVD-Rへの書き込みでは、DVDの規格に準拠するため、書き込むデータのサイズが約1GBに満たない場合にはダミーのデータを加えて、最小1GBのデータに編集して書き込みます。このため、実際に書き込みを終了したデータが少ないにもかかわらず、書き込み完了までに時間がかかることがあります。
- ハードディスクに不良セクタがあると書き込みに失敗するおそれがあります。定期的に「エラーチェック」でクラスタのチェックを行うことをおすすめします。

参照 ➔ エラーチェックの方法

『困ったときは 3章 その他-Q セーフモードで起動した』

- ドライブの構造上、メディアの傷、汚れ、ホコリ、チリなどにより読み出し／書き込みができなくなる場合があります。データなどを書き込むときは、メディアの状態をよくご確認ください。

-
- DVD-RAM をドライブにセットしたとき、システムが DVD-RAM を認識するまでに多少時間がかかります。
-

メモ

- 市販のDVD-Rには業務用メディア (for Authoring) と一般用メディア (for General) があります。業務用メディアはパソコンのドライブでは書き込みすることができません。
一般用メディア (for General) を使用してください。
- 市販のDVD-RAM、DVD-RW、DVD-R、DVD+RW、DVD+Rには「for Data」と「for Video」の2種類があります。映像を保存する場合や家庭用DVDビデオレコーダとの互換性を重視する場合は「for Video」を使用してください。

4) DVD-RAMを使うときは

ここでは、DVD-RAMに書き込みをする前に必要な操作について説明します。

1 フォーマットとは

新品のDVD-RAMは、使用する目的にあわせて「フォーマット」という作業が必要です。

フォーマットとは、DVD-RAMにデータの管理情報（ファイルシステム）を記録し、DVD-RAMを使えるようにすることです。

フォーマットされていないDVD-RAMは、フォーマットしてから使用してください。ここでは、ファイルシステムとフォーマット方法について簡単に説明します。詳細はPDFマニュアルを確認してください。

参照 ➔ 「本項 2-PDFマニュアルを見る方法」

お願い

- フォーマットを行うと、そのDVD-RAMに保存されていた情報はすべて消去されます。一度使用したDVD-RAMをフォーマットする場合は注意してください。

ファイルシステム

DVD-RAM をフォーマットするときにファイルシステムを選択します。

ファイルシステムは、書き込むデータの種類や書き込み後のメディアを使用する機器に応じて選択します。また、映像データを書き込むときは、書き込み用のアプリケーションによって指定されている場合があります。

選択できるファイルシステムは「UDF2.0」「UDF1.5」「FAT32」です。

【UDF2.0】

-VR フォーマットに対応したファイルシステムです。

家庭用 DVD ビデオレコーダとの互換性があります。

【UDF1.5】

本製品で使用しているシステムの標準の機能で読み出しできるファイルシステムです。このファイルシステムのメディアは、本製品以外の Windows XP／2000^{*1}がインストールされたパソコン^{*2}でもデータを読み出すことができます。

家庭用 DVD ビデオレコーダとの互換性はありません。

***1** Windows 2000 ... Microsoft® Windows® 2000 Professional operating System 日本語版

***2** DVD-RAM ドライブが搭載されていないパソコンで DVD-RAM を読み出すためには、DVD-RAM の読み出しに対応した DVD ドライブが搭載されている必要があります。

【FAT32】

本製品で使用しているシステムの標準の機能で読み出し／書き込みできるファイルシステムです。このファイルシステムのメディアは、本製品以外の Windows XP／Me^{*1}／98^{*2}がインストールされたパソコン^{*3}でもデータを読み出すことができます。

家庭用 DVD ビデオレコーダとの互換性はありません。

***1** Windows Me Microsoft® Windows® Millennium Edition operating System 日本語版

***2** Windows 98..... Microsoft® Windows® 98 SECOND Edition operating System 日本語版

***3** DVD-RAM ドライブが搭載されていないパソコンで DVD-RAM を読み出すためには、DVD-RAM の読み出しに対応した DVD ドライブが搭載されている必要があります。

2 フォーマット方法

Windows でのフォーマット方法を簡単に説明します。

1 フォーマットする DVD-RAM をセットする

参照 DVD-RAM のセット 『さあ始めよう 2章 4-① CD／DVD のセット』

2 [スタート] → [マイ コンピュータ] をクリックする

[マイ コンピュータ] 画面が表示されます。

3 [DVD-RAM ドライブ (D:)] をクリックする

[DVD-RAM ドライブ (D:)] が選択され、アイコンの色が反転します。

4 メニューバーの [ファイル] をクリックし①、表示されたメニューから [フォーマット] をクリックする②

アイコンを右クリックして表示されるメニューからも選択できます。



[DVDForm - D ドライブ] 画面が表示されます。

5 [ドライブ] と [フォーマット種別] を選択する

映像を書き込み、家庭用 DVD ビデオレコーダで再生するための DVD-RAM を作成する場合は、[ユニバーサルディスクフォーマット (UDF2.0)] を選択してください。

パソコンで使用するための DVD-RAM を作成する場合は、[ユニバーサルディスクフォーマット (UDF1.5)] を選択してください。

6 ボリュームラベル名を入力する

UDF 形式を選択した場合は、必ず入力してください。

7 [開始] ボタンをクリックする

物理フォーマットを行う場合は、[物理フォーマットを実行する] をチェックしてから、[開始] ボタンをクリックしてください。

物理フォーマットを行うと、DVD-RAM 上の全セクタを検査し、不良セクタの代替処理を行います（通常は行う必要はありません）。物理フォーマットを行う場合は、フォーマットが完了するまでに時間がかかります。

メッセージが表示されます。

8 メッセージの内容を確認し、[はい] ボタンをクリックする

フォーマットが開始されます。

画面下のバーは進行状況を示しています。フォーマットが完了すると、メッセージが表示されます。

9 メッセージの内容を確認し、[OK] ボタンをクリックする

これで、フォーマットは完了です。

他の DVD-RAM も続けてフォーマットする場合は、DVD-RAM を入れ替えて、手順 5 から実行します。

フォーマットを終了する場合は、[DVDForm - D ドライブ] 画面で [閉じる] ボタンをクリックしてください。

PDF マニュアルを見る方法

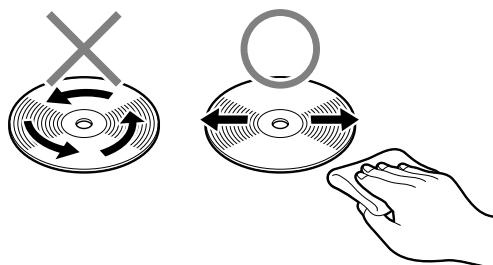
1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [DVD-RAM] → [DVD-RAM ドライバー] → [DVD-RAM ディスクの使い方] をクリックする

「Adobe Reader」が起動し、PDF マニュアルが表示されます。

CD／DVD の取り扱いと手入れ

CD／DVD の内容は故障の原因にかかわらず保障いたしかねます。製品を長持ちさせ、データを保護するためにも、次のことを必ず守ってください。

- 傷、汚れをつけるよう、取り扱いには十分にご注意ください。
 - CD／DVD を折り曲げたり、表面を傷つけたりしないでください。CD／DVD を読み込むことができなくなります。
 - CD／DVD を直射日光が当たるところや、極端に暑かったり寒かったりする場所に置かないでください。また、CD／DVD の上に重いものを置かないでください。
 - CD／DVD は専用のケースに入れ、清潔に保護してください。
 - CD／DVD を持つときは、外側の端か、中央の穴のところを持つようにしてください。データ記憶面に指紋をつけてしまうと、正確にデータが読み取れなくなることがあります。
 - CD／DVD のデータ記憶面に文字などを書かないでください。
 - CD／DVD のラベル面に文字などを書くときは、油性のフェルトペンなどを使用してください。
ボールペンなど、先の硬いものを使用しないでください。
 - CD／DVD が汚れたりホコリをかぶったりしたときは、乾燥した清潔な布で拭き取ってください。
- 拭き取りは円盤に沿って環状に拭くのではなく、円盤の中心から外側に向かって直線状に拭くようにし、乾燥した布では拭き取れない場合は、水か中性洗剤で湿らせた布を使用してください。ベンジンやシンナーなどの薬品は使用しないでください。

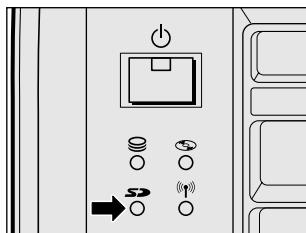


9 SD メモリカード

SD メモリカードを SD カードスロットに差し込んで、データの読み出しや書き込みができます。

SD カードスロットに関する表示

パソコン本体に電源が入っている場合、SD メモリカードとデータをやり取りしているときは、SD Card  LED が点灯します。



1) SD メモリカードについて

本製品の SD カードスロットでは、マルチメディアカードは使用できません。

お願い SD メモリカードの使用にあたって

- SD メモリカードは、SDMI の取り決めに従って、デジタル音楽データの不正なコピーや再生を防ぐための著作権保護技術を搭載しています。そのため、他のパソコンなどで取り込んだデータが著作権保護されている場合は、本製品でコピー、再生することはできません。SDMI とは Secure Digital Music Initiative の略で、デジタル音楽データの著作権を守るための技術仕様を決めるための団体のことです。
- あなたが記録したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。
- SD メモリカードは、デジタル音楽データの不正なコピーや再生を防ぐ SDMI に準拠したデータを取り扱うことができます。メモリの一部を管理データ領域として使用するため、使用できるメモリ容量は表示の容量より少なくなっています。
- SDIO カードを使用する場合、必ず本製品で動作が確認されている製品^{*1}を使用してください。その他の SDIO カードを使用すると、システムの動作が不安定になることがあります。

* 1 2004 年 5 月現在、弊社製 SDIO カード「Bluetooth™ SD カード 2」(型番: PABSD001)のみ対応しています。

新品のSDメモリカードは、使用するシステム（OS）にあわせて「フォーマット」という作業が必要です。フォーマット方法については、《サイバーサポート（検索）：東芝SDメモリカードフォーマット》をご覧ください。

2) SDメモリカードのセットと取り出し

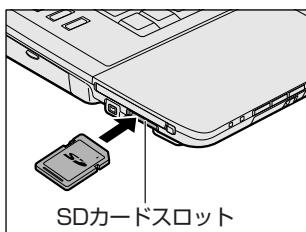
SDメモリカードをSDカードスロットに挿入することを「SDメモリカードをセットする」といいます。

お願い

- SD Card  LEDが点灯中は、電源を切ったり、SDメモリカードを取り出したり、パソコン本体を動かしたりしないでください。
データやSDメモリカードが壊れるおそれがあります。
- SDメモリカードは無理な力を加えず、静かに挿入してください。正しく挿し込まれていない場合、パソコンの動作が不安定になったり、SDメモリカードが壊れるおそれがあります。

1 セット

1 SDメモリカードのラベルを貼られた面を上にして、SDカードスロットに挿入する



2 取り出し

1 SDメモリカードの使用を停止する

- ① 通知領域の [ハードウェアの安全な取り外し] アイコン () をクリックする
- ② 表示されたメニューから [Secure Digital Storage Device- ドライブを安全に取り外します] をクリックする
- ③ 「安全に取り外すことができます」のメッセージが表示されたら、[閉じる] ボタン () をクリックする

2 SDメモリカードを押す

カードが少し出てきます。そのまま手で取り出します。

3 SDメモリカードの内容を見る

著作権保護を必要としない画像や音声、テキストなどの一般的なファイルは、次の手順で見ることができます。

1 [スタート] → [マイコンピュータ] をクリックする

[マイコンピュータ] 画面が表示されます。

2 [Secure Digital storage device (E:)] (標準値) をダブルクリックする

セットしたSDメモリカードの内容が表示されます。

10 ワンタッチボタン

本製品には、3つのワンタッチボタンがあります。

購入時に各ボタンに設定されている動作は次のとおりです。

- クイックプレイボタン クイックプレイを起動します。
モニタ入力モード中は画面のアスペクト比を切り替えます。
 詳細について「本章 3 クイックプレイを使う」「3章 6 モニタ入力を使う」
- モニタ入力ボタン モニタ入力モードに切り替えます。
 詳細について「3章 6 モニタ入力を使う」
- インターネットボタン Internet Explorer が起動します。

1 インターネットボタン

インターネットボタンを押すと、次の動作を行います。

【パソコン本体の電源が入っていないとき】

電源が入り、Windows 起動後、設定されているアプリケーションが起動します。

【スタンバイ状態／休止状態のとき】

スタンバイ状態／休止状態を実行する直前の状態が再現されてから、設定されているアプリケーションが起動します。

ボタンに割り当てるアプリケーションを変更する

インターネットボタンを押したときに起動するアプリケーションは、「東芝コントロール」で自由に変更できます。

- 1 [コントロールパネル] を開き、[ プリンタとその他のハードウェア] をクリックする
- 2 [ 東芝コントロール] をクリックする
[東芝コントロールのプロパティ] 画面が表示されます。

3 [ボタン] タブでインターネットボタン名の下の ▼ ボタンをクリックする



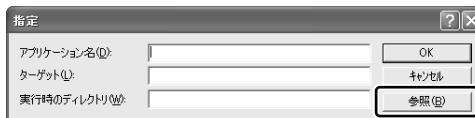
設定できる動作の一覧が表示されます。

4 [アプリケーションの指定] を選択する

[指定] 画面が表示されます。

このとき、他の項目を選択した場合は手順 8 に進んでください。

5 [参照] ボタンをクリックする



[ファイルを開く] 画面が表示されます。

6 ボタンに設定したいアプリケーション名をクリックし、[開く] ボタンをクリックする

[指定] 画面に戻ります。

[アプリケーション名] に、選択したアプリケーション名が表示されていることを確認してください。

7 [OK] ボタンをクリックする

【東芝コントロールのプロパティ】画面に戻ります。

割り当てたいボタンの欄に、選択したアプリケーション名が表示されていることを確認してください。



8 [OK] ボタンをクリックする

2章

通信機能

本製品に内蔵されている通信に関する機能を説明しています。

ブロードバンドでインターネットに接続する方法や、他のパソコンと通信する方法、海外でインターネットに接続するときについて紹介します。

-
- 1 LANへ接続する 76
 - 2 内蔵モデムについて 92

1 LANへ接続する

パソコンをインターネットに接続する前に、コンピュータウイルスへの対策を行ってください。

コンピュータウイルスとは、パソコンにトラブルを発生させるプログラムのことで、ハードディスクやデータの一部を破壊するものもあります。

本製品には、ウイルスチェックソフトとして「Norton Internet Security」が用意されています。『さあ始めよう 3章』をお読みになり、必ずウイルスチェックソフトのインストールと設定を行い、定期的にウイルスチェックを行ってください。設定したソフトは常に最新のバージョンに更新するようにしてください。

参照 ➔ コンピュータウイルスについて
『さあ始めよう 3章 1 ウイルスチェックをする』

1 ケーブルを使った LAN 接続（有線 LAN）

本製品には、ブロードバンド対応の LAN 機能が内蔵されています。

LAN コネクタに ADSL モデムやケーブル modem を接続し、ブロードバンドでインターネットに接続することができます。ブロードバンドに必要なネットワーク機器や設定などについて、詳しくは契約しているプロバイダに問い合わせてください。

また、本製品の LAN 機能は、Fast Ethernet (100BASE-TX)、Ethernet (10BASE-T) に対応しています。LAN コネクタに LAN ケーブルを接続し、ネットワークに接続することができます。LAN コネクタに LAN ケーブルを接続すると、Fast Ethernet / Ethernet を自動的に検出して切り替えます。

1 LANケーブルの接続

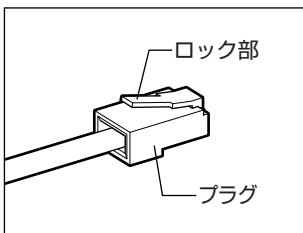
お願い LAN ケーブルの使用にあたって

- LAN ケーブルは市販のものを使用してください。同梱のモジュラーケーブルは、アナログ電話回線専用です。LAN コネクタには接続できません。
- LAN ケーブルをパソコン本体の LAN コネクタに接続した状態で、LAN ケーブルを引っ張ったり、パソコン本体の移動をしないでください。LAN コネクタが破損するおそれがあります。

LAN インタフェースを 100BASE-TX 規格 (100Mbps) で使用するときは、必ずカテゴリ 5 (CAT5) 以上のケーブルおよびコネクタを使用してください。

10BASE-T 規格 (10Mbps) で使用するときは、カテゴリ 3 (CAT3) 以上のケーブルが使用できます。

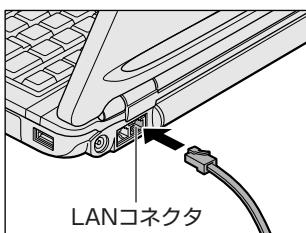
カテゴリとは、ネットワークで使用されるケーブルの種類を分類したもので、数字が高いほど品質が高くなります。



LANケーブルをはずしたり差し込むときは、プラグの部分を持って行ってください。また、はずすときは、プラグのロック部を押しながらはずしてください。ケーブルを引っ張らないでください。

1 パソコン本体に接続されているすべての周辺機器の電源を切る

2 LANケーブルのプラグをパソコン本体のLANコネクタに差し込む



ロック部を上にして、パチンと音がするまで差し込んでください。

LANケーブルはモジュラーケーブルと似ているので、間違えないよう注意してください。

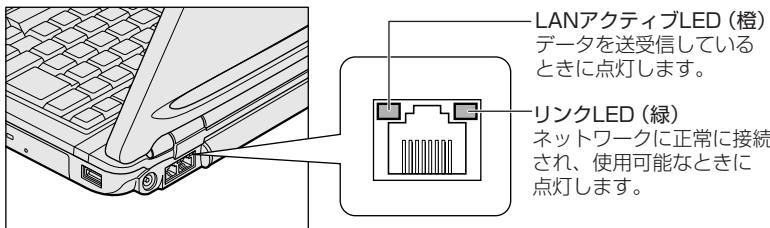
プラグの差し込み部分に線が8本あるのが、LANケーブルです。

3 LANケーブルのもう一方のプラグを接続先のネットワーク機器のコネクタに差し込む

ネットワーク機器の接続先やネットワークの設定は、『ヘルプとサポート』を参照してください。《サイバーサポート》で【検索対象】を【Windows XPヘルプ】にして質問を入力し、検索することもできます。また会社や学校で使用する場合は、ネットワーク管理者に確認してください。

2 LANコネクタに関するインジケータ

LANコネクタの両脇には、LANインターフェースの動作状態を示す2つのLEDがあります。



3 Windowsのネットワーク設定

ネットワークに接続する場合は、ネットワークの設定を行う必要があります。ネットワークの設定内容は、ネットワーク環境によって異なります。

購入時はコンピュータによって仮の値が設定されています。接続するネットワークのネットワーク管理者の指示に従って設定を行ってください。また、セットアップが終了し、Windowsの起動時に、ネットワークパスワードを入力する必要がある場合があります。接続するネットワークのネットワーク管理者の指示に従って、パスワードを入力してください。

お願い

- 購入時は、ネットワークの設定は既定値になっています。Windowsのセットアップ時にLANケーブルを接続していると、ネットワークの設定が既定値のままネットワークに接続してしまい、ネットワークに障害をもたらす場合があります。必ず、LANケーブルをはずした状態でWindowsのセットアップを行ってください。

- 1 [コントロールパネル] を開き、[ネットワークとインターネット接続] をクリックする
- 2 [ホームネットワークまたは小規模オフィスのネットワークをセットアップまたは変更する] をクリックする



[ネットワークセットアップウィザードの開始] 画面が表示されます。画面に従って操作してください。

コンピュータ名とワークグループは必ずネットワーク管理者の指示に従って設定してください。コンピュータ名が重複すると、エラーメッセージが表示されますので、必ず重複しないコンピュータ名を付けてください。

2) ケーブルを使わない LAN 接続（無線 LAN）

本製品には、無線 LAN 機能が内蔵されています。

無線 LAN とは、パソコンに LAN ケーブルを接続しない状態で使用できる、ワイヤレスの LAN 機能のことです。モデムやルータの位置とは関係なく、無線通信のエリア内であればあらゆる場所からコンピュータを LAN システムに接続できます。

無線 LAN アクセスポイント（別売り）を使用することによって、複数のパソコンからワイヤレスでブロードバンド環境を実現できます。

1 無線 LAN の概要

本製品には IEEE802.11g および IEEE802.11b に準拠した無線 LAN モジュールが内蔵されています。次の機能をサポートしています。

- 転送レート自動選択機能

次の転送レートから選択可能です。

54、48、36、24、18、12、9、6Mbps (IEEE802.11g の場合)

11、5.5、2、1Mbps (IEEE802.11b の場合)

これらの転送レートは理論上の最高値であり、実際の通信時の転送レートではありません。実用上の転送レートは使用環境により異なります。

- 周波数チャネル選択 (2.4GHz 帯)
- マルチチャネル間のローミング
- パワーマネージメント
- データ暗号化 (WEP128bit)

【無線 LAN の種類】

無線 LAN は、IEEE802.11g および IEEE802.11b に準拠する無線ネットワークです。

- IEEE802.11g では「直交周波数分割多重方式」(Orthogonal Frequency Devision Multiplexing, OFDM)、IEEE802.11b では「直接拡散方式」(Direct Sequence Spread Spectrum, DSSS) を採用し、IEEE802.11 に準拠する他社の無線 LAN システムと完全な互換性を持っています。
- Wi-Fi Alliance 認定の Wi-Fi (Wireless Fidelity) ロゴを取得しています。Wi-Fi ロゴは、IEEE802.11 に準拠する他社の無線 LAN 製品との通信が可能な無線機器であることを意味します。
- Wi-Fi CERTIFIED ロゴは Wi-Fi Alliance の認定マークです。

お願い 無線 LAN 製品ご使用時におけるセキュリティに関するご注意

(お客様の権利（プライバシー保護）に関する重要な事項です！)

無線 LAN では、LAN ケーブルを使用する代わりに、電波を利用してパソコンなどと無線アクセスポイント間で情報のやり取りを行うため、電波の届く範囲であれば自由に LAN 接続が可能であるという利点があります。

その反面、電波はある範囲内であれば障害物（壁など）を超えてすべての場所に届くため、セキュリティに関する設定を行っていない場合、次のような問題が発生する可能性があります。

- 通信内容を盗み見られる

悪意ある第三者が、電波を故意に傍受し、

ID やパスワードまたはクレジットカード番号などの個人情報

メールの内容

などの通信内容を盗み見られる可能性があります。

- 不正に侵入される

悪意ある第三者が、無断で個人や会社内のネットワークへアクセスし、

個人情報や機密情報を取り出す（情報漏洩）

特定の人物になりすまして通信し、不正な情報を流す（なりすまし）

傍受した通信内容を書き換えて発信する（改ざん）

コンピュータウイルスなどを流しデータやシステムを破壊する（破壊）
などの行為をされてしまう可能性があります。

本来、無線 LAN カードや無線アクセスポイントは、これらの問題に対応するためのセキュリティの仕組みを持っているので、無線 LAN 製品のセキュリティに関する設定を行って製品を使用することで、その問題が発生する可能性は少なくなります。

セキュリティの設定を行わないで使用した場合の問題を十分理解したうえで、お客様自身の判断と責任においてセキュリティに関する設定を行い、製品を使用することをおすすめします。

お願い 暗号化

WEP（暗号化）機能を使用しないと、無線 LAN 経由で部外者による不正アクセスが容易に行えるため、不正侵入や盗聴、データの消失、破壊などにつながる危険性があります。

そのため WEP 機能を設定されることを強くおすすめいたします。

参照 ➔ WEP 機能の設定「本項 4-WEP 機能を設定する」

お願い 無線 LAN を使用するにあたって

- 無線 LAN の無線アンテナは、できるかぎり障害物が少なく見通しのきく場所で最も良好に動作します。無線通信の範囲を最大限有効にするには、ディスプレイを開き、本や分厚い紙の束などの障害物でディスプレイを覆わないようにしてください。また、パソコンとの間を金属板で遮へいしたり、無線アンテナの周囲を金属性のケースなどで覆わないようにしてください。
- 無線 LAN は無線製品です。各国／地域で適用される無線規制については、「付録 5-5 お客様に対するお知らせ」を確認してください。
- 本製品の無線 LAN を使用できる地域については、同梱の『ご使用できる国／地域について』を確認してください。

2 無線LANネットワークの種類

無線 LAN ネットワークには、次のような機能があります。

- 無線 LAN ステーション同士を直接ワイヤレス接続する

参照 「本項 2- アドホックワークグループ」

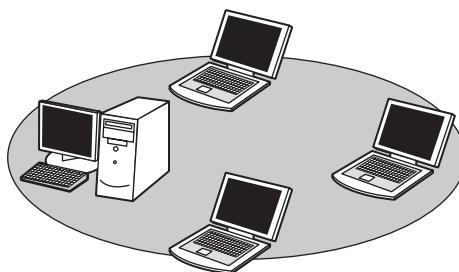
- 無線 LAN アクセスポイント経由で、インターネットやその他の無線 LAN ステーションに接続する

参照 「本項 2- インフラストラクチャネットワーク」

アドホックワークグループ

無線 LAN アクセスポイントを持たない環境（Small Office/Home Office (SOHO) など）で一時的なネットワークを構築する方法です。アドホックワークグループを設定することで、小規模な無線ネットワークを構築できます。ステーション同士が互いの通信範囲内にある場合は、これが最も簡単かつ低コストに無線ネットワークを構築する方法です。

このワークグループでは、Microsoft ネットワークでサポートされているような [ファイルとプリンタの共有] などの機能を使用したファイル交換ができます。家族や友人同士でデータを共有したり、ファイルのやり取りをしたい場合などに便利です。



アドホックワークグループでネットワークを構築するには、設定が必要です。

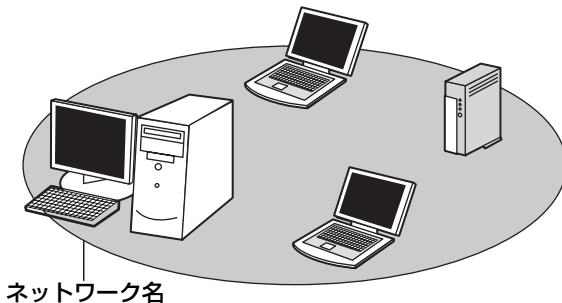
参照 アドホックワークグループの設定について 「本項 3 基本設定」

インフラストラクチャネットワーク

無線LANアクセスポイントを使用して、バックボーンとなるネットワークに接続し、すべてのネットワーク設備に無線LAN機器でアクセスできる方法です。LANのバックボーンネットワークは、次のどちらでもアクセスできます。

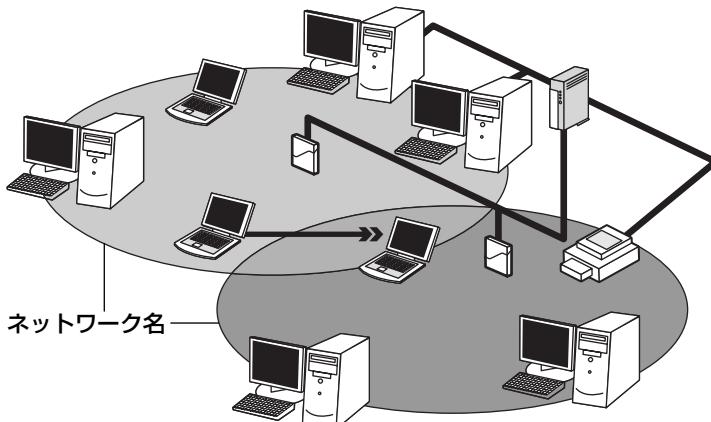
【スタンドアロンネットワーク】

無線LANアクセスポイントのみで構築したネットワークです。



【インフラストラクチャネットワーク】

無線LANアクセスポイントを既存の有線ネットワークに組み込み、既存の有線ネットワークをバックボーンネットワークとするネットワークです。



どちらの場合も、ネットワークに接続するには設定が必要です。

参照 ➡ ネットワーク接続のための設定について 「本項 3 基本設定」

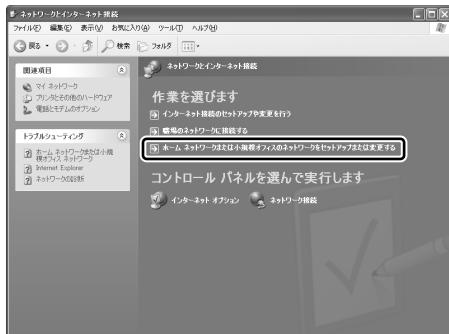
3 基本設定

無線 LAN ネットワークに接続するには、接続するネットワークに応じた設定が必要です。

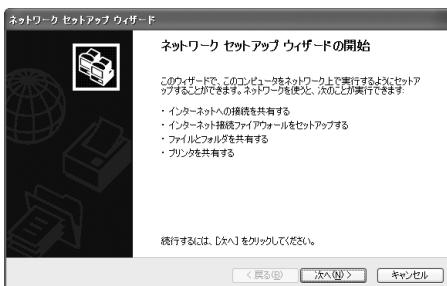
Windows XP は、標準で無線 LAN ネットワークに対応しています。

ネットワーク設定の方法

- 1 [コントロールパネル] を開き、[ネットワークとインターネット接続] をクリックする
- 2 [ホームネットワークまたは小規模オフィスのネットワークをセットアップまたは変更する] をクリックする



[ネットワークセットアップウィザードの開始] 画面が表示されます。画面に従って操作してください。



4 詳細設定

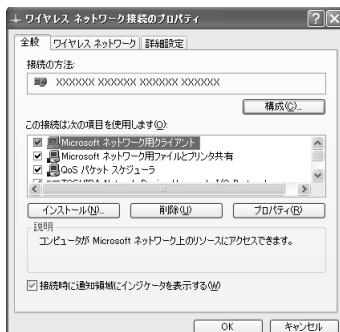
無線 LAN は、ほとんどのネットワーク環境において基本的な設定だけで動作します。インフラストラクチャネットワークに接続している場合の詳細設定は、[ワイヤレスネットワーク接続のプロパティ] 画面で行います。

プロパティ画面の表示

- [スタート] → [マイコンピュータ] を開き、[その他] の [マイネットワーク] をクリックする
- [ネットワークタスク] の [ネットワーク接続を表示する] をクリックする
[ネットワーク接続] 画面が表示されます。
- [ワイヤレスネットワーク接続] を選択し①、[ネットワークタスク] の [この接続の設定を変更する] をクリックする②



[ワイヤレスネットワーク接続のプロパティ] 画面が表示されます。



設定を変更したあと、[OK] ボタンをクリックし、画面を閉じてください。

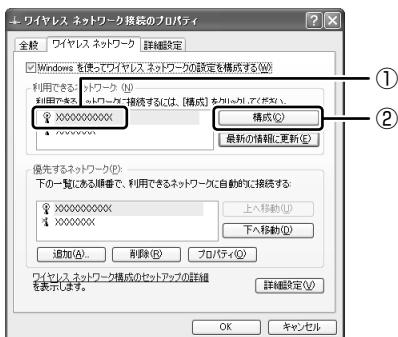
WEP 機能を設定する

WEP (Wired Equivalent Privacy) とは、無線で伝送されるデータを暗号化する機能です。WEPでの暗号化には 128 ビット、64 ビットの 2 種類があり、プロパティ画面で設定できます。

1 [ワイヤレスネットワーク接続のプロパティ] 画面を開く

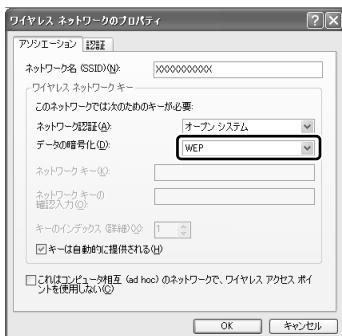
参照▶「本項 4- プロパティ画面の表示」

2 [ワイヤレスネットワーク] タブの [利用できるネットワーク] で ネットワーク名をクリックし①、[構成] ボタンをクリックする②



[ワイヤレスネットワークのプロパティ] 画面が表示されます。

3 [データの暗号化] で ▾ ボタンをクリックし、[WEP] を選択する



4 ネットワークキーを設定する

ネットワークキーの設定がわからない場合は、ネットワーク管理者の指示に従ってください。

- ネットワークキーが自動的に提供される場合

[キーは自動的に提供される] がチェックされていることを確認する

- ネットワークキーが自動的に提供されない場合

① [キーは自動的に提供される] のチェックをはずす

② [ネットワークキー] と [ネットワークキーの確認入力] にネットワークキーを入力する

入力する文字の種類によって文字数が決められています。また、文字数によって設定されるセキュリティのレベルが異なります。ネットワーク上で接続する機器同士は同じセキュリティレベルに設定してください。

セキュリティレベル	文字の種類と文字数	
	半角英数文字	16進数
高(128)ビット	13文字	26文字
低(64ビット)	5文字	10文字

ネットワークキーは「***** (アスタリスク)」で表示されます。

5 [OK] ボタンをクリックする

手順4で指定以外の文字数でネットワークキーを入力するとエラーメッセージが表示されます。[OK] ボタンをクリックしてメッセージを閉じ、もう1度手順4からやり直してください。

5 無線LANを使う

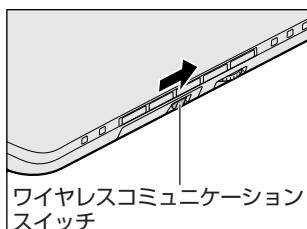
ここでは、ネットワークに接続している他のパソコンの確認について説明します。

⚠ 警告

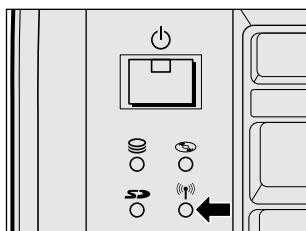
- パソコン本体を航空機に持ち込む場合、ワイヤレスコミュニケーションスイッチをオフ（左側）にし、必ずパソコン本体の電源を切ってください。ワイヤレスコミュニケーションスイッチをオンにしたまま持ち込むと、パソコンの電波により、計器に影響を与える場合があります。

また、航空機内でのパソコンのご使用は、必ず航空会社の指示に従ってください。

1 本体前面にある、ワイヤレスコミュニケーションスイッチを On 側にスライドする



ワイヤレスコミュニケーション⁽¹⁾ LED が点灯します。



無線 LAN 機能が起動します。

無線 LAN 機能が起動すると、パソコンは自動的に利用できるネットワークを検索します。

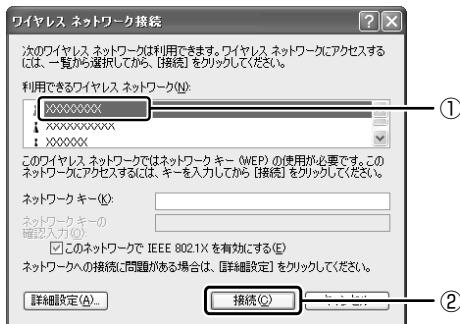
利用できるネットワークが検出された場合、通知領域にメッセージが表示されます。

2 [ワイヤレスネットワーク接続] アイコン () を右クリックし、表示されたメニューから [利用できるワイヤレスネットワークの表示] をクリックする

[ワイヤレスネットワーク接続] 画面が表示されます。

3 [利用できるワイヤレスネットワーク] の使いたいネットワークを選択し①、[接続] ボタンをクリックする②

WEP 機能を設定しているネットワークに接続するときは [ネットワークキー] にネットワークキーを入力し、[接続] ボタンをクリックしてください。



接続できると、通知領域に [ワイヤレスネットワーク接続] に接続しました] とメッセージが表示されます。

4 [スタート] → [マイコンピュータ] を開き、[その他] の [マイネットワーク] をクリックする

5 [ネットワークタスク] の [ワークグループのコンピュータを表示する] をクリックする

無線 LAN でつながれた、他のパソコンなどのデバイスが表示されます。

役立つ操作集

通信状態を確認する

[ワイヤレスネットワーク接続] アイコンをクリックすると [ワイヤレスネットワーク接続の状態] 画面が表示され、接続の状態、接続継続時間、通信速度、シグナルの強さなど動作状況がわかります。

ヘルプの起動

無線 LAN の詳しい情報は『ヘルプとサポート』を参照してください。

《サイバーサポート》で [検索対象] を [Windows XP ヘルプ] にして質問を入力し、検索することもできます。

③ ネットワーク設定に便利な機能

本製品に用意されている「ConfigFree」を使うと、次のようなネットワーク設定に便利な機能が使えます。

- ネットワークの診断を行い、問題があればその原因や対応策を表示します。
 - 自宅やオフィスなどのネットワーク設定をプロファイルとして登録しておけば、プロファイルを選択するだけでネットワーク設定やネットワークデバイスを切り替えられます。
 - 有線 LAN ケーブルが抜かれたときに、自動で無線 LAN に切り替えます。
 - 無線 LAN アクセスポイントのネットワーク名 (SSID) に接続すると、そのネットワークで作成されていたプロファイルに自動的に切り替わります。
 - 近隣で使われている無線 LAN デバイスの SSID を検出し、信号の強度に応じて仮想のマップ上に表示します。

など

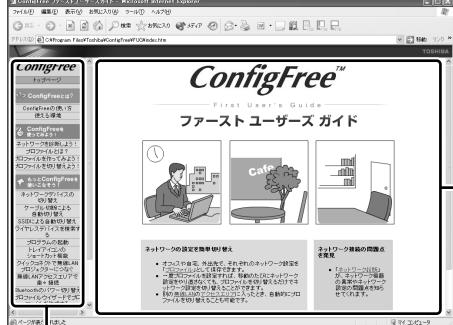
他にも便利な機能が色々用意されています。

詳細については「ファーストユーザーズガイド」をご覧ください。

「ConfigFree」は、コンピュータの管理者のユーザーアカウントで使用してください。

ファーストユーザーズガイドの起動方法

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA] → [ネットワーク] → [ConfigFree ファーストユーザーズガイド] をクリックする
「ファーストユーザーズガイド」が表示されます。
左側に主な目次が並んでいますので、目的の項目をクリックすると右側に説明が表示されます。



・説明が表示されます。

一主な目次です。

「ConfigFree」の起動方法

購入時の状態では、Windows を起動すると通知領域に「ConfigFree」のアイコン（）が表示されています。

「ConfigFree」を終了させた場合は、次の手順で起動してください。

1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA] → [ネットワーク] → [ConfigFree] をクリックする

[ConfigFree (ネットワーク診断)] 画面が表示されます。

[タスクトレイに常駐する] をチェックすると、通知領域にアイコン（）が表示されます。

「ConfigFree」を起動したときは、「ConfigFree」の説明画面（OverView）が表示されます。以降必要なない場合は、[次回から表示しない] をチェックし、[閉じる] ボタンをクリックして画面を閉じてください。

「ConfigFree」の詳細については、「ファーストユーザーズガイド」またはヘルプを確認してください。

ヘルプの起動方法

1 「ConfigFree」を起動して、表示された画面の [ヘルプ] ボタンをクリックする

[ConfigFree ヘルプ] 画面が表示されます。

2 内蔵モデムについて

内蔵モデムを使用する場合、モジュラーケーブルを2線式の電話回線に接続します。内蔵モデムは、ITU-T V.90に準拠しています。通信先のプロバイダがV.90以外の場合は、最大33.6Kbpsで接続されます。

お願い 内蔵モデムの操作にあたって

- モジュラーケーブルをパソコン本体のモジュラージャックに接続した状態で、モジュラーケーブルを引っ張ったり、パソコン本体の移動をしないでください。モジュラージャックが破損するおそれがあります。
- 市販の分岐アダプタを使用して他の機器と並列接続した場合、本モデムのデータ通信や他の機器の動作に悪影響を与えることがあります。
- 回線切換器を使用する場合は、両切り式のもの（未使用機器から回線を完全に切り離す構造のもの）を使用してください。

1 海外でインターネットに接続する

本製品の内蔵モデムで使用できる国／地域については、「付録4 技術基準適合について」を参照してください。

海外でモデムを使用する場合、「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」による地域設定を行います。設定方法については、《サイバーサポート（検索）：海外でインターネットに接続したい》をご覧ください。

本製品を日本で使用する場合は、必ず日本モードで使用してください。他地域のモードで使用すると電気通信事業法（技術基準）に違反する行為となります。

地域設定は、「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」でのみ行ってください。

「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」以外で地域設定の変更をした場合、正しく変更できない場合があります。

3章

周辺機器の接続

パソコンでできることをさらに広げたい。そのためには周辺機器を接続して、機能を拡張しましょう。本製品に取り付けられるさまざまな周辺機器の取り付けかたや各種設定、取り扱いについて説明しています。

1	周辺機器について	94
2	PC カードを接続する	96
3	USB 対応機器を接続する	99
4	テレビを接続する	102
5	外部ディスプレイを接続する	108
6	モニタ入力を使う	110
7	i.LINK (IEEE1394) 対応機器を接続する	113
8	その他の機器を接続する	115
9	メモリを増設する	119

1 周辺機器について

周辺機器とは、パソコンに接続して使う機器のことです。周辺機器を使うと、パソコンの性能を高めたり、機能を広げることができます。

周辺機器については、それぞれの機器に付属の説明書もあわせてお読みください。

周辺機器には、次のようなものがあります。本製品では、すでにパソコンに内蔵されているものもあります。

- プリンタ ● ハードディスクドライブ（本製品では内蔵）
- PC カード ● モデム（本製品では内蔵）
- スキャナ ● フロッピーディスクドライブ
- マウス ● デジタルカメラ ● 増設メモリ^{*1}

* 1 増設の際は、メモリ購入前に「本章 9 メモリを増設する」をご覧ください。

参照 周辺機器の接続場所は『さあ始めよう 2 章 1 各部の名前』

周辺機器によってインターフェースなどの規格が異なります。本製品に対応しているか確認してから購入してください。インターフェースとは、機器を接続するときのケーブルやコネクタの形状などの規格のことです。

お願い 取り付け／取りはずしにあたって

取り付け／取りはずしの方法は周辺機器によって違います。本章の各節を読んでから作業をしてください。またその際には、次のことを守ってください。守らなかった場合、故障するおそれがあります。

- ホットインサーションに対応していない周辺機器を接続する場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、電源コネクタから AC アダプタのプラグを抜き、電源コードを電源コンセントからはずし、バッテリパックを取りはずしてから作業を行ってください。ホットインサーションとは、電源を入れた状態で機器の取り付け／取りはずしを行うことです。
- 適切な温度範囲内、湿度範囲内であっても、結露しないように急激な温度変化を与えないでください。冬場は特に注意してください。
- ホコリが少なく、直射日光のあたらない場所で作業をしてください。
- 極端に温度や湿度の高い／低い場所では作業しないでください。
- 静電気が発生しやすい環境（乾燥した場所やカーペット敷きの場所など）では作業をしないでください。
- 本書で説明している場所のネジ以外は、取りはずさないでください。
- 作業時に使用するドライバは、ネジの形、大きさに合ったものを使用してください。
- 本製品を分解、改造すると、保証やその他のサポートは受けられません。
- パソコン本体のコネクタにケーブルを接続するときは、コネクタの上下や方向をあわせてください。

- ケーブルのコネクタに固定用ネジがある場合は、パソコン本体のコネクタに接続した後、ケーブルがはずれないようにネジを締めてください。
- パソコン本体のコネクタにケーブルを接続した状態で、接続部分に無理な力を加えないでください。

1) 周辺機器を使う前に

周辺機器を使用する場合は、その機器を使用するための準備や設定が必要です。

1 ドライバをインストールする

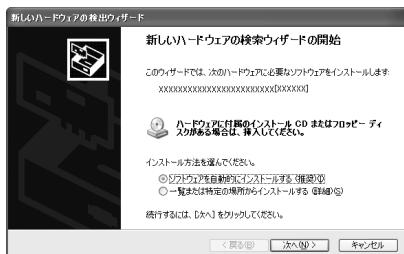
周辺機器を使うには、ドライバや専用のアプリケーションのインストールが必要です。ドライバはあらかじめパソコンに用意されている場合と、周辺機器に添付のフロッピーディスクやCD-ROMを使う場合があります。

【自動的に対応（プラグアンドプレイ）している場合】

Windowsには、あらかじめたくさんのドライバが用意されています。

周辺機器を接続するとWindowsがドライバの有無をチェックし、対応したドライバが見つかると、自動的にインストールを開始します。

[新しいハードウェアの検出ウィザード]画面が表示された場合は、画面に従って操作してください。



【自動的に対応（プラグアンドプレイ）していない場合】

[ハードウェアの追加ウィザード]を起動するか、機器に付属の説明書を確認し、ドライバのインストールや必要な設定を行ってください。

[ハードウェアの追加ウィザード]は、次のように起動します。

- [コントロールパネル]を開き、[プリンタとその他のハードウェア]をクリックする
- [関連項目]の [ハードウェアの追加] をクリックする

2 PC カードを接続する

目的に合わせた PC カードを使うことにより、パソコンの機能が大きく広がります。PC カードには、次のようなものがあります。

- ISDN カード
- SCSI カード
- フラッシュメモリカード用アダプタカード など

1) PC カードを使う前に

本製品は、PC Card Standard 準拠の TYPE II 対応のカード（CardBus 対応カードも含む）を使用できます。

PC カードの大部分は電源を入れたままの取り付け／取りはずし（ホットインサーション）に対応しているので便利です。

使用している PC カードがホットインサーションに対応しているかどうかなど、詳しい使いかたについては『PC カードに付属の説明書』を確認してください。

お願い

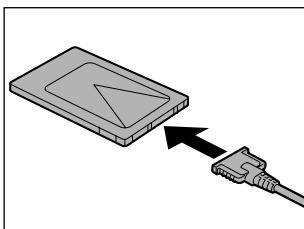
- ホットインサーションに対応していないPCカードを使用する場合は、必ずパソコン本体の電源を切ってから取り付け／取りはずしを行ってください。
- PC カードには、長い時間使用していると熱を帯びるものがあります。PC カードを取りはずす際に、PC カードが熱い場合は、少し時間をおき、冷めてから PC カードを取りはずしてください。
- PC カードの使用停止は必ず行ってください。使用停止せずに PC カードを取りはずすとシステムが致命的影響を受ける場合があります。

2) PC カードを使う

PC カードを使う場合、パソコン本体の PC カードスロットに PC カードを取り付けてください。

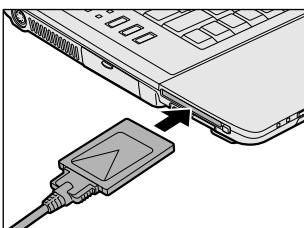
1 取り付け

1 PC カードにケーブルを付ける



SCSI カードなど、ケーブルの接続が必要なときに行います。

2 PC カードの表裏を確認し、表を上にして挿入する



カードは無理な力を加えず、静かに奥まで押してください。きちんと奥まで差し込まれていない場合、PC カードを使用できない、または PC カードが壊れる場合があります。

カードを接続した後、カードが使用できるように設定されているか確認してください。

2 取りはずし

お願い

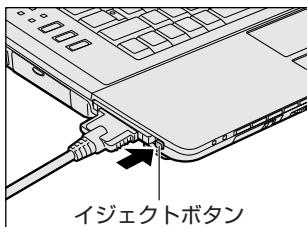
- 取りはずすときは、PC カードをアプリケーションやシステムで使用していないことを確認してください。

1 PC カードの使用を停止する

- ① 通知領域の [ハードウェアの安全な取り外し] アイコン () をクリックする

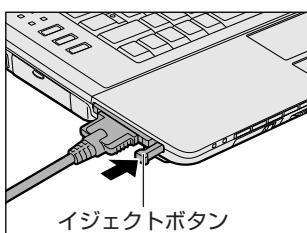
-
- ② 表示されたメニューから [XXXX (取りはずす PC カード) を安全に取り外します] をクリックする
 - ③ 「安全に取り外すことができます」のメッセージが表示されたら、[閉じる] ボタン () をクリックする

2 イジェクトボタンを押す



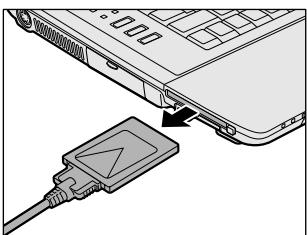
イジェクトボタンが出てきます。

3 もう一度イジェクトボタンを押す



「カチッ」と音がするまで押してください。
カードが少し出でます。

4 カードをしっかりとつかみ、抜く



カードを抜くときはケーブルを引っ張らないでください。
故障するおそれがあります。
熱くないことを確認してから行ってください。

5 イジェクトボタンを押す

イジェクトボタンが収納されていない場合は、イジェクトボタンを押して収納します。

3 USB 対応機器を接続する

USB 対応機器は、電源を入れたままの取り付け／取りはずしができ、プラグアンドプレイに対応しています。

USB 対応機器には次のようなものがあります。

- USB 対応マウス
- USB 対応プリンタ
- USB 対応スキャナ
- USB 対応ターミナルアダプタ など

本製品の USB コネクタには USB2.0 対応機器と USB1.1 対応機器を取り付けることができます。

USB 対応機器の詳細については、『USB 対応機器に付属の説明書』を確認してください。

お願い

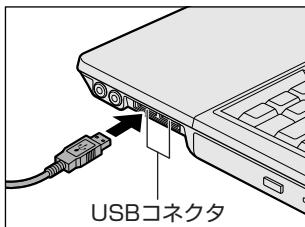
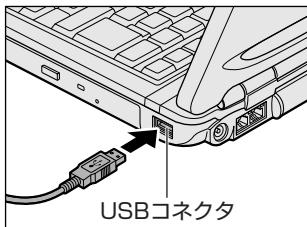
操作にあたって

- 電源供給を必要とする USB 対応機器を接続する場合は、USB 対応機器の電源を入れてからパソコン本体に接続してください。
- USB 対応機器を使用するには、システム (OS)、および機器用ドライバの対応が必要です。
- すべての USB 対応機器の動作確認は行っていません。したがってすべての USB 対応機器の動作は保証できません。
- USB 対応機器を接続したままスタンバイまたは休止状態にすると、復帰後 USB 対応機器が使用できない場合があります。その場合は、USB 対応機器を接続し直すか、パソコンを再起動してください。

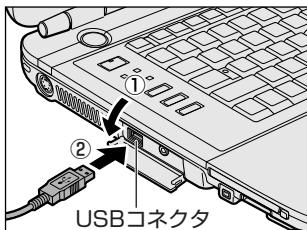
1 取り付け

- USB ケーブルのプラグをパソコン本体の USB コネクタに差し込む
プラグの向きを確認して差し込んでください。

【右側面】



【左側面】



コネクタカバーを開き①、プラグを差し込む②

- USB ケーブルのもう一方のプラグを USB 対応機器に差し込む
この手順が必要ない機器もあります。

2 取りはずし

お願い

- 取りはずすときは、USB対応機器をアプリケーションやシステムで使用していないことを確認してください。
- MO ドライブなど、記憶装置の USB 対応機器を取りはずす場合は、データが消失するおそれがあるため、必ず使用停止の手順を行ってください。

1 USB 対応機器の使用を停止する

- ① 通知領域の [ハードウェアの安全な取り外し] アイコン () をクリックする
 - ② 表示されたメニューから [XXXX (取りはずす USB 対応機器) を安全に取り外します] をクリックする
 - ③ 「安全に取り外すことができます」のメッセージが表示されたら、[閉じる] ボタン () をクリックする
- * 通知領域にこのアイコンが表示されないUSB 対応機器は、手順 1 は必要ありません。

2 パソコン本体と USB 対応機器に差し込んである USB ケーブルを抜く

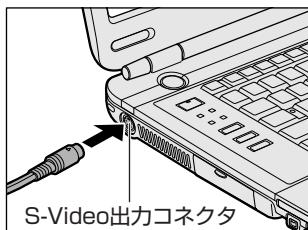
4 テレビを接続する

本製品の S-Video^{エスビデオ}出力コネクタとテレビを S 端子ケーブルで接続すると、テレビ画面に表示させることができます。

接続する S 端子ケーブルは、市販の 4 ピンコネクタのケーブルを使用してください。

1 取り付け

- S 端子ケーブルのプラグをパソコン本体の S-Video 出力コネクタに差し込む



- S 端子ケーブルのもう一方のプラグをテレビの S1/S2 映像入力端子に差し込む

音声はパソコンのスピーカーで聞くか、ヘッドホン出力端子にヘッドホンを接続して聞いてください。

2 テレビに表示する

テレビに表示するには次の設定を行ってください。設定を行わないと、テレビには表示されません。

お願い

- 必ず、DVD-Videoなどを再生する前に、表示装置の切替えを行ってください。再生中は表示装置を切り替えないでください。
- 次のようなときには、表示装置を切り替えないでください。
 - データの読み出しや書き込みをしている間
 - 通信を行っている間

【方法1－【画面のプロパティ】で設定する】

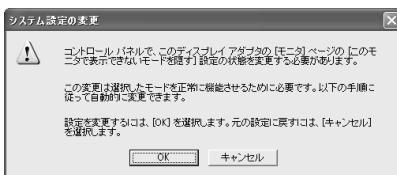
- 1 [コントロールパネル]を開き、[デスクトップの表示とテーマ]をクリックする
- 2 [画面]をクリックする
[画面のプロパティ]画面が表示されます。
- 3 [設定]タブで [詳細設定]ボタンをクリックする
- 4 [GeForce FX Go5200 32M/64M]タブで次のいずれかに設定する



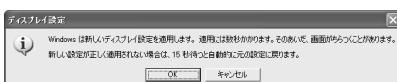
【メッセージについて】

設定の途中で、次のメッセージが表示された場合は、[OK]または[はい]ボタンをクリックしてください。

● [システム設定の変更]画面



● [ディスプレイ設定]画面



- [ディスプレイ設定の確認] 画面



【設定方法】

- 内部液晶ディスプレイだけに表示

- ① [nView モード] で [1 つのディスプレイ] を選択する
- ② [現在のディスプレイ] で [デジタル ディスプレイ] を選択する
- ③ [OK] ボタンをクリックする

- 内部液晶ディスプレイとテレビの同時表示

- ① [nView モード] で [クローン] を選択する
- ② [ペアを表示する:] で [デジタル ディスプレイ + TV] を選択する
- ③ [適用] ボタンをクリックする
- ④ [ディスプレイ] で [nView ディスプレイ : TV NTSC-M] を選択する
選択項目の「TV NTSC-M」の部分は、前回設定した内容によって表示が異なります。
- ⑤ [デバイス設定] ボタンをクリックし、表示されるメニューから [出力デバイスの選択] → [詳細] を選択する
- ⑥ テレビの形式を選択する
国内のテレビの場合は [NTSC-J] です。
- ⑦ [OK] ボタンをクリックする
- ⑧ [(マルチモニタ) と…] 画面で [OK] ボタンをクリックする

- テレビだけに表示

- ① [nView] モードで [1 つのディスプレイ] を選択する
- ② [現在のディスプレイ] で [TV] を選択する
- ③ [OK] ボタンをクリックする

5 [画面のプロパティ] 画面で [OK] ボタンをクリックする

【方法2 - (Fn)+(F5)キーを使う】

* モニタ入力モード中は使用できません。

(Fn)キーを押したまま(F5)キーを押すと、表示装置を選択する画面が表示されます。カーソルは現在の表示装置を示しています。(Fn)キーを押したまま(F5)キーを押すたびに、カーソルが移動します。表示する装置にカーソルが移動したら、(Fn)キーを離すと表示装置が切り替わります。

●表示装置をLCD（内部液晶ディスプレイ）に戻す方法

現在の表示装置がLCD（内部液晶ディスプレイ）以外に設定されている場合、表示装置をLCDに戻すことができます。表示装置を選択する画面が表示されていない状態で、(Fn)+(F5)キーを3秒以上押し続けてください。

表示装置に何も表示されず、選択する画面が表示されているか確認できない場合は、いったんキーボードから指を離してから、(Fn)+(F5)キーを3秒以上押し続けてください。



- LCD 内部液晶ディスプレイだけに表示
- LCD／CRT 内部液晶ディスプレイと外部ディスプレイに同時表示
- CRT 外部ディスプレイだけに表示
外部ディスプレイを接続している／していないに関わらず、外部ディスプレイだけに表示されます。
内部液晶ディスプレイには何も表示されません。
- LCD／TV 内部液晶ディスプレイとテレビに同時表示
- TV テレビだけに表示
テレビを接続している／していないに関わらず、テレビだけに表示されます。
内部液晶ディスプレイには何も表示されません。

複数のユーザで使用する場合、ユーザアカウントを切り替えるときは [Windowsのログオフ] 画面で [ログオフ] を選択して切り替えてください。[ユーザーの切り替え] で切り替えた場合は、(Fn)+(F5)キーで表示装置を切り替えられません。

参照 ➔ ユーザアカウントの切り替え《できるdynabook》

3 動画をテレビまたは外部ディスプレイに表示する

表示装置を内部液晶ディスプレイとテレビの同時表示、または内部液晶ディスプレイと外部ディスプレイの同時表示に設定している場合、動画をテレビや外部ディスプレイに表示させるには、次の設定を行います。

- 1 [コントロールパネル] を開き、[デスクトップの表示とテーマ] をクリックする
- 2 [画面] をクリックする
[画面のプロパティ] 画面が表示されます。
- 3 [設定] タブで [詳細設定] ボタンをクリックする
- 4 [GeForce FX Go5200 32M/64M] タブで [GeForce FX Go5200 32M/64M] ボタンをクリックする



- 5 表示されるメニューから [フルスクリーンビデオ] をクリックする
- 6 [フルスクリーンデバイス] で [プライマリディスプレイ] または [セカンダリディスプレイ] を選択する
 - [プライマリディスプレイ] または [セカンダリディスプレイ] を選択すると、テレビまたは外部ディスプレイに動画を表示できます。
 - [プライマリディスプレイ] を選択すると、内部液晶ディスプレイに動画がフルスクリーン表示されます。テレビまたは外部ディスプレイにはウィンドウ表示されます。
 - [セカンダリディスプレイ] を選択すると、テレビまたは外部ディスプレイに動画がフルスクリーン表示されます。内部液晶ディスプレイにはウィンドウ表示されます。

4 テレビを接続する

[無効] を選択すると、テレビまたは外部ディスプレイに動画は表示されません。



7 [OK] ボタンをクリックする

8 [画面のプロパティ] 画面で [OK] ボタンをクリックする

4 取りはずし

1 パソコンの電源を切った後、パソコン本体とテレビに差し込んであるS端子ケーブルを抜く

5 外部ディスプレイを接続する

アールジービー
RGB コネクタにケーブルを接続して、外部ディスプレイに表示させることができます。

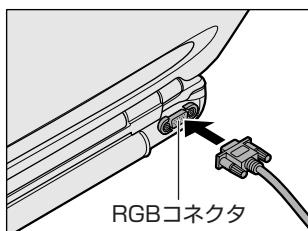
パソコンの電源を切ってから接続してください。

メモ

使用可能なディスプレイは解像度により異なります。解像度にあったディスプレイを接続してください。

1 接続

1 外部ディスプレイのケーブルのプラグをRGB コネクタに差し込む



外部ディスプレイを接続してパソコン本体の電源を入れると、本体は自動的にその外部ディスプレイを認識します。

取りはずすときは、RGB コネクタからケーブルのプラグを抜きます。

2 表示装置を切り替える

外部ディスプレイを接続した場合には次の表示方法があります。

- 外部ディスプレイだけに表示する
- 外部ディスプレイと内部液晶ディスプレイに同時表示する
- 内部液晶ディスプレイだけに表示する

「東芝省電力」で表示自動停止機能を設定して外部ディスプレイの表示が消えた場合、キーあるいはタッチパッドの操作により表示が復帰します。また、スタンバイに設定してある場合は、電源スイッチを押してください。

表示が復帰するまで 10 秒前後かかることがあります、故障ではありません。

【切替え方法】

表示装置を切り替える方法は、テレビに表示する場合の「方法 1」や「方法 2」を参考にしてください。「方法 1」を参考にする場合は、[GeForce FX Go5200 32M/64M] タブの [現在のディスプレイ] で [アナログ ディスプレイ] を選択してください。

参照 → 表示装置の切替えについて「本章 4-2 テレビに表示する」

また、内部液晶ディスプレイと外部ディスプレイの同時表示に設定した場合、動画を外部ディスプレイに表示するには設定が必要です。

参照 ➤ 外部ディスプレイに動画を表示する

「本章 4-3 動画をテレビまたは外部ディスプレイに表示する」

メモ

- 外部ディスプレイと内部液晶ディスプレイを同時表示させる場合は、外部ディスプレイ／内部ディスプレイとも内部液晶ディスプレイの色数／解像度で表示されます。

3 表示について

外部ディスプレイに表示する場合、表示位置や表示幅などが正常に表示されない場合があります。この場合は、外部ディスプレイ側で、表示位置や表示幅を設定してください。

参照 ➤ ビデオモードについて「付録 1-3 サポートしているビデオモード」

6 モニタ入力を使う

モニタ入力端子に次の機器を接続し、内部液晶ディスプレイに映像を表示することができます。

- アナログのビデオカメラ
- 家庭用 TV ゲーム機
- アナログのビデオデッキ
- TV 出力機能付き携帯電話 など

お願い モニタ入力の使用にあたって

- すべてのビデオカメラ、ビデオデッキ、家庭用 TV ゲーム機、TV 出力機能付き携帯電話の動作確認は行っていません。したがってすべてのビデオカメラ、ビデオデッキ、家庭用 TV ゲーム機、TV 出力機能付き携帯電話の動作は保証できません。
- 使用する前に、アプリケーションをすべて終了してください。モニタ入力モード中は、Windows 画面が表示されないため、タッチパッドやキーボード操作で誤動作することがあります。
- 「東芝省電力」の「モニタの電源を切る」を「なし」に設定してください。また、モニタ入力モード中も「東芝省電力」の設定に従ってシステムがスタンバイや休止状態を実行します。スタンバイや休止状態を実行すると、モニタ入力モードを終了しますので、必要に応じてあらかじめ設定を変更してください。

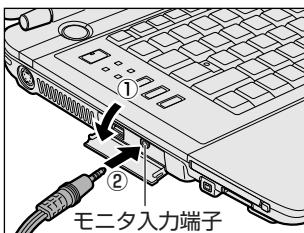
参照 省電力機能について「4章 2-① 東芝省電力」

- パソコンの電源を入れたときと、スタンバイや休止状態から復帰したときは、約 30 秒間モニタ入力ボタンを受け付けません。モニタ入力ボタンを押してもモニタ入力モードに切り替わらない場合は、少し時間をおいて、もう 1 度押してください。
- モニタ入力モード中は、パソコン本体に接続されたテレビや外部液晶ディスプレイに表示を切り替えることはできません。
- モニタ入力モード中は、インスタントセキュリティ機能を実行しないでください。
- モニタ入力モード中は、Windows 画面が表示されません。Windows が表示するメッセージなどを確認する場合は、モニタ入力モードを終了してください。
- 次の操作を行うと、モニタ入力モードは、自動的に終了します。
 - ・ パソコンの電源を切る
 - ・ スタンバイを実行する
 - ・ 休止状態を実行する

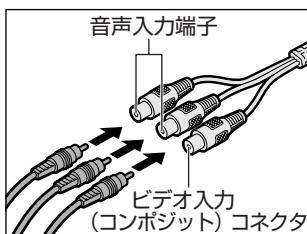
1 切替え方法

パソコン本体の電源を切った状態で行ってください。

- 1 コネクタカバーを開き①、モニタ入力ケーブルのプラグをパソコン本体のモニタ入力端子に差し込む②



- 2 接続する機器用の出力ケーブルのプラグをモニタ入力ケーブルの音声入力端子（赤：音声右、白：音声左）、ビデオ入力（コンポジット）コネクタ（黄）に差し込む



出力ケーブルの名称は、ビデオケーブル、AV ケーブル、TV 出力ケーブルなど接続する機器によって異なります。接続する機器の説明書を確認してください。

- 3 接続する機器用の出力ケーブルのもう一方のプラグを接続する機器の出力端子に差し込む

- 4 接続した機器の電源を入れる

- 5 パソコン本体の電源スイッチ、またはクイックプレイボタンを押す
電源スイッチを押した場合は、Windows が起動します。

クイックプレイボタンを押した場合は、「クイックプレイ」が起動します。

ドライブに音楽 CD や DVD-Video がセットされている場合は、再生を開始します。再生を停止してください。

参照 ➤ 再生の停止 「1 章 3-2-2 停止／終了方法」

「1 章 3-3-2 停止／終了方法」

- 6 モニタ入力ボタンを押す

モニタ入力モードになります。

映像の再生などの操作は、それぞれの機器の操作ボタンで行ってください。

メモ

- モニタ入力モードに切り替えたときのアスペクト比（画面の縦・横の比）は4:3です。クイックプレイボタンを押すと16:9に切り替わり、もう一度押すと4:3に戻ります。
- モニタ入力端子は、LINE IN端子を兼ねているため、モニタ入力ケーブルに接続した機器の音声データがパソコンのスピーカから出力されます。出力をやめるには、モニタ入力モードを終了し、Windows上の「ボリュームコントロール」で【ライン入力】の【ミュート】にチェックをつけてください。

参照→ ボリュームコントロール「1章 7-① スピーカの音量を調整する」

【モニタ入力モードを終了するとき】

お願い

- パソコンの電源を切る前に、モニタ入力モードを終了してください。モニタ入力モード中に強制終了した場合、データが消失するおそれがあります。

1 モニタ入力ボタンを押す

「切替え方法」の手順5で電源スイッチを押した場合は、Windowsの画面に戻ります。

クイックプレイボタンを押した場合は、「クイックプレイ」の状態に戻ります。

モニタ入力モードに関する表示

モニタ入力モード中は、CD/DVD再生  LEDとオーディオデジタル再生  LEDが点灯します。



お願い オーディオボタンについて

Windowsを起動してからモニタ入力モードに切り替えたときは、モニタ入力モード中にオーディオボタンを押すと、オーディオボタンに割り当てられたアプリケーションが起動し、音声が聞こえますが、画面表示はモニタ入力が優先されます。アプリケーションの操作に切り替える場合は、モニタ入力ボタンを押してモニタ入力モードを終了してください。

参照→ オーディオボタン「1章 2 オーディオボタン」

7 i.LINK (IEEE1394) 対応機器を接続する

アイリンク アイトリブルーイチサンキュウヨン

i.LINK (IEEE1394) コネクタ (i.LINK コネクタとよびます) に接続します。

i.LINK (IEEE1394) 対応機器 (i.LINK 対応機器とよびます) には次のようなものがあります。

- i.LINK 対応デジタルビデオカメラ
- i.LINK 対応ハードディスクドライブ
- i.LINK 対応MO ドライブ
- i.LINK 対応プリンタ など

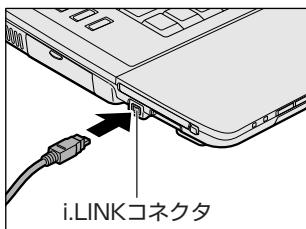
i.LINK 対応機器の詳細については、『i.LINK 対応機器に付属の説明書』を確認してください。

お願い 操作にあたって

- 静電気が発生しやすい場所や電気的ノイズが大きい場所での使用時には注意してください。外来ノイズの影響により、転送データが一部欠落する場合があります。万一、パソコンの故障、静電気や電気的ノイズの影響により、再生データや記録データの変化、消失が起きた場合、その際のデータ内容の保証はできません。あらかじめ了承してください。
- ビデオカメラから取り込んだ画像データ、音声データは、個人として楽しむ他は、著作権法上、権利者に無断で使用できません。
- デジタルビデオカメラなどを使用し、データ通信を行っているときに他の i.LINK 対応機器の取り付け／取りはずしを行うと、データがコマ落ちする場合があります。i.LINK 対応機器の取り付け／取りはずしは、データ通信を行っていないときまたはパソコン本体の電源を入れる前に行ってください。
- i.LINK 対応機器を使用するには、システム (OS) および周辺機器用ドライバの対応が必要です。
- すべての i.LINK 対応機器の動作確認は行っていません。したがって、すべての i.LINK 対応機器の動作は保証できません。
- ケーブルは規格に準拠したもの (S100、S200、S400 対応) を使用してください。詳細については、ケーブルのメーカーに問い合わせてください。
- 3m 以内の長さのケーブルを使用してください。
- 取り付ける機器によっては、スタンバイまたは休止状態にできなくなる場合があります。
- i.LINK 対応機器を接続してアプリケーションから使用している間は、i.LINK 対応機器の取り付け／取りはずしや電源コードと AC アダプタの取りはずしなど、パソコン本体の省電力設定の自動切替えを伴う操作を行わないでください。行った場合、データの内容は保証できません。
- i.LINK 対応機器とパソコン本体の間でデータ転送している間は、スタンバイまたは休止状態にしないでください。データの転送が中断される場合があります。

1 取り付け

- 1 ケーブルのプラグをパソコン本体の i.LINK コネクタに差し込む
プラグの向きを確認して差し込んでください。



- 2 ケーブルのもう一方のプラグを i.LINK 対応機器に差し込む

2 取りはずし

- 1 i.LINK 対応機器の使用を停止する

- ① 通知領域の [ハードウェアの安全な取り外し] アイコン () をクリックする
 - ② 表示されたメニューから取りはずす i.LINK 対応機器を選択する
 - ③ 「安全に取り外すことができます」のメッセージが表示されたら、[閉じる] ボタン () をクリックする
- * 通知領域にこのアイコンが表示されない i.LINK 対応機器は、手順 1 は必要ありません。

- 2 パソコン本体と i.LINK 対応機器に差し込んであるケーブルを抜く

3 i.LINKによるネットワーク接続

システム (OS) が Windows XP で i.LINK コネクタがあるパソコン同士を i.LINK (IEEE1394) ケーブルで接続すると、2台で通信ができます。ネットワークの設定については、『ヘルプとサポート』を参照してください。《サイバーサポート》で [検索対象] を [Windows XP ヘルプ] にして質問を入力し、検索することもできます。

- 1 ケーブルの一方のプラグをパソコン本体の i.LINK コネクタに接続する
- 2 ケーブルのもう一方のプラグを、接続する機器の i.LINK コネクタに接続する

8 その他の機器を接続する

本製品には、ここまで説明してきた他にも、さまざまな機器を接続できます。

1) マイクロホン

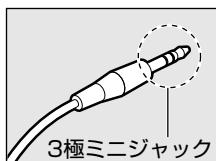
マイク入力端子には、マイクロホンを接続できます。

本製品にはサウンド機能が内蔵されています。

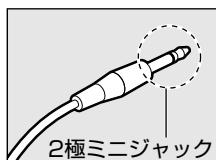
参照 ➡ サウンド機能について「1章 7 サウンド機能」

1 使用できるマイクロホン

本製品で使用できるマイクロホンは次のとおりです。



- モノラルマイクのみ使用できます。
- プラグは 3.5mm φ 3 極ミニジャックタイプが使用できます。



3.5mm φ 2 極ミニジャックタイプのマイクロホンでもマイクロホン本体にバッテリなどを内蔵し、電源供給を必要としないマイクロホンであれば使用できます。

音声認識ソフトとあわせて使用する場合は、各アプリケーションの取り扱い元が推薦するマイクロホンを使用してください。

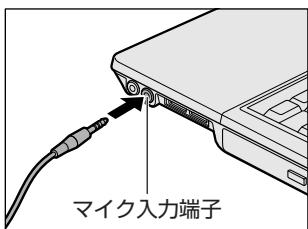
本製品には、音声認識ソフト「LaLaVoice」が用意されています。

参照 ➡ 「LaLaVoice」について

《サイバーサポート（検索）：パソコンを音声で操作したい》

2 接続

1 マイクロホンのプラグをマイク入力端子に差し込む



取りはずすときは、マイク入力端子からマイクロホンのプラグを抜きます。

2 ヘッドホン

ヘッドホン出力端子に接続します。

ヘッドホンのプラグは、直径 3.5mm φステレオミニジャックタイプを使用してください。

お願い

- 次のような場合にはヘッドホンを使用しないでください。雑音が発生する場合があります。
 - ・パソコン本体の電源を入れる／切るとき
 - ・ヘッドホンの取り付け／取りはずしをするとき

本製品にはサウンド機能が内蔵されています。

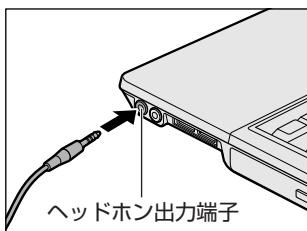
ヘッドホンの音量はボリュームダイヤル、または Windows のボリュームコントロールで調節してください。

ボリュームコントロールは、次のように操作して起動します。

- ① [スタート] → [すべてのプログラム] → [アクセサリ] → [エンターテイメント] → [ボリュームコントロール] をクリックする

1 接続

1 ヘッドホンのプラグをヘッドホン出力端子に差し込む



取りはずすときは、ヘッドホン出力端子からヘッドホンのプラグを抜きます。

3 オーディオ機器

モニタ入力端子には、オーディオ機器を接続できます。本製品のモニタ入力端子は、LINE IN 端子を兼ねています。

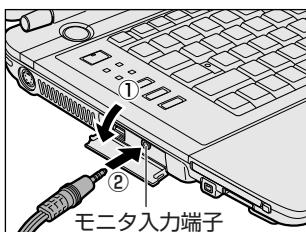
参照 ➤ モニタ入力端子「本章 6 モニタ入力を使う」

1 接続

市販のオーディオケーブルを使用してください。

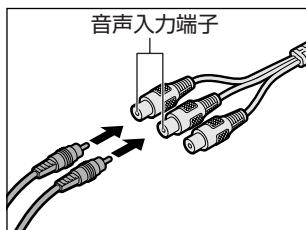
オーディオケーブルのプラグは、直径 3.5mm Φステレオミニジャックタイプを使用してください。

- 1 コネクタカバーを開き①、モニタ入力ケーブルのプラグをパソコン本体のモニタ入力端子に差し込む②



コネクタの形状を確認して差し込んでください。

- 2 オーディオケーブルのプラグをモニタ入力ケーブルの音声入力端子（赤：音声右、白：音声左）に差し込む



- 3 オーディオケーブルのもう一方のプラグをオーディオ機器の LINE OUT 端子に差し込む

取りはずすときは、音声入力端子からオーディオケーブルのプラグを抜き、モニタ入力端子からモニタ入力ケーブルを抜きます。

4 アナログのビデオカメラやビデオデッキなど

* TV チューナボックス同梱モデルのみ

TV チューナボックスに接続されたビデオカメラやビデオデッキの映像を取り込み、編集したり、DVD に書き込んだりできます。

- 1 TV チューナボックスのビデオ入力ポートに TV チューナボックスに同梱のビデオケーブルを接続する

参照 ➤ ビデオ入力ポート 『TV チューナボックス 取扱説明書』

- 2 ビデオケーブルのもう一方のプラグを接続する機器の出力端子に差し込む

ビデオカメラやビデオデッキなどを接続したら、「WinDVR」を起動してください。
[スタート] → [すべてのプログラム] → [InterVideo WinDVR] → [InterVideo WinDVR] をクリックすると起動します。

「WinDVR」の使いかたについては、同梱の『InterVideo WinDVR ユーザーズ・マニュアル』をご覧ください。

9 メモリを増設する

増設メモリスロットに増設メモリを取り付けることができます。

本製品には2つの増設メモリスロット（スロットAとスロットB）があり、スロットAはすでに256MBのメモリが取り付けられています。別売りの増設メモリをスロットBに取り付けたり、スロットAのメモリを付け替えることができます。

取り付けることのできるメモリの容量は、2つのスロットを合わせて最大2GBまでです。

⚠ 警告

- 本文中に説明されている部分以外は絶対に分解しないでください。内部には高電圧部分が数多くあり、万一触ると、感電ややけどのおそれがあります。

⚠ 注意

- ステープル、クリップなどの金属や、コーヒーなどの液体を機器内部に入れないでください。ショート・発煙のおそれがあります。万一、機器内部に入った場合は、バッテリを取りはずし、電源を入れずに、お買い求めの販売店、またはお近くの保守サービスに点検を依頼してください。
- 増設メモリの取り付け／取りはずしは、必ず電源を切り、ACアダプタのプラグを抜き、バッテリパックを取りはずしてから作業を行ってください。電源を入れたまま取り付け／取りはずしを行うと感電、故障のおそれがあります。
- 電源を切った直後はやけどするおそれがあるので増設メモリの取り付け／取りはずしを行わないでください。電源を切った後30分以上たってから行うことをおすすめします。

お願い

- パソコン本体やメモリのコネクタに触らないでください。コネクタにゴミが付着すると、メモリが正常に使用できなくなります。
- 増設メモリを強く押したり、曲げたり、落としたりしないでください。
- 増設メモリは、コネクタに差し込む部分ではなく両端（切れ込みがある方）を持つようにしてください。
- スタンバイ／休止状態中に増設メモリの取り付け／取りはずしを行わないでください。スタンバイ／休止状態が無効になります。また、保存されていないデータは消失します。
- ネジをゆるめる際は、ネジの種類に合ったドライバを使用してください。
- キズや破損を防ぐため、布などを敷いた安定した台の上にパソコン本体を置いて作業を行ってください。

増設メモリは、本製品で動作が保証されているものを使用してください。それ以外のメモリを増設すると、起動しなくなったり、動作が不安定になる場合があります。仕様に合わない増設メモリを取り付けるとパソコン本体が起動せず、警告音（ビープ音）が数回鳴ります。

静電気について

増設メモリは、精密な電子部品のため静電気によって致命的損傷を受けることがあります。人間の体はわずかながら静電気を帯びていますので、増設メモリを取り付ける前に静電気を逃がしてから作業を行ってください。手近にある金属製のものに軽く指を触れるだけで、静電気を防ぐことができます。

1 取り付け

あらかじめ取り付けられているメモリを交換したい場合は、先にメモリの取りはずしを行ってください。

参照 「本節 2 取りはずし」

1 データを保存し、Windows を終了させて電源を切る

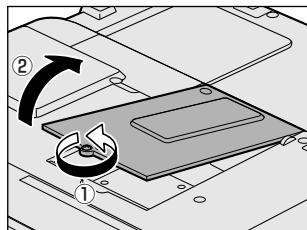
参照 電源の切りかた『さあ始めよう 1 章 4 電源を切る／入れる』

2 パソコン本体に接続されている AC アダプタとケーブル類をはずす

3 ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返し、バッテリパックを取りはずす

参照 バッテリパックの取りはずし「4 章 1-③ バッテリパックを交換する」

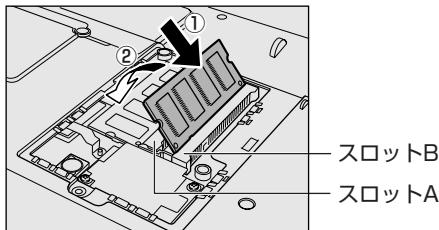
4 増設メモリカバーのネジ 1 本をゆるめ①、カバーをはずす②



5 増設メモリを増設メモリスロットのコネクタに斜めに挿入し①、固定するまで増設メモリを倒す②

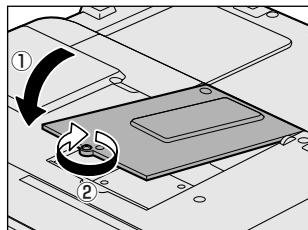
増設メモリの切れ込みを、増設メモリスロットのコネクタのツメに合わせて、しっかり差し込みます。フックがかかりにくいときは、ペン先などで広げてください。

このとき、増設メモリの両端（切れ込みが入っている部分）を持って差し込むようにしてください。



6 増設メモリカバーをつけて①、手順4でゆるめたネジ1本をとめる②

増設メモリカバーが浮いていないことを確認してください。



7 バッテリパックを取り付ける

参照 バッテリパックの取り付け 「4章 1-③ バッテリパックを交換する」

パソコン本体の電源を入れると総メモリ容量が自動的に認識されます。総メモリ容量が正しいか確認してください。

参照 メモリ容量の確認について 「本節 3 メモリ容量の確認」

2 取りはずし

- データを保存し、Windows を終了させて電源を切る

参照 電源の切りかた 『さあ始めよう 1 章 4 電源を切る／入れる』

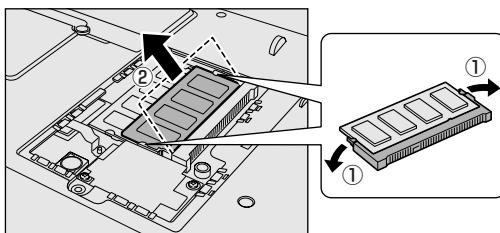
- パソコン本体に接続されている AC アダプタとケーブル類をはずす

- ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返し、バッテリパックを取りはずす

参照 バッテリパックの取りはずし 「4 章 1-③ バッテリパックを交換する」

- 増設メモリカバーのネジ 1 本をゆるめ、カバーをはずす

- 増設メモリを固定している左右のフックをペン先などで開き①、増設メモリをパソコン本体から取りはずす②



斜めに持ち上がった増設メモリを引き抜きます。

- 増設メモリカバーをつけて、手順 4 でゆるめたネジ 1 本をとめる
増設メモリカバーが浮いていないことを確認してください。

- バッテリパックを取り付ける

参照 バッテリパックの取り付け 「4 章 1-③ バッテリパックを交換する」

パソコン本体の電源を入れると総メモリ容量が自動的に認識されます。総メモリ容量が正しいか確認してください。

3 メモリ容量の確認

メモリ容量は「東芝 PC 診断ツール」で確認することができます。

【確認方法】

- ① [スタート] → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA] → [ユーティリティ] → [PC 診断ツール] をクリックする
- ② [基本情報] タブで [メモリ] の数値を確認する

参照▶「東芝 PC 診断ツール」について

『困ったときは 1章 3-① パソコンの情報を見る／状態を診断する』

4章

バッテリ駆動

パソコンをモバイル使用する際に大事な存在であるバッテリは、使いかたによっては長持ちさせることができます。

ここでは、充電や充電量の確認、省電力の設定、一時的に使用を中断するときの設定など、バッテリ使用するにあたっての取り扱い方法や各設定について説明しています。

-
- 1 バッテリについて 126
 - 2 省電力の設定をする 134
 - 3 パソコンの使用を中断する／電源を切る 135

1 バッテリについて

パソコン本体には、バッテリパックが取り付けられています。

バッテリを充電して、バッテリ駆動（ACアダプタを接続しない状態）で使うことができます。

バッテリ駆動で使う場合は、あらかじめACアダプタを接続してバッテリの充電を完了（フル充電）させるか、フル充電したバッテリパックを取り付けてください。

本製品を初めて使用するときは、バッテリを充電してから使用してください。

『安心してお使いいただくために』に、バッテリパックを使用するときの重要事項が記述されています。バッテリ駆動で使う場合は、あらかじめその記述をよく読み、必ず指示を守ってください。

⚠ 危険

- バッテリパックは、必ず本製品に付属の製品を使用してください。また、寿命などで交換する場合は、東芝純正バッテリ（TOSHIBA バッテリパック:PABAS043）をお買い求めください。指定以外の製品は、電圧や端子の極性が異なっていることがありますため火災・破裂・発熱のおそれがあります。

⚠ 警告

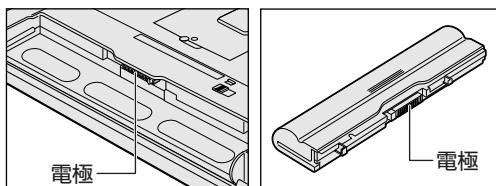
- 別売りのバッテリパックをお買い上げ後、初めて使用する場合にサビ、異臭、発熱などの異常があると思われるときは使用しないでください。
お買い求めの販売店または、お近くの保守サービスに点検を依頼してください。

⚠ 注意

- バッテリパックの充電温度範囲内（5～35℃）で充電してください。
充電温度範囲内で充電しないと、液もれや発熱、性能や寿命が低下するおそれがあります。
- バッテリパックの取り付け／取りはずしをする場合は、必ず電源を切り、電源コードのプラグを抜いてから作業を行なってください。スタンバイを実行している場合は、バッテリパックの取りはずしをしないでください。データが消失します。

お願い

- バッテリ駆動で使用しているときは、バッテリの残量に十分注意してください。バッテリを使いきってしまうと、スタンバイが効かなくなり、電源が切れて、メモリに記憶されていた内容はすべて消えます。また、時計用バッテリを使いきってしまうと、時刻や日付に誤差が生じます。このような場合は、1度全バッテリを充電してください。
- 電極に手を触れないでください。故障の原因になります。

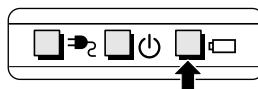


1) バッテリ充電量を確認する

バッテリ駆動で使う場合、バッテリの充電量が減って作業を中断したりしないよう、バッテリの充電量を確認しておく必要があります。

1 Battery LEDで確認する

ACアダプタを使用している場合、Battery LEDが点灯します。



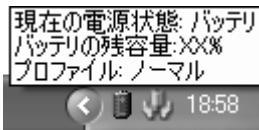
Battery LEDは次の状態を示しています。

青	充電完了
オレンジ	充電中
オレンジの点滅	充電が必要 参照 ➡ バッテリの充電について「本節 ② バッテリを充電する」
消灯	<ul style="list-style-type: none"> ・バッテリが接続されていない ・ACアダプタが接続されていない ・バッテリ異常 異常の場合は、購入店または近くの保守サービスに連絡してください。

2 通知領域の【省電力】アイコンで確認する

通知領域の【省電力】アイコン（）の上にポインタを置くと、バッテリ充電量が表示されます。

このときバッテリ充電量以外にも、現在使用しているプロファイル名や、使用している電源の種類が表示されます。



参照 ➔ 省電力設定について「本章 2 省電力の設定をする」

1ヵ月以上の長期にわたり、ACアダプタを接続したままパソコンを使用してバッテリ駆動を行なないと、バッテリ充電量が少しずつ減少します。このような状態でバッテリ充電量が減少したときは、Battery LEDや【省電力】アイコンで充電量の減少が表示されないことがあります。1ヶ月に1度は再充電することを推奨します。

参照 ➔ 再充電について「本節 ②-2 バッテリを長持ちさせるには」

3 バッテリ充電量が減少したとき

電源が入っている状態でバッテリの充電量の減少が進むと、次のように警告します。

- Battery LEDがオレンジ色に点滅する（バッテリの減少を示しています）
- バッテリのアラームが動作する

「東芝省電力」の【アクション設定】タブの【アラーム設定】で設定すると、バッテリの残量が少なくなったことを通知したり、自動的に対処する動作を行います。

上記のような警告が起こった場合はただちに次のいずれかの方法で対処してください。

- ①パソコン本体にACアダプタを接続し、電源を供給する
- ②電源を切ってから、フル充電のバッテリパックを取り換える

購入時は休止状態が設定されています。バッテリ減少の警告が起こっても何も対処しなかった場合、パソコン本体は自動的に休止状態になり、電源を切れます。

長時間使用しないでバッテリが自然に放電しきってしまったときは、警告音も鳴らず、Battery LEDでも放電しきったことを知ることはできません。長時間使用しなかったときは、充電してから使用してください。

時計用バッテリ

本製品には、取りはずしができるバッテリパックの他に、内蔵時計を動かすための時計用バッテリが内蔵されています。

時計用バッテリの充電は、ACアダプタを接続し電源を入れているとき（電源ON時）に行われますので、普通に使用しているときは、あまり意識する必要はありません。ただし、あまり充電されていない場合、時計が止まったり、遅れたりすることがあります。

時計用バッテリが切れていると、時間の再設定をうながす Warning（警告）メッセージが出ます。

【充電完了までの時間】

状態	時計用バッテリ
電源ON（Power  LEDが青色に点灯）	8時間

実際には充電完了まで待たなくても使用できます。また、充電状態を知ることはできません。

2 バッテリを充電する

充電方法とフル充電になるまでの充電時間について説明します。

お願い

- バッテリパックの温度が極端に高いまたは低いと、正常に充電されないことがあります。バッテリは5～35℃の室温で充電してください。

1 充電方法

1 パソコン本体にACアダプタを接続し、電源コードのプラグをコンセントに差し込む

DC IN  LEDが青色に点灯して Battery  LEDがオレンジ色に点灯すると、充電が開始されます。

電源コードのプラグをコンセントに差し込むと、電源のON／OFFにかかわらずフル充電になるまで充電されます。

2 Battery □ LED が青色になるまで充電する

バッテリの充電中は Battery □ LED がオレンジ色に点灯します。

DC IN □ LED が消灯している場合は、電源が供給されていません。AC アダプタ、電源コードの接続を確認してください。

【充電完了までの時間】

バッテリパックは消耗品です。バッテリ充電時間は、パソコン本体の機器構成や動作状況、また使用環境によって異なります。

周囲の温度が低いとき、バッテリパックの温度が高くなっているとき、周辺機器を取り付けている場合は、この時間よりも長くかかることがあります。

状態	充電時間
電源 ON	約 4.0 ~ 11.0 時間
電源 OFF	約 3.0 時間

【使用できる時間】

バッテリパックは消耗品です。バッテリ駆動での使用時間は、パソコン本体の機器構成や動作状況、また使用環境によって異なります。

次の時間は、充電完了の状態で使用した場合の目安にしてください。

測定法	JEITA 測定法 1.0
動作時間	約 3.5 時間

【使っていないときの充電保持時間】

パソコン本体を使わないで放置していても、バッテリ充電量は少しずつ減っていきます。バッテリの保持時間は、放置環境などによって異なります。

次の保持時間は、充電完了の状態で電源を切った場合の目安にしてください。

パソコン本体の状態	保持時間
電源 OFF または休止状態	約 20 日
スタンバイ	約 4 日

スタンバイを実行した場合、放電しきるまでの時間が非常に短いため、バッテリ駆動時は休止状態にすることをおすすめします。

2 バッテリを長持ちさせるには

- ACアダプタをコンセントに接続したままでパソコンを8時間以上使用しない場合は、バッテリを長持ちさせるためにもACアダプタをコンセントからはずしてください。
 - 1ヵ月以上の長期間バッテリを使わない場合は、パソコン本体からバッテリパックをはずして、風通しの良い涼しい場所に保管してください。
 - 1ヵ月に1度は、ACアダプタをはずしてバッテリ駆動でパソコンを使用してください。
- その際には、パソコンを使用する前に次の方法で再充電してください。

1 パソコン本体の電源を切る

2 パソコン本体からACアダプタをはずし、パソコンの電源を入れる

電源が入らない場合は手順4へ進んでください。

3 5分程度バッテリ駆動を行う

この間、Battery □ LEDが点滅するか、充電量が少なくなった等の警告が表示された場合は、すぐにACアダプタを接続し、手順4へ進みます。

4 パソコン本体にACアダプタを接続し、電源コードをコンセントにつなぐ

DC IN ▶ LEDが青色に点灯してBattery □ LEDがオレンジ色に点灯すると、充電が開始されます。

5 Battery □ LEDが青色になるまで充電する

バッテリの充電中はBattery □ LEDがオレンジ色に点灯します。

DC IN ▶ LEDが消灯している場合は、通電していません。ACアダプタ、電源コードの接続を確認してください。

【バッテリを節約する】

バッテリを節約して、本製品をバッテリ駆動で長時間使用するには、次の方法があります。

- こまめに休止状態にする 参照 「本章 3-② 休止状態」
- 入力しないときは、ディスプレイを閉じておく
参照 「本章 3-③ 簡単に電源を切る／パソコンの使用を中断する」
- 省電力のプロファイルを設定する 参照 「本章 2 省電力の設定をする」

3 バッテリパックを交換する

バッテリパックの交換方法を説明します。

バッテリパックの取り付け／取りはずしのときには、必ず電源を切り、電源コードのプラグを抜いてから作業を行ってください。

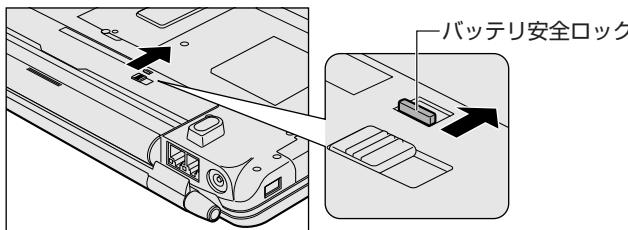
お願い

- キズや破損を防ぐため、布などを敷いた安定した台の上にパソコン本体を置いて作業を行ってください。

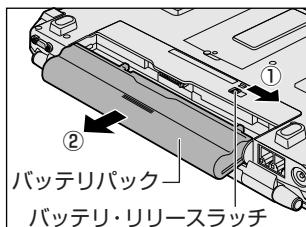
1 取りはずし／取り付け

- データを保存し、Windows を終了させて電源を切る
- パソコン本体からACアダプタと周辺機器のケーブル類をはずす
- ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返す
- バッテリ安全ロックを矢印の方向に移動する

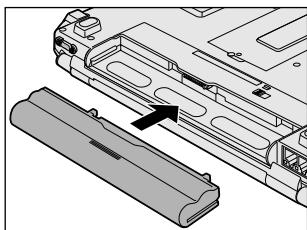
ロックが解除され、バッテリ・リリースラッチがスライドできるようになります。



- バッテリ・リリースラッチをスライドしながら①、バッテリパックを取りはずす②

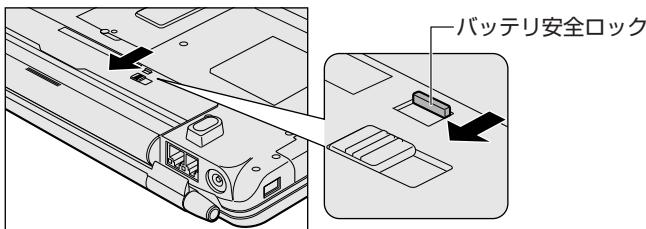


- 6 交換するバッテリパックを、「カチッ」と音がするまで静かに差し込む**
バッテリ・リリースラッチが自動的にスライドして、「カチッ」という音がします。



- 7 バッテリ安全ロックを矢印の方向に移動する**

バッテリパックがはずれないように、バッテリ安全ロックを必ずロック位置 にしてください。



2 省電力の設定をする

バッテリ駆動でパソコンを使用しているときに、消費電力を減らす設定をする（ディスプレイの明るさを抑えるなど）と、より長い時間使用できます。

省電力の設定をまとめたものをプロファイルといいます。使用環境ごとに設定されたプロファイルがあらかじめ用意されていますので、使用環境にあわせてプロファイルを切り替えるだけで、簡単にパソコンの電源設定を変更できます。プロファイルの設定を変更したり、新しくプロファイルを追加することもできます。

1 東芝省電力

省電力の設定は「東芝省電力」から行います。

ACアダプタを接続して使う場合には、特に設定する必要はありませんが、ディスプレイの明るさなどはお好みにあわせて設定してください。

1 東芝省電力の起動方法

- 1 [コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリックする
- 2 [東芝省電力] をクリックする

「東芝省電力のプロパティ」画面が表示されます。



使いかたについては、ヘルプをご覧ください。

ヘルプの起動方法

- 1 「東芝省電力」を起動後、画面右上の ? をクリックする
ポインタが ↓? に変わります。
- 2 画面上の知りたい項目にポインタを置き、クリックする
ヘルプの該当するページが表示されます。

3 パソコンの使用を中断する/電源を切る

パソコンの使用を一時的に中断したいとき、スタンバイまたは休止状態にすると、パソコンの使用を中断したときの状態が保存されます。

再び処理を行う（電源スイッチを押す、ディスプレイを開くなど）と、パソコンの使用を中断した時の状態が再現されます。

お願い 操作にあたって

- スタンバイまたは休止状態を実行する前にデータを保存することを推奨します。
- スタンバイ中に以下のことを行わないでください。次回電源を入れたときに、システムが起動しないことがあります。
 - ・ スタンバイ中にメモリを取り付け／取りはずしすること
 - ・ スタンバイ中にバッテリパックをはずすこと
- また、スタンバイ中にバッテリ残量が減少した場合も同様に、次回起動時にシステムが起動しないことがあります。
- システムが起動しない場合は、電源スイッチを5秒間押していったん電源を切った後、再度電源を入れてください。この場合、スタンバイ前の状態は保持できません（ResumeFailureで起動します）。
- スタンバイ中や休止状態では、バッテリや増設メモリの取り付け／取りはずしは行わないでください。保存されていないデータは消失します。また、感電、故障のおそれがあります。
- スタンバイまたは休止状態を利用しないときは、データを保存し、アプリケーションをすべて終了させてから、電源を切ってください。保存されていないデータは消失します。
- パソコン本体を航空機や病院に持ち込むとき、スタンバイを使用しないで、必ず電源を切ってください。スタンバイ状態のまま持ち込むと、パソコンの電波により、計器や医療機器に影響を与えることがあります。
- スタンバイまたは休止状態を実行するときは、DVD-RAMメディアへの書き込みが完全に終了していることを確認してください。書き込み途中のデータがある状態でスタンバイまたは休止状態を実行したとき、データが正しく書き込まれないことがあります。DVD-RAMメディアを取り出しきれる状態になつていれば書き込みは終了しています。

1 スタンバイ

作業を中断したときの状態をメモリに保存する機能です。次に電源スイッチを押すと、状態を再現することができます。

スタンバイはすばやく状態が再現されますが、休止状態よりバッテリを消耗します。バッテリを使い切ってしまうと保存されていないデータは消失するので、ACアダプタを取り付けて使用することを推奨します。

1 スタンバイの実行方法

- 1 [スタート] ボタンをクリックし①、[終了オプション] をクリックする②



- 2 [スタンバイ] をクリックする



メモリへの保存が終わると、画面が真っ暗になります。

- 3 Power LED がオレンジ点滅しているか確認する

メモ

[Fn]+[F3]キーを押して、スタンバイにすることもできます。

2) 休止状態

パソコンの使用を中断したときの状態をハードディスクに保存します。次に電源を入れると、状態を再現できます。

購入時の設定では、バッテリが消耗すると、パソコン本体は自動的に休止状態になります。休止状態が無効の場合はそのまま電源が切れるため、作業中のデータが消失するおそれがあります。バッテリ駆動（AC アダプタを接続しない状態）で使用する場合は、休止状態の設定をすることを推奨します。

購入時は、休止状態が有効に設定されています。

1 休止状態の実行方法

1 休止状態を有効に設定する

- ① [コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリックする
 - ② [電源オプション] をクリックする
 - ③ [休止状態] タブで [休止状態を有効にする] をチェックする
 - ④ [OK] ボタンをクリックする
- 休止状態が有効になります。

2 [スタート] ボタンをクリックし①、[終了オプション] をクリックする②



3 [Shift]キーを押したまま [休止状態] をクリックする

[Shift]キーを押している間は、[スタンバイ] が [休止状態] に変わります。



Power LED が点灯中は、バッテリパックを取りはずさないでください。

メモ

(Fn)+(F4)キーを押して、休止状態にすることもできます。

3 簡単に電源を切る／パソコンの使用を中断する

[スタート] メニューから操作せずに、電源スイッチを押したときやディスプレイを閉じたときに、電源を切る（電源オフ）、またはスタンバイ／休止状態にすることができます。

休止状態にするには、あらかじめ設定が必要です。購入時は、休止状態が有効に設定されています。解除した場合は、「本節②-1 休止状態の実行方法」手順1を参照して、設定しておいてください。

1 電源スイッチを押す

1 電源スイッチを押したときの動作を設定する

- ① [コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリックする
- ② [東芝省電力] をクリックする
- ③ [アクション設定] タブの [電源ボタンを押したとき] で [入力を求める] [スタンバイ] [休止状態] [シャットダウン] のいずれかを選択する
[何もしない] に設定すると、特に変化はありません。
- ④ [OK] ボタンをクリックする

2 電源スイッチを押す

選択した状態で電源を切る、または作業を中断します。

手順1の③で [入力を求める] を選択したときは、[コンピュータの電源を切る] 画面が表示されます。

2 ディスプレイを閉じる

ディスプレイを閉じることによって [スタンバイ] [休止状態] のうち、あらかじめ設定した状態へ移行する機能を、パネルスイッチ機能といいます。

1 ディスプレイを閉じたときの動作を設定する

- ① [コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリックする
- ② [東芝省電力] をクリックする
- ③ [アクション設定] タブの [コンピュータを閉じたとき] で [スタンバイ] [休止状態] のいずれかを選択する
[何もしない] に設定すると、パネルスイッチ機能は働きません。
- ④ [OK] ボタンをクリックする

2 ディスプレイを閉じる

設定した状態へ移行します。

[スタンバイ] [休止状態] に設定した場合は、次にディスプレイを開くと、自動的にディスプレイを閉じる前の状態が再現されます。

5章

アプリケーションについて

アプリケーションについて知っておきたいことを説明しています。

-
- 1 アプリケーションを追加（インストール）する 142
 - 2 アプリケーションを削除（アンインストール）する 143

1 アプリケーションを追加(インストール)する

インストールとは、必要なファイルなどをパソコンに組み込んで、アプリケーションを使えるようにすることです。

新規に購入したアプリケーションを使うときに必要な作業です。

また、購入時にすでにインストール済みであることをプレインストールといいます。

お願い

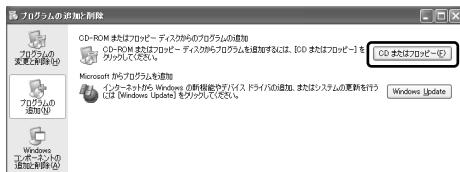
- アプリケーションの追加や削除を行う前に、必ずデータを保存し、その他のアプリケーションを終了させてください。終了せずに、追加や削除を行うと、データが消失するおそれがあります。

アプリケーションのインストールは、コンピュータの管理者アカウントで行います。[プログラムの追加と削除] からアプリケーションをインストールする方法を説明します。

手動で [プログラムの追加と削除] を実行しなくとも、CD-ROMなどを挿入したときに自動的にインストールのプログラムが起動する場合もあります。その場合は表示されるメッセージに従って操作してください。

1 操作手順

- 1 インストールしたいアプリケーションのフロッピーディスクまたはCD-ROMなどをセットする
- 2 [コントロールパネル] を開き、[プログラムの追加と削除] をクリックする
- 3 [プログラムの追加] ボタン () をクリックする
- 4 [CD またはフロッピー] ボタンをクリックする



この後の作業はアプリケーションによって異なります。表示されるメッセージに従って操作してください。

2 アプリケーションを削除(アンインストール)する

アプリケーションを削除することを、アンインストールといいます。

本製品にプレインストールされているアプリケーションは、いったん削除した場合でも、再インストールして使用することができます。

参照 ➤ 再インストールについて

『困ったときは 4 章 3 アプリケーションを再インストールする』

アプリケーションを削除する方法を説明します。

アプリケーションの削除は、コンピュータの管理者アカウントで行います。

アプリケーションの削除は、本当に削除してよいか、よく確認してから行ってください。

メモ

アプリケーションによっては、アンインストールするためのユーティリティ（アンインストーラ）が用意されています。削除したいアプリケーションが一覧にないときは、アンインストーラを使用して削除できる場合があります。詳しくは、アプリケーションのヘルプや『アプリケーションに付属の説明書』を確認してください。

1 操作手順

- 1 [コントロールパネル] を開き、[プログラムの追加と削除] をクリックする
- 2 現在インストールされているプログラムの一覧から削除したいアプリケーションをクリックする
- 3 [削除] または [変更と削除] ボタンをクリックする



(表示例)

表示されるメッセージに従って操作してください。

6 章

システム環境の変更

本製品を使用するときの、システム上のさまざまな環境を設定する方法について紹介しています。

1 システム環境の変更とは 146

1 システム環境の変更とは

本製品は、次のようなパソコンのシステム環境を変更できます。

システム環境を変更するには、Windows 上のユーティリティを使用します。

Windows 上のユーティリティには、「東芝 HW セットアップ」、「東芝省電力」、「東芝パスワードユーティリティ」などがあります。

変更できる項目	Windows 上のユーティリティ	
ハードウェア環境（パソコン本体）の設定	<p>「東芝 HW セットアップ」 参照 ➤ 《サイバーサポート（検索）：東芝 HW セットアップ》</p>	
パスワードセキュリティの設定	ユーザパスワード	「東芝パスワードユーティリティ」 参照 ➤ 《サイバーサポート（検索）：ユーザパスワード》
	スーパーバイザパスワード	「東芝パスワードユーティリティ」 参照 ➤ 《サイバーサポート（検索）：スーパーバイザパスワード》
省電力の設定	<p>「東芝省電力」 参照 ➤ 「4 章 2 省電力の設定をする」</p>	

参照 ➤ パスワードセキュリティについて『さあ始めよう 4 章』

付録

本製品のハードウェア仕様や、技術基準適合などについて記しています。

-
- 1 本製品の仕様 148
 - 2 クイックプレイ操作一覧 154
 - 3 言語コード一覧 156
 - 4 技術基準適合について 158
 - 5 無線 LANについて 171

1 本製品の仕様

1 製品仕様

機種	dynabook VX/2シリーズ	
プロセッサ	CPU	東芝PC診断ツールを参照
メモリ	ROM	512KB (フラッシュROM)、ACPI 1.0b、APM1.2、Plug and Play 1.0a
	RAM	標準：東芝PC診断ツールを参照 最大：2GB
	ビデオRAM	最大64MB
表示機能	表示装置	15.4型TFTワイドカラー液晶ディスプレイ(WXGA)
	グラフィック表示	横1280 x 縦800 1画面
入力装置	キーボード	OADG109Aキータイプ準拠 87キー（文字キー、制御キーの合計）
	ポインティングデバイス	タッチパッド内蔵
補助記憶装置	SDカードスロット	1個装備
	2.5型ハードディスクドライブ	1台内蔵 *1
	1台内蔵 CD-ROM 読み出し：最大24倍速	
	CD-R 書き込み：最大16倍速	
	CD-RW（マルチスピード） 書き換え：最大4倍速	
	High-Speed CD-RW 書き換え：最大8倍速	
	DVD-ROM 読み出し：最大8倍速	
	DVD-R 書き込み：最大4倍速	
	DVD-RW 書き換え：最大2倍速	
	DVD+R 書き込み：最大2.4倍速	
		DVD+RW 書き換え：最大2.4倍速
		DVD-RAM 読み出し：最大2倍速 書き換え：2倍速
		8cm、12cmのディスク対応 マルチセッション

インターフェース	RGB	1個装備
	USB	4個装備 USB2.0準拠 *3
	i.LINK (IEEE1394)	1個装備 (S400・4ピン)
	PCカード	1個装備 PC Card Standard準拠 (TYPE II x 1) CardBus対応
	サウンド	マイク入力 (モノラル) ミニジャック 1個装備 (φ3.5mmミニジャック) ヘッドホン出力 (ステレオ) ミニジャック 1個装備 (φ3.5mmミニジャック) ライン入力 ミニジャック 1個装備 (φ3.5mmミニジャック) 内蔵スピーカ (ステレオ) 装備 内蔵マイク装備
	ビデオ	ビデオ入力 (コンポジット) 1個装備 S-Video出力 1個装備
	モデム *4	1個装備
	LAN	1個装備 100BASE-TX/10BASE-T
	無線LAN	1個装備 IEEE802.11gおよびIEEE802.11b準拠
	カレンダ機能	日付、時計機能を標準装備 充電型电池によるバックアップ
電源	ACアダプタ	AC100V～240V (50Hz、または60Hz) ACアダプタ
	バッテリ	バッテリパック Li-Ion 10.8V/4400mAh
最大消費電力		約60W
使用環境条件		温度：5°C～35°C 湿度：20%～80%Rh
外形寸法 (突起部除く)		360 (幅) x 270 (奥行) x 25.4 (最薄部) / 35.9 (高さ) mm
質量		約2.8kg

- * 1 ハードディスクの一部分は、リカバリ領域とクリックプレイ領域として、あらかじめ使用されています。リカバリ領域とクリックプレイ領域以外の全ての領域がCドライブとして設定されています (NTFS、1パーティションで設定)。
- * 2 ドライブは、各種ディスクの種類や特性にあった速度を選択して読み出し／書き込みを行います。ディスクによっては最大速度での読み出し／書き込みができない場合もあります。
- * 3 従来のUSB1.1規格と完全な互換性を持つとともに、USB1.1と比べて40倍（理論値）の高速データ転送の可能なHighSpeedモードをサポートします。
ただし、すべてのUSB1.1／2.0対応機器の動作を保証するものではありません。
- * 4 内蔵モデムは対応世界61地域以外では使用できません。33.6kbps以上の高速受信は接続先の対応や回線状態などが整った場合のみ可能です。送信時は最大33.6kbpsでの接続になります。K56Flex™には対応しておりません。FAX通信ソフトは搭載しておりません。

【東芝 PC 診断ツール】

基本仕様の一部は「東芝 PC 診断ツール」で確認することができます。

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA] → [ユーティリティ] → [PC 診断ツール] をクリックする
- 2 [基本情報] タブで確認する

メモ

「東芝 PC 診断ツール」で表示される内容は、その時点での設定内容です。購入後に設定を変更された場合は、変更後の設定内容が表示されます。ただし [CPU] の項目には、搭載されている CPU の最大クロック数（固定値）が表示され、これはユーティリティなどによる設定値には影響されません。

【電源コードの仕様】

本製品に同梱されている電源コードは、日本の規格にのみ準拠しています。
その他の地域で使用する場合は、当該国・地域の法令・安全規格に適合した電源コードを購入してください。

使用できる電圧 (AC) は、100V です。

必ず AC100V のコンセントで使用してください。

* 取得規格は、電気用品安全法です。

【AC アダプタの仕様】

本製品に同梱されている AC アダプタは、海外でも使用できます。

入力： AC100～240V、1.2A-0.6A、50-60Hz

出力： DC15V 4A

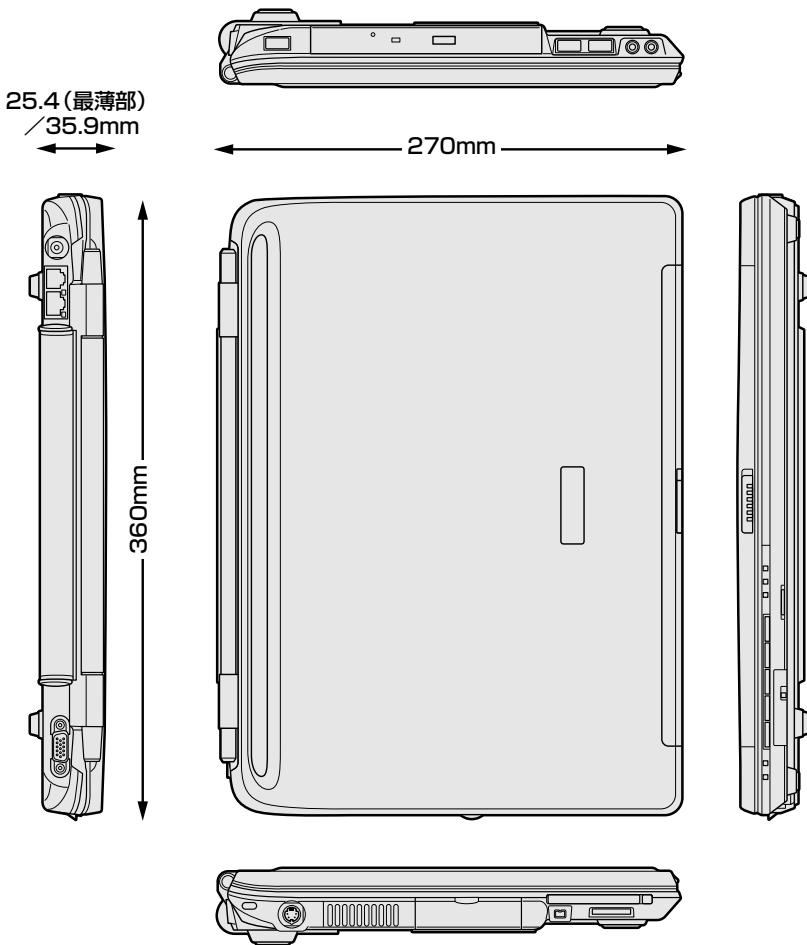
【TV チューナーボックスの仕様】

* TV チューナーボックス同梱モデルのみ

TV チューナーボックスの仕様については、同梱の『TV チューナーボックス 取扱説明書』をご覧ください。

2 外形寸法図

* 数値は突起部を含みません。



3 サポートしているビデオモード

ディスプレイコントローラによって制御される画面の解像度と表示可能な最大色数を定めた規格をビデオモードと呼びます。

参照 ➤ 表示可能色数の詳細について

「1章 5-①-1 表示可能色数」

本製品でサポートしている英語モード時のすべてのビデオモードを次に示します。モードナンバは一般に、プログラマがそれぞれのモードを識別するのに用いられます。アプリケーションソフトがモードナンバによってモードを指定してくる場合、そのナンバが図のナンバと一致していないことがあります。この場合は解像度とフォントサイズと色の数をもとに選択し直してください。

ビデオモード	形式	解像度	フォントサイズ	色数	CRTリフレッシュレート(Hz)		
0.1	VGA テキスト	40 x 25字	8 x 8	16/256K	70		
2,3		80 x 25字					
0*,1*		40 x 25字	8 x 14				
2*,3*		80 x 25字					
0+,1+		40 x 25字	8(9) x 16				
2+,3+		80 x 25字					
4,5	VGA グラフィックス	320 x 200 ドット	8 x 8	4/256K	70		
6		640 x 200 ドット					
7	VGA テキスト	80 x 25字	8(9) x 14	モノクロ			
7+			8(9) x 16				
D	VGA グラフィックス	320 x 200 ドット	8 x 8	16/256K			
E		640 x 200 ドット					
F		640 x 350 ドット	8 x 14	モノクロ			
10							
11		640 x 480 ドット	8 x 16	2/256K	60		
12							
13		320 x 200 ドット	8 x 8	256/256K	70		

ビデオモード	形式	解像度	フォントサイズ	色数	CRTリフレッシュレート(Hz)
—	WXGA グラフィックス	640×480ドット	—	256/256K	60/75/85 /100
—		800×600ドット	—		
—		1024×768ドット	—		
—		1280×800ドット	—		
—		1280×1024ドット ¹	—		
—		1600×1200ドット ¹	—		
—		1920×1440ドット ¹	—		
—		2048×1536ドット ¹	—		
—		640×480ドット	—		
—		800×600ドット	—		
—	WXGA グラフィックス	1024×768ドット	—	64K/64K	60/75/85 /100
—		1280×800ドット	—		
—		1280×1024ドット ¹	—		
—		1600×1200ドット ¹	—		
—		1920×1440ドット ¹	—		
—		2048×1536ドット ¹	—		
—		640×480ドット	—		
—		800×600ドット	—		
—		1024×768ドット	—		
—		1280×800ドット	—		
—	WXGA グラフィックス	1280×1024ドット ¹	—	16M/16M	60/75/85 /100
—		1600×1200ドット ¹	—		
—		1920×1440ドット ¹	—		
—		2048×1536ドット ¹	—		
—		640×480ドット	—		
—		800×600ドット	—		
—		1024×768ドット	—		
—		1280×800ドット	—		

* 1 : LCD に表示する場合は、実際の画面（1280×800）内に、仮想スクリーン表示します。

注) 一部の画面モードはマルチモニタでは使用できません。

2 クイックプレイ操作一覧

* リモコンの使用は、TVチューナボックス同梱モデルのみ
クイックプレイを使用しているとき、リモコンとキーボードからの操作は次のように
なります。詳細は「1章 3 クイックプレイを使う」をご覧ください。

リモコン	パソコン本体	クイックCD	クイックDVD
電源	電源スイッチ	クイックCD終了	クイックDVD終了
TV			
CD/DVD			
入力切替	I		
輝度△	Fn + F7	画面の輝度を上げる	画面の輝度を上げる
リプレイ	Ctrl + K		約10秒前に戻す
スキップ	Ctrl + L		約30秒後にスキップ
輝度▽	Fn + F6	画面の輝度を下げる	画面の輝度を下げる
1	1	1曲目を選択	1番目のチャプタを選択
2	2	2曲目を選択	2番目のチャプタを選択
3	3	3曲目を選択	3番目のチャプタを選択
4	4	4曲目を選択	4番目のチャプタを選択
5	5	5曲目を選択	5番目のチャプタを選択
6	6	6曲目を選択	6番目のチャプタを選択
7	7	7曲目を選択	7番目のチャプタを選択
8	8	8曲目を選択	8番目のチャプタを選択
9	9	9曲目を選択	9番目のチャプタを選択
10/0	1、0		
	0	2桁の曲番号選択時、ゼロ	2桁のチャプタ番号選択時、ゼロ
11	1、1		
12	1、2		
DVDメニュー	F8 または F9		メニュー表示

リモコン	パソコン本体	クイックCD	クイックDVD
▲	↑		設定項目移動
◀	←		設定項目移動
決定	Enter	曲選択決定	決定または設定完了
▶	→		設定項目移動
▼	↓		設定項目移動
設定	F2		設定メニュー表示 /非表示
戻る	Esc		メニュー取り消し /戻る/リターン*1
チャンネル ▲	Fn + ↑		
音量+	Ctrl + ↑	音量上げる	音量上げる
チャンネル ▼	Fn + ↓		
音量-	Ctrl + ↓	音量下げる	音量下げる
ミュート	M	消音	消音
◀◀	<	約10秒前に戻す	早戻し
▶/II	Space	再生/一時停止	再生/一時停止
▶▶	>	約10秒後にスキップ	早送り
◀◀	K	前の曲*2	チャプタの先頭
■	Ctrl + Space	停止	停止
▶▶	L	次の曲	次のチャプタ
	Ctrl + R	1曲リピート /Discリピート	
	Ctrl + S	シャッフル再生	
表示	D	表示切替	表示切替
アングル	G		アングル切替
字幕	S		字幕切替
音声/音多	A		音声切替
	T		タイトル選択
	Y		スロー再生
	F1	キーガイド表示	キーガイド表示
	E	ディスクトレイを開く	ディスクトレイを開く

* 1 リターン：DVD で指定された画面に戻ります。再生する DVD に付属の説明書もあわせてお読みください。

* 2 曲の再生が始まって 2 秒以上たってから押すと、再生中の曲の先頭から再生します。

3 言語コード一覧

クリックプレイで言語コードを入力する場合、次の表を参照してコード番号を入力してください。

参照 「1章 3 クリックプレイを使う」

コード	言語	コード	言語	コード	言語
AA	アファル語	EO	エスペラント語	IT	イタリア語
AB	アブバジア語	ES	スペイン語	IW	ヘブライ語
AF	アフリカーンス語	ET	エストニア語	JA	日本語
AM	アムハラ語	EU	バスク語	JI	イディッシュ語
AR	アラビア語	FA	ペルシャ語	JW	ジャワ語
AS	アッサム語	FI	フィンランド語	KA	グルジア語
AY	アイマラ語	FJ	フィジー語	KK	カザフ語
AZ	アゼルバイジャン語	FO	フェロー語	KL	グリーンランド語
BA	バシキール語	FR	フランス語	KM	カンボジア語
BE	ベラルーシ語	FY	フリジア語	KN	カンナダ語
BG	ブルガリア語	GA	アイルランド語	KO	韓国語
BH	ビハーリー語	GD	スコットランドゲール語	KS	カシミール語
BI	ビスマラク語	GL	ガルシア語	KU	クルド語
BN	ベンガル語 バングラ語	GN	グアラニ語	KY	キルギス語
BO	チベット語	GU	グジャラート語	LA	ラテン語
BR	ブルトン語	HA	ハウサ語	LN	リンガラ語
CA	カタロニア語	HI	ヒンディー語	LO	ラオス語
CO	コルシカ語	HR	クロアチア語	LT	リトニア語
CS	チェコ語	HU	ハンガリー語	LV	ラトビア語、レット語
CY	ウェールズ語	HY	アルメニア語	MG	マダガスカル語
DA	デンマーク語	IA	国際語	MI	マオリ語
DE	ドイツ語	IE	国際語	MK	マケドニア語
DZ	ブルータン語	IK	エスキモー語	ML	マラヤーラム語
EL	ギリシャ語	IN	インドネシア語	MN	モンゴル語
EN	英語	IS	アイスランド語	MO	モルダビア語

コード	言語	コード	言語	コード	言語
MR	マラータ語	SA	サンスクリット語	TI	ティグリニヤ語
MS	マレー語	SD	シンド語	TK	トゥルクメン語
MT	マルタ語	SG	サンゴ語	TL	タガログ語
MY	ミャンマー語	SH	セルビアクロアチア語	TN	セツワナ語
NA	ナウル語	SI	シンハラ語	TO	トンガ語
NE	ネパール語	SK	スロバキア語	TR	トルコ語
NL	オランダ語	SL	スロベニア語	TS	ツォンガ語
NO	ノルウェー語	SM	サモア語	TT	タタール語
OC	プロバンス語	SN	ショナ語	TW	トワイ語
OM	(アフアン) オロモ語	SO	ソマリ語	UK	ウクライナ語
OR	オリヤー語	SQ	アルバニア語	UR	ウルドゥー語
PA	パンジャブ語	SR	セルビア語	UZ	ウズベク語
PL	ポーランド語	SS	シスワティ語	VI	ベトナム語
PS	パシュトー語	ST	セストゥ語	VO	ボラビュク語
PT	ポルトガル語	SU	スンダ語	WO	ウォロフ語
QU	ケチュア語	SV	スウェーデン語	XH	コーサ語
RM	ラエティ=ロマン語	SW	スワヒリ語	YO	ヨルバ語
RN	キルンディ語	TA	タミール語	ZH	中国語
RO	ルーマニア語	TE	テルグ語	ZU	ズール語
RU	ロシア語	TG	タジク語		
RW	キニヤルワンダ語	TH	タイ語		

4 技術基準適合について

瞬時電圧低下について

この装置は、社団法人 電子情報技術産業協会の定めたパソコンコンピュータの瞬時電圧低下対策のガイドラインを満足しております。しかし、ガイドラインの基準を上回る瞬時電圧低下に対しては、不都合を生じることがあります。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

参照 『困ったときは 3章 その他 -

Q パソコンの近くにあるテレビやラジオの調子がおかしい』

高調波対策について

本装置は、「高調波ガイドライン適合品」です。

国際エネルギースタープログラムについて

当社は国際エネルギースター プログラムの参加事業者として、
本製品が国際エネルギースター プログラムの対象製品に関する基
準を満たしていると判断します。



参照 省電力設定について 「4章 2 省電力の設定をする」

FCC information

Product name : dynabook VX/2 W15LDSW

Model number : PSM33N-00C00D

FCC notice "Declaration of Conformity Information"

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of the FCC rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, it may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

WARNING : Only peripherals complying with the FCC rules class B limits may be attached to this equipment. Operation with non-compliant peripherals or peripherals not recommended by TOSHIBA is likely to result in interference to radio and TV reception. Shielded cables must be used between the external devices and the computer's RGB connector, USB connector, i.LINK(IEEE1394) connector and Microphone jack. Changes or modifications made to this equipment, not expressly approved by TOSHIBA or parties authorized by TOSHIBA could void the user's authority to operate the equipment.

付
録

FCC conditions

This device complies with Part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions:

1. This device may not cause harmful interference.
2. This device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

Contact

Address : TOSHIBA America Information Systems, Inc.

9740 Irvine Boulevard

Irvine, California 92618-1697

Telephone : (949) 583-3000

TOSHIBA

EU Declaration of Conformity



TOSHIBA declares, that the product: PSM33N-00C00D conforms to the following Standards:

Supplementary Information : "The product complies with the requirements of the Low Voltage Directive 73/23/EEC, the EMC Directive 89/336/EEC and the R&TTE Directive 1999/5/EEC."

This product is carrying the CE-Mark in accordance with the related European Directives.
Responsible for CE-Marking is TOSHIBA Europe, Hammfelddamm 8, 41460 Neuss, Germany.

モデム使用時の注意事項

本製品の内蔵モデムをご使用になる場合は、次の注意事項を守ってください。

内蔵モデムは、財団法人 電気通信端末機器審査協会により電気通信事業法第50条1項に基づき、技術基準適合認定を受けたものです。



認定番号
A02-0604JP

●対応地域

内蔵モデムは、次の地域で使用できます。

アイスランド、アイルランド、アメリカ合衆国、アラブ首長国連邦、アルゼンチン、イギリス、イスラエル、イタリア、インド、インドネシア、エジプト、エストニア、オーストラリア、オーストリア、オマーン、オランダ、カナダ、韓国、ギリシャ、クウェート、サウジアラビア、シンガポール、スイス、スウェーデン、スペイン、スリランカ、スロバキア、スロベニア、タイ、台湾、チェコ、中国、デンマーク、ドイツ、トルコ、日本、ニュージーランド、ノルウェー、パキスタン、ハンガリー、バングラデシュ、フィリピン、フィンランド、ブラジル、フランス、ブルガリア、ベルギー、ポーランド、ポルトガル、香港、マルタ、マレーシア、南アフリカ、メキシコ、モロッコ、ラトビア、リトアニア、ルーマニア、ルクセンブルグ、レバノン、ロシア

(2004年6月現在)

なお、その他の地域での許認可は受けていないため、その他の地域では使用できません。注意してください。

内蔵モデムが使用できない地域では、その地域で許認可を受けているモデムを購入してください。

内蔵モデムに接続する回線がPBX等を経由する場合は使用できない場合があります。上記の注意事項を超えてのご使用における危害や損害などについては、当社では責任を負えませんのであらかじめ了承してください。

参照▶ 設定について

《サイバーサポート（検索）：海外でインターネットに接続したい》

●自動再発信の制限

内蔵モデムは2回を超える再発信（リダイヤル）は、発信を行わず『BLACK LISTED』を返します（『BLACK LISTED』の応答コードが問題になる場合は、再発信を2回以下または再発信間隔を1分以上にしてください）。

* 内蔵モデムの自動再発信機能は、電気通信事業法の技術基準（アナログ電話端末）「自動再発信機能は2回以内（但し、最初の発信から3分以内）」に従っています。

Conformity Statement

The equipment has been approved to [Commission Decision "CTR21"] for pan-European single terminal connection to the Public Switched Telephone Network (PSTN).

However, due to differences between the individual PSTNs provided in different countries/regions the approval does not, of itself, give an unconditional assurance of successful operation on every PSTN network termination point.

In the event of problems, you should contact your equipment supplier in the first instance.

Network Compatibility Statement

This product is designed to work with, and is compatible with the following networks. It has been tested to and found to confirm with the additional requirements conditional in EG 201 121.

Germany	- ATAAB AN005,AN006,AN007,AN009,AN010 and DE03,04,05,08,09,12,14,17
Greece	- ATAAB AN005,AN006 and GR01,02,03,04
Portugal	- ATAAB AN001,005,006,007,011 and P03,04,08,10
Spain	- ATAAB AN005,007,012, and ES01
Switzerland	- ATAAB AN002
All other countries/regions	- ATAAB AN003,004

Specific switch settings or software setup are required for each network, please refer to the relevant sections of the user guide for more details.

The hookflash (timed break register recall) function is subject to separate national type approvals. If has not been tested for conformity to national type regulations, and no guarantee of successful operation of that specific function on specific national networks can be given.

Pursuant to FCC CFR 47, Part 68:

When you are ready to install or use the modem, call your local telephone company and give them the following information:

- The telephone number of the line to which you will connect the modem
- The registration number that is located on the device

The FCC registration number of the modem will be found on either the device which is to be installed, or, if already installed, on the bottom of the computer outside of the main system label.

- The Ringer Equivalence Number (REN) of the modem, which can vary.
For the REN of your modem, refer to your modem's label.

The modem connects to the telephone line by means of a standard jack called the USOC RJ11C.

Type of service

Your modem is designed to be used on standard-device telephone lines.

Connection to telephone company-provided coin service (central office implemented systems) is prohibited. Connection to party lines service is subject to state tariffs. If you have any questions about your telephone line, such as how many pieces of equipment you can connect to it, the telephone company will provide this information upon request.

付録

Telephone company procedures

The goal of the telephone company is to provide you with the best service it can.

In order to do this, it may occasionally be necessary for them to make changes in their equipment, operations, or procedures. If these changes might affect your service or the operation of your equipment, the telephone company will give you notice in writing to allow you to make any changes necessary to maintain uninterrupted service.

If problems arise

If any of your telephone equipment is not operating properly, you should immediately remove it from your telephone line, as it may cause harm to the telephone network. If the telephone company notes a problem, they may temporarily discontinue service. When practical, they will notify you in advance of this disconnection. If advance notice is not feasible, you will be notified as soon as possible. When you are notified, you will be given the opportunity to correct the problem and informed of your right to file a complaint with the FCC.

In the event repairs are ever needed on your modem, they should be performed by TOSHIBA Corporation or an authorized representative of TOSHIBA Corporation.

Disconnection

If you should ever decide to permanently disconnect your modem from its present line, please call the telephone company and let them know of this change.

Fax branding

The Telephone Consumer Protection Act of 1991 makes it unlawful for any person to use a computer or other electronic device to send any message via a telephone fax machine unless such message clearly contains in a margin at the top or bottom of each transmitted page or on the first page of the transmission, the date and time it is sent and an identification of the business, other entity or individual sending the message and the telephone number of the sending machine or such business, other entity or individual.

In order to program this information into your fax modem, you should complete the setup of your fax software before sending messages.

Instructions for IC CS-03 certified equipment

1 NOTICE : The Industry Canada label identifies certified equipment. This certification means that the equipment meets certain telecommunications network protective, operational and safety requirements as prescribed in the appropriate Terminal Equipment Technical Requirements document(s). The Department does not guarantee the equipment will operate to the user's satisfaction.

Before installing this equipment, users should ensure that it is permissible to be connected to the facilities of the local telecommunications company. The equipment must also be installed using an acceptable method of connection.

The customer should be aware that compliance with the above conditions may not prevent degradation of service in some situations.

Repairs to certified equipment should be coordinated by a representative designated by the supplier. Any repairs or alterations made by the user to this equipment, or equipment malfunctions, may give the telecommunications company cause to request the user to disconnect the equipment.

Users should ensure for their own protection that the electrical ground connections of the power utility, telephone lines and internal metallic water pipe system, if present, are connected together. This precaution may be particularly important in rural areas.

Caution: Users should not attempt to make such connections themselves, but should contact the appropriate electric inspection authority, or electrician, as appropriate.

2 The user manual of analog equipment must contain the equipment's Ringer Equivalence Number (REN) and an explanation notice similar to the following:

The Ringer Equivalence Number (REN) of the modem, which can vary.

For the REN of your modem, refer to your modem's label.

NOTICE : The Ringer Equivalence Number (REN) assigned to each terminal device provides an indication of the maximum number of terminals allowed to be connected to a telephone interface. The termination on an interface may consist of any combination of devices subject only to the requirement that the sum of the Ringer Equivalence Numbers of all the devices does not exceed 5.

3 The standard connecting arrangement (telephone jack type) for this equipment is jack type(s): USOC RJ11C.

CANADA:1353A-L4AINT

Notes for Users in Australia and New Zealand

Modem warning notice for Australia

Modems connected to the Australian telecoms network must have a valid Austel permit. This modem has been designed to specifically configure to ensure compliance with Austel standards when the region selection is set to Australia.

The use of other region setting while the modem is attached to the Australian PSTN would result in your modem being operated in a non-compliant manner.

To verify that the region is correctly set, enter the command ATI which displays the currently active setting.

To set the region permanently to Australia, enter the following command sequence:

```
AT%TE=1  
ATS133=1  
AT&F  
AT&W  
AT%TE=0  
ATZ
```

Failure to set the modem to the Australia region setting as shown above will result in the modem being operated in a non-compliant manner. Consequently, there would be no permit in force for this equipment and the Telecoms Act 1991 prescribes a penalty of \$12,000 for the connection of non-permitted equipment.

Notes for use of this device in New Zealand

- The grant of a Telepermit for a device in no way indicates Telecom acceptance of responsibility for the correct operation of that device under all operating conditions. In particular the higher speeds at which this modem is capable of operating depend on a specific network implementation which is only one of many ways of delivering high quality voice telephony to customers. Failure to operate should not be reported as a fault to Telecom.
- In addition to satisfactory line conditions a modem can only work properly if:
 - a/ it is compatible with the modem at the other end of the call and
 - b/ the application using the modem is compatible with the application at the other end of the call - e.g., accessing the Internet requires suitable software in addition to a modem.
- This equipment shall not be used in any manner which could constitute a nuisance to other Telecom customers.
- Some parameters required for compliance with Telecom's PTC Specifications are dependent on the equipment (PC) associated with this modem. The associated equipment shall be set to operate within the following limits for compliance with Telecom Specifications:
 - a/ There shall be no more than 10 call attempts to the same number within any 30 minute period for any single manual call initiation, and

- b/ The equipment shall go on-hook for a period of not less than 30 seconds between the end of one attempt and the beginning of the next.
- c/ Automatic calls to different numbers shall be not less than 5 seconds apart.
- Immediately disconnect this equipment should it become physically damaged, and arrange for its disposal or repair.
- The correct settings for use with this modem in New Zealand are as follows:

ATB0 (CCITT operation)

AT&G2 (1800 Hz guard tone)

AT&P1 (Decadic dialing make-break ratio =33%/67%)

ATS0=0 (not auto answer)

ATS10=less than 150 (loss of carrier to hangup delay, factory default of 15 recommended)

ATS11=90 (DTMF dialing on/off duration=90 ms)

ATX2 (Dial tone detect, but not (U.S.A.) call progress detect)

- When used in the Auto Answer mode, the S0 register must be set with a value between 3 or 4. This ensures:
 - (a) a person calling your modem will hear a short burst of ringing before the modem answers. This confirms that the call has been successfully switched through the network.
 - (b) caller identification information (which occurs between the first and second ring cadences) is not destroyed.
- The preferred method of dialing is to use DTMF tones (ATDT...) as this is faster and more reliable than pulse (decadic) dialing. If for some reason you must use decadic dialing, your communications program must be set up to record numbers using the following translation table as this modem does not implement the New Zealand "Reverse Dialing" standard.

Number to be dialed: 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9

Number to program into computer: 0 9 8 7 6 5 4 3 2 1

Note that where DTMF dialing is used, the numbers should be entered normally.
- The transmit level from this device is set at a fixed level and because of this there may be circumstances where the performance is less than optimal.
Before reporting such occurrences as faults, please check the line with a standard Telepermitted telephone, and only report a fault if the phone performance is impaired.
- It is recommended that this equipment be disconnected from the Telecom line during electrical storms.
- When relocating the equipment, always disconnect the Telecom line connection before the power connection, and reconnect the power first.
- This equipment may not be compatible with Telecom Distinctive Alert cadences and services such as Fax Ability.

NOTE THAT FAULT CALL OUT CAUSED BY ANY OF THE ABOVE CAUSES MAY INCUR A CHARGE FROM TELECOM

General conditions

As required by PTC 100, please ensure that this office is advised of any changes to the specifications of these products which might affect compliance with the relevant PTC Specifications.

The grant of this Telepermit is specific to the above products with the marketing description as stated on the Telepermit label artwork. The Telepermit may not be assigned to other parties or other products without Telecom approval.

A Telepermit artwork for each device is included from which you may prepare any number of Telepermit labels subject to the general instructions on format, size and colour on the attached sheet.

The Telepermit label must be displayed on the product at all times as proof to purchasers and service personnel that the product is able to be legitimately connected to the Telecom network.

The Telepermit label may also be shown on the packaging of the product and in the sales literature, as required in PTC 100.

The charge for a Telepermit assessment is \$337.50. An additional charge of \$337.50 is payable where an assessment is based on reports against non-Telecom New Zealand Specifications. \$112.50 is charged for each variation when submitted at the same time as the original.

An invoice for \$NZ1237.50 will be sent under separate cover.

Panasonic DVD スーパーマルチドライブ UJ-820 (DVDスーパーマルチドライブ) 安全にお使いいただくために

本装置を正しくご使用いただくために、この説明書をよくお読みください。
また、お読みになった後は、必ず保管してください。

⚠ 注意

1. 本装置はレーザーシステムを使用しています。

CLASS 1 LASER PRODUCT
LASER KLASSE 1

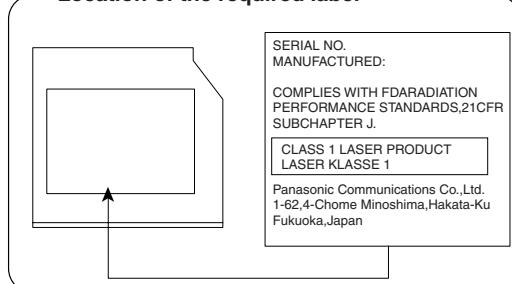
- 本装置の定格銘板には、右記の表示がされています。
本装置はヨーロッパ共通の
レーザ規格 EN60825 で
“クラス 1 レーザー機器” に
分類されています。
レーザー光を直接被爆する
ことを防ぐために、この装
置の筐体を開けないでくだ
さい。
2. 分解および改造をしないで
ください。感電の原因にな
ります。信頼性、安全性、
性能の保証をすることがで
きなくなります。

3. 本装置はある確率で読み取り誤りをおこすことがあります。従って、本装置を
使用するシステムには、これらの誤りや故障に起因する二次的な損失、障害お
よび事故を防止するために、安全性や保全性に関する十分な配慮が必要です。
本装置の故障、取り出されたデータの誤りによって、人体への危害や物質的損
害を誘発する可能性があるシステムには、本装置を使用しないでください。
4. ご使用のディスクが損傷を受けても保証はいたしません。
5. ご使用中に異常が生じた場合は、電源を切って、お買い上げの販売店にご相談
ください。

CAUTION	CLASS 3B VISIBLE AND INVISIBLE LASER RADIATION WHEN OPEN. AVOID EXPOSURE TO BEAM.
ATTENTION	CLASSE 3B RAYONNEMENT LASER VISIBLE ET INVISIBLE EN CAS D'OUVERTURE. EXPOSITION DANGEREUSE AU FAISCEAU.
VORSICHT	KLASSE 3B SICHTBARE UND UNSICHTBARE LASERSTRÄHLUNG, WENN ABDECKUNG GEOFFNET. NICHT DEM STRAHLAUSSETZEN.
ADVARSEL	KLASSE 3B SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING VED ÅBNING. UNDGÅ UDS/ETTELSE FOR STRÅLING.
ADVARSEL	KLASSE 3B SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING NÅR DEKSEL ÅPNES. UNNGÅ EKSPOSERING FOR STRÅLEN.
WARNING	KLASS 3B SYNLIG OCH OSYNLIG LASERSTRÅLING NÅR DENNA DEL ÄR ÖPPNAD. STRÅLE ÄR FARLIG.
VARO !	KURSSI 3B NÄKYVÄ JA NÄKYMÄTÖN AVATTAESSA OLET ALTTIINA LASERSÄTEILYLLE, ÄLÄ KATSO SÄTEESEN.

付
録

Location of the required label



TEAC DVD スーパーマルチドライブ DV-W24E (DVD スーパーマルチドライブ) 安全にお使いいただくために

本装置を正しくご使用いただくために、この説明書をよくお読みください。
また、お読みになった後は、必ず保管してください。

⚠ 注意

1. 本装置はレーザーシステムを使用しています。

CLASS 1 LASER PRODUCT
LASER KLASSE 1

本装置の定格銘板には、右記の表示がされています。

本装置はヨーロッパ共通の
レーザ規格 EN60825 で
“クラス 1 レーザー機器”に
分類されています。

レーザー光を直接被爆する
ことを防ぐために、この装
置の筐体を開けないでくだ
さい。

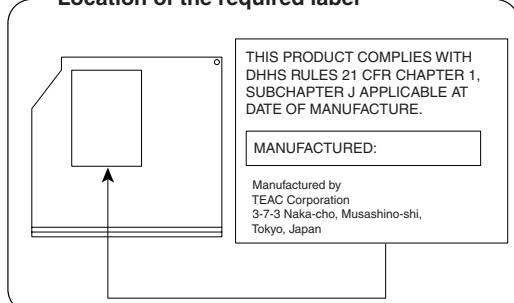
2. 分解および改造をしないで
ください。感電の原因にな
ります。信頼性、安全性、
性能の保証をすることができなくなります。

3. 本装置はある確率で読み取り誤りをおこすことがあります。従って、本装置を
使用するシステムには、これらの誤りや故障に起因する二次的な損失、障害お
よび事故を防止するために、安全性や保全性に関する十分な配慮が必要です。
本装置の故障、取り出されたデータの誤りによって、人体への危害や物質的損
害を誘発する可能性があるシステムには、本装置を使用しないでください。

4. ご使用のディスクが損傷を受けても保証はいたしません。
5. ご使用中に異常が生じた場合は、電源を切って、お買い上げの販売店にご相談
ください。

CAUTION	CLASS 3B INVISIBLE LASER RADIATION WHEN OPEN. AVOID EXPOSURE TO BEAM.
ATTENTION	CLASSE 3B RAYONNEMENT LASER INVISIBLE EN CAS D'OUVERTURE.
VORSICHT	EXPOSITION DANGEREUSE AU FAISCEAU.
ADVARSEL	KLASSE 3B UNSICHTBARE LASERSTRÄHLUNG, WENN ABDECKUNG GEÖFFNET.
ADVARSEL	NICHT DEM STRAHL ASSETZEN.
VARNING	KLASSE 3B USYNLIG LASERSTRÅLING VED ÅBNING. UNDGÅ UDS/ETTELSE FOR STRÅLEN.
VARO !	KLASSE 3B USYNLIG LASERSTRÅLING NÄR DEKSEL ÄPNES. UNDGÅ EKSPOSERING FOR STRÅLEN.
VARNING	KLASS 3B OSYNLIG LASERSTRÅLING NÄR DENNA DEL ÄR ÖPPNAD. STRÅLEN ÄR FARLIG.
VARO !	KURSSI 3B NÄKYMÄTÖN AVATTAESSA OLET ALTTINA LASERSÄTEILYLLÉ. ÄLÄ KATSO SÄTEESEN.

Location of the required label



5 無線 LAN について

1 無線特性

無線 LAN の無線特性は、製品を購入した国／地域、購入した製品の種類により異なる場合があります。

多くの場合、無線通信は使用する国／地域の無線規制の対象になります。無線ネットワーク機器は、無線免許の必要ない 2.4GHz 帯で動作するように設計されていますが、国／地域の無線規制により無線ネットワーク機器の使用に多くの制限が課される場合があります。

各地域で適用される無線規制については、「本節 5 お客様に対するお知らせ」を確認してください。

無線周波数帯	IEEE802.11g, IEEE802.11b	2.4GHz (2400-2497MHz)
変調方式	IEEE802.11g	直交周波数分割多重方式 OFDM-BPSK, OFDM-QPSK, OFDM-16QAM, OFDM-64QAM
	IEEE802.11b	直接拡散方式 DSSS-CCK, DSSS-DQPSK, DSSS-DBPSK
データレート	IEEE802.11g	54/48/36/24/18/12/9/6Mbps*
	IEEE802.11b	11/5.5/2/1Mbps*

* これらの転送レートは理論上の最高値であり、実際の通信時の転送レートではありません。実用上の転送レートは使用環境により異なります。

無線機器の通信範囲と転送レートには相関関係があります。無線通信の転送レートが低いほど、通信範囲は広くなります。

メモ

- アンテナの近くに金属面や高密度の固体があると、無線デバイスの通信範囲に影響を及ぼすことがあります。
- 無線信号の伝送路上に無線信号を吸収または反射し得る"障害物"がある場合も、通信範囲に影響を与えます。

2 サポートする周波数帯域

無線 LAN がサポートする 2.4GHz 帯のチャネルは、国／地域内で適用される無線規制によって異なる場合があります（表「無線 IEEE802.11 チャネルセット」参照）。

各地域で適用される無線規制については、「本節 5 お客様に対するお知らせ」を確認してください。

【無線 IEEE802.11 チャネルセット】

周波数帯域	2400-2497 MHz
チャネルID	
1	2412
2	2417
3	2422
4	2427
5	2432
6	2437
7	2442
8	2447
9	2452
10	2457 *1
11	2462
12	2467 *2
13	2472 *2
14	2484 *2

* 1 購入時に設定されているチャネルです。

* 2 これらのチャネルが使用可能かどうかは、使用する無線 LAN モジュールによって異なります。使用可能チャネルについては、同梱の『ご使用できる国／地域について』を参照してください。

無線 LAN をインストールする場合、チャネル設定は、次のように管理されます。

- インフラストラクチャで無線 LAN 接続する場合、ステーションが自動的に無線 LAN アクセスポイントのチャネルに切り替えます。異なるアクセスポイント間をローミングする場合は、ステーションが必要に応じて自動的にチャネルを切り替えます。無線 LAN アクセスポイントの設定チャネルもこの範囲にする必要があります。
- "アドホック" モードで無線 LAN 接続する場合は、チャネル 10 が使用されます。

3 本製品を日本でお使いの場合のご注意

日本では、本製品を第二世代小電力データ通信システムに位置付けており、その使用周波数帯は2,400MHz～2,483.5MHzです。この周波数帯は、移動体識別装置（移動体識別用構内無線局及び移動体識別用特定小電力無線局）の使用周波数帯2,427MHz～2,470.75MHzと重複しています。

【1. ステッカー】

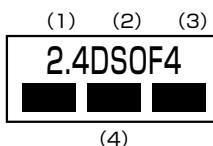
本製品を日本国内にてご使用の際には、本製品に同梱されている次のステッカーをパソコン本体に貼付ください。

この機器の使用周波数帯は 2.4GHz帯です。この周波数では電子レンジ等の産業・科学・医療機器のほか、他の同種無線局、工場の製造ライン等で使用されている免許を要する移動体識別用の構内無線局、免許を要しない特定小電力無線局、アマチュア無線局等（以下「他の無線局」と略す）が運用されています。

1. この機器を使用する前に、近くで「他の無線局」が運用されていないことを確認してください。
2. 万一、この機器と「他の無線局」との間に電波干渉が発生した場合には、速やかにこの機器の使用チャンネルを変更するか、使用場所を変えるか、又は機器の運用を停止（電波の発射を停止）してください。
3. その他、電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、東芝PCダイヤルへお問い合わせください。

【2. 現品表示】

本製品と梱包箱には、次に示す現品表示が記載されています。



- (1) 2.4 : 2,400MHz帯を使用する無線設備を表す。
- (2) DS : 变調方式が DS-SS 方式であることを示す。
- OF : 变調方式が OFDM 方式であることを示す。
- (3) 4 : 想定される与干涉距離が 40m 以下であることを示す。
- (4) ■ ■ ■ : 2,400MHz～2,483.5MHz の全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避可能であることを意味する。

【3. 東芝 PC ダイヤル】

受付時間 : 9:00～19:00（年中無休）
ナビダイヤル : 0570-00-3100

4 機器認証表示について

本製品には、電波法及び電気通信事業法に基づく小電力データ通信システムの無線局として、以下の認証を受けた無線設備を内蔵しています。したがって、本製品を使用するときに無線局の免許は必要ありません。

無線設備名：WM3B2200BG

株式会社 ディーエスピーリサーチ

認証番号：003NY03120,

D03-0064JPB

本製品に組み込まれた無線設備は、本製品（ノートブックコンピュータ）に実装して使用することを前提に、小電力データ通信システムの無線局として工事設計の認証を取得しています。したがって、組み込まれた無線設備を他の機器へ流用した場合、電波法の規定に抵触する恐れがありますので、十分にご注意ください。

5 お客様に対するお知らせ

【無線製品の相互運用性】

Intel(R) PRO/Wireless 2200BG Network Connection 製品は、Direct Sequence Spread Spectrum (DSSS) ／ Orthogonal Frequency Division Multiplexing (OFDM) 無線技術を使用するあらゆる無線 LAN 製品と相互運用できるように設計されており、次の規格に準拠しています。

- Institute of Electrical and Electronics Engineers (米国電気電子技術者協会) 策定の IEEE802.11 Standard on Wireless LANs(Revision B/G) (無線 LAN 標準規格(版数 B/G))
- Wi-Fi Alliance の定義する Wireless Fidelity (Wi-Fi) 認証

【健康への影響】

Intel(R) PRO/Wireless 2200BG Network Connection 製品はほかの無線製品と同様、無線周波の電磁エネルギーを放出します。しかしその放出エネルギーは、携帯電話などの無線機器と比べるとはるかに低いレベルに抑えられています。

Intel(R) PRO/Wireless 2200BG Network Connection 製品の動作は無線周波に関する安全基準と勧告に記載のガイドラインにそっており、安全にお使いいただけるものと東芝では確信しております。この安全基準および勧告には、学会の共通見解と、多岐にわたる研究報告書を継続的に審査、検討している専門家の委員会による審議結果がまとめられています。

ただし周囲の状況や環境によっては、建物の所有者または組織の責任者が Wireless LAN の使用を制限する場合があります。次にその例を示します。

- 飛行機の中で Wireless LAN 装置を使用する場合
- ほかの装置類またはサービスへの電波干渉が認められるか、有害であると判断される場合

個々の組織または環境（空港など）において無線機器の使用に関する方針がよくわからない場合は、Wireless LAN 装置の電源を入れる前に、管理者に使用の可否について確認してください。

【規制に関する情報】

Intel(R) PRO/Wireless 2200BG Network Connection 製品のインストールと使用に際しては、必ず製品付属のマニュアルに記載されている製造元の指示に従ってください。本製品は、次に示す無線周波基準と安全基準に準拠しています。

● Canada - Industry Canada (IC)

This device complies with RSS 210 of Industry Canada.

Operation is subject to the following two conditions: (1) this device may not cause interference , and (2) this device must accept any interference, including interference that may cause undesired operation of this device."

L ' utilisation de ce dispositif est autorisée seulement aux conditions suivantes : (1) il ne doit pas produire de brouillage et (2) l ' utilisateur du dispositif doit être prêt à accepter tout brouillage radioélectrique reçu, même si ce brouillage est susceptible de compromettre le fonctionnement du dispositif.

To reduce potential radio interference to other users, the antenna type and its gain should be so chosen that the equivalent isotropically radiated power (EIRP) is not more than that required for successful communication.

To prevent radio interference to the licensed service, this device is intended to be operated indoors and away from windows to provide maximum shielding. Equipment (or its transmit antenna) that is installed outdoors is subject to licensing.

Pour empêcher que cet appareil cause du brouillage au service faisant l'objet d'une licence, il doit être utilisé à l'intérieur et devrait être placé loin des fenêtres afin de fournir un écran de blindage maximal. Si le matériel (ou son antenne d'émission) est installé à l'extérieur, il doit faire l'objet d'une licence.

The term "IC" before the equipment certification number only signifies that the Industry Canada technical specifications were met.

● Europe - EU Declaration of Conformity

This device complies with the essential requirements of the R&TTE Directive 1999/5/EC with essential test suites as per standards:

België/
Belgique: For outdoor usage only channel 10 (2457 MHz) and 11 (2462MHz) is allowed.
For private usage outside buildings across public grounds over less than 300m no special registration with IBPT/BIPT is required. Registration to IBPT/BIPT is required for private usage outside buildings across public grounds over more than 300m. An IBPT/BIPT license is required for public usage outside building. For registration and license please contact IBPT/BIPT.

Gebruik buiten gebouw alleen op kanalen 10 (2457 MHz) en 11 (2462 MHz). Voor privé-gebruik buiten gebouw over publieke grond over afstand kleiner dan 300m geen registratie bij BIPT/IBPT nodig; voor gebruik over afstand groter dan 300m is wel registratie bij BIPT/IBPT nodig. Voor publiek gebruik buiten gebouwen is licentie van BIPT/IBPT verplicht. Voor registratie of licentie kunt u contact opnemen met BIPT.

L'utilisation en extérieur est autorisé sur le canal 10 (2457 MHz) et 11 (2462 MHz).

Dans le cas d'une utilisation privée, à l'extérieur d'un bâtiment, au-dessus d'un espace public, aucun enregistrement n'est nécessaire pour une distance de moins de 300m. Pour une distance supérieure à 300m un enregistrement auprès de l'IBPT est requise. Pour une utilisation publique à l'extérieur de bâtiments, une licence de l'IBPT est requise. Pour les enregistrements et licences, veuillez contacter l'IBPT.

Deutschland: License required for outdoor installations. Check with reseller for procedure to follow

Anmeldung im Outdoor-Bereich notwendig, aber nicht genehmigungspflichtig. Bitte mit Händler die Vorgehensweise abstimmen.

France: Restricted frequency band: only channels 10 and 11 (2457 MHz and 2462 MHz respectively) may be used in France. License required for every installation, indoor and outdoor installations. Please contact ART for procedure to follow.

Band de fréquence restreinte : seuls les canaux 10 à 11 (2457 et 2462 MHz respectivement) doivent être utilisés en France.

Toute utilisation, qu'elle soit intérieure ou extérieure, est soumise à autorisation. Vous pouvez contacter l'Autorité de Régulation des Télécommunications (<http://www.art-telecom.fr>) pour la procédure à suivre.

Italia: License required for indoor use. Use with outdoor installations not allowed

E'necessaria la concessione ministeriale anche per l'uso interno.

Verificare con i rivenditori la procedura da seguire. L'uso per installazione in esterni non e' permessa.

Nederland	License required for outdoor installations. Check with reseller for procedure to follow Licentie verplicht voor gebruik met buitenantennes. Neem contact op met verkoper voor juiste procedure
-----------	---

● USA-Federal Communications Commission(FCC)

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses, and can radiate radio frequency energy. If not installed and used in accordance with the instructions, it may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by tuning the equipment off and on, the user is encouraged to try and correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the distance between the equipment and the receiver.
- Connect the equipment to outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

TOSHIBA is not responsible for any radio or television interference caused by unauthorized modification of the devices included with this Intel(R) PRO/Wireless 2200BG Network Connection or the substitution or attachment of connecting cables and equipment other than specified by TOSHIBA.

The correction of interference caused by such unauthorized modification, substitution or attachment will be the responsibility of the user.

Caution: Exposure to Radio Frequency Radiation.

The radiated output power of the Intel(R) PRO/Wireless 2200BG Network Connection is far below the FCC radio frequency exposure limits. Nevertheless, the Intel(R) PRO/Wireless 2200BG Network Connection shall be used in such a manner that the potential for human contact during normal operation is minimized. The antenna(s) used in this device are located at the upper edge of the LCD screen, and this device has been tested as portable device as defined in Section 2.1093 of FCC rules when the LCD screen is rotated 180 degree and covered the keyboard area. In addition, Wireless LAN has been tested with Bluetooth transceiver for colocation requirements. This device and its antenna(s) must not be co-located or operating in conjunction with any other antenna or transmitter.

Refer to the Regulatory Statements as identified in the documentation that comes with those products for additional information.

The installer of this radio equipment must ensure that the antenna is located or pointed such that it does not emit RF field in excess of Health Canada limits for the general population; consult Safety Code 6, obtainable from Health Canada's website www.hc-sc.gc.ca/rpb.

● Taiwan

Article 14 Unless approved, for any model accredited low power radio frequency electric machinery, any company, trader or user shall not change the frequency, increase the power or change the features and functions of the original design.

Article 17 Any use of low power radio frequency electric machinery shall not affect the aviation safety and interfere with legal communications. In event that any interference is found, the use of such electric machinery shall be stopped immediately, and reusing of such products can be resumed until no interference occurs after improvement. The legal communications mentioned in the above item refer to radio communications operated in accordance with telecommunication laws and regulations.

Low power radio frequency electric machinery shall resist against interference from legal communications or from industrial, scientific and medical radio emission electric machinery.

さくいん

さくいん

A

AC アダプタの仕様 150

B

Battery LED 127

C

CD-ROM LED 56

CD の取り扱い 68

ConfigFree 90

D

Disk LED 52

DVD の取り扱い 68

I

i.LINK 対応機器の取り付け 114

i.LINK 対応機器の取りはずし 114

IEEE1394 対応機器の取り付け 114

IEEE1394 対応機器の

取りはずし 114

L

LAN アクティブ LED 77

LAN 機能 76

LAN ケーブルの接続 76

P

PC カードの取り付け 97

PC カードの取りはずし 97

R

RGB コネクタ 108

S

S-Video 出力コネクタ 102

SD Card LED 69

SD メモリカードのセット 70

SD メモリカードの取り出し 71

S 端子ケーブルの取り付け 102

S 端子ケーブルの取りはずし 107

T

TFT ワイド

カラー液晶ディスプレイ 46

TV チューナボックス 118

TV チューナボックスの仕様 150

U

USB 対応機器の取り付け 100

USB 対応機器の取りはずし 101

W

WEP 86

WinDVR 10

ア

アンインストール 143

イ

インストール 142

インフラストラクチャ

ネットワーク 83

エ

映像調整ユーティリティ 50

オ

オーディオケーブルの接続 117

カ

- 外形寸法図 151
外部ディスプレイの接続 108

キ

- 休止状態 137

ク

- クイックプレイ 17

シ

- 使用できる CD 60
使用できる乾電池 40

ス

- スタンバイ 136

セ

- 静電気について 120
製品仕様 148

ソ

- 増設メモリの取り付け 120
増設メモリの取りはずし 122

ツ

- 使っていないときの
充電保持時間 130

テ

- テレビに表示する 102
電源コードの仕様 150

ト

- 東芝 PC 診断ツール 123, 150
東芝省電力 134
時計用バッテリ 129
ドライバをインストールする 95

ハ

- バッテリ駆動で使用できる時間 130
バッテリ充電完了までの時間 130
バッテリの充電方法 129
バッテリパックの交換 132
バッテリを長持ちさせるには 131
パネルスイッチ機能 139

ヒ

- 表示可能色数 46
表示装置を切り替える 108

フ

- フォーマット (DVD-RAM) 64
プラグアンドプレイ 95

ヘ

- ヘッドホンの接続 116

メ

- メモリ容量の確認 123

モ

- モニタ入力端子 117

リ

リモコン	38
リモコンの各部名称	42
リモコンの使用範囲	38
リモコン用電池の取り付け	40
リモコン用電池の取りはずし	41
リリース情報	7
リンク LED	77

□

録音レベルの調整	54
----------------	----

ワ

ワイヤレス コミュニケーションLED	88
ワイヤレス コミュニケーションスイッチ	88

